

# 男女共同参画に関する 市民意識調査

令和元年 11 月

いわき市



# 目 次

I. 調査の概要	1
II. 調査結果の総括	10
III. 調査結果の分析	13
1. 普段の生活について	13
2. 結婚や出産について	54
3. 子育てについて	67
4. 仕事について	71
5. 女性の活躍推進について	78
6. 地域社会について	85
7. 介護について	91
8. 男女の人権について	97
9. 防災について	102
10. 社会参加について	103
11. 男女共同参画について	108

巻末資料：アンケート調査票

奥付



## I. 調査の概要

### 1. 調査目的

いわき市では、平成 28 年 3 月に策定した「第三次いわき市男女共同参画プラン」の計画期間が令和 2 年度で終了することに伴い、令和元年度から 2 年度にかけて新しいプランを策定することとしており、市民の男女共同参画に対する意識を把握し、第四次プラン策定の参考とするため、市民意識調査を実施することを目的とする。

### 2. 調査概要

対象者	市内全域に在住する満 20 歳以上の男女 2,000 人
抽出方法	住民台帳より無作為に抽出
回答数（回収率）	540 件 （27.0%）
調査期間	令和元年 8 月 1 日～8 月 23 日
調査方法	郵送によるアンケート
調査項目	合計：50 設問 ①自身の属性等について（問 1～問 11） ②普段の生活について（問 12～問 14） ③結婚や出産について（問 15～問 16） ④子育てについて（問 17～問 18） ⑤仕事について（問 19～問 24） ⑥女性の活躍推進について（問 25～問 30） ⑦地域社会について（問 31～問 35） ⑧介護について（問 36～問 39） ⑨男女の人権について（問 40～問 44） ⑩防災について（問 45） ⑪社会参加について（問 46～問 48） ⑫男女共同参画について（問 49） ⑬意見・要望

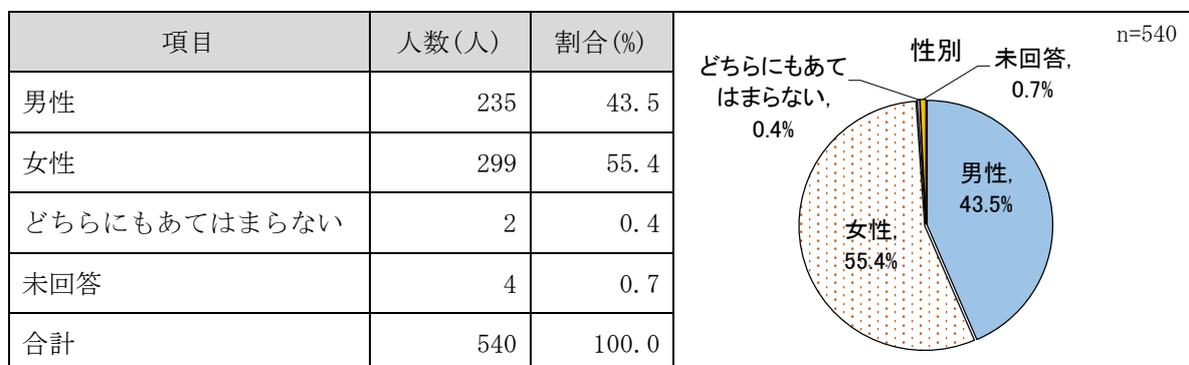
### 3. 数値の扱い、表記について

- 1) 回答者の割合（%）については、すべて百分率で表し、小数点第 2 位で四捨五入しているため、合計が 100%にならないことがある。
- 2) 結果グラフのうち複合グラフにおいては、煩雑を避けるため構成比が 3%未満の数値は非表示とする。
- 3) 複数回答の場合には、回答対象者数を母数としているため構成比の合計値が 100%を超える。
- 4) 「5 年前と比較」は、平成 26 年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」との比較を記載している。

## 4.回答者属性

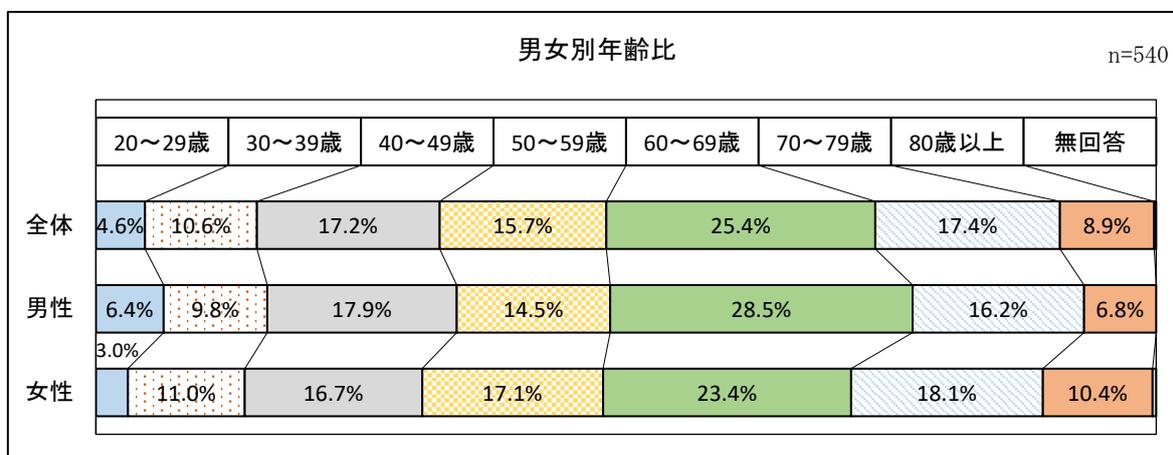
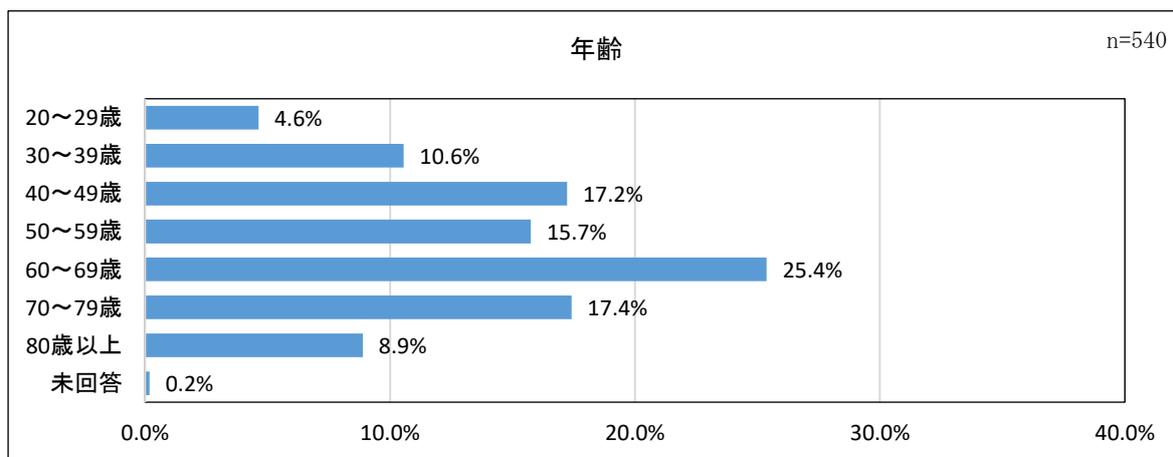
### 1) 性別 (問 1)

回答者 540 人についての性別は、「男性」が 43.5%、「女性」が 55.4%、「どちらにもあてはまらない」が 0.4%、「未回答」が 0.7%である。



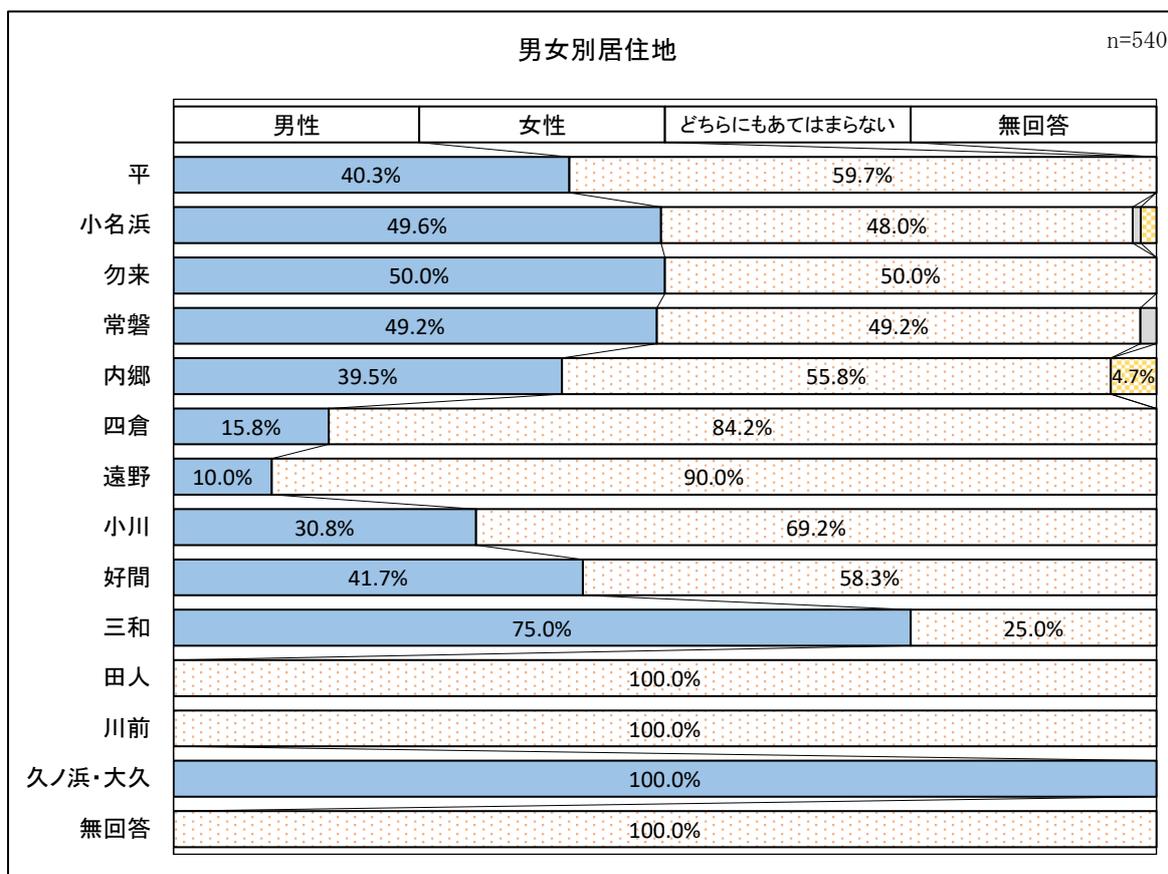
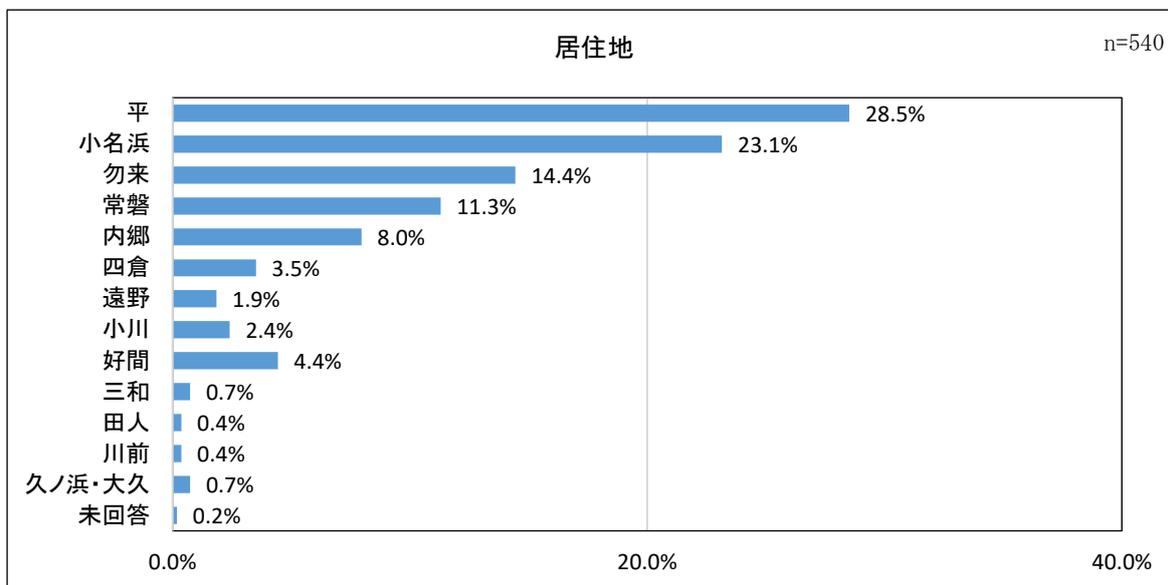
### 2) 年齢

回答者で最も多いのが「60～69歳」の 25.4%で、最も少ないのが「20～29歳」の 4.6%であり、男女別での比較では「60～69歳」の男性の 28.5%が最も多い。



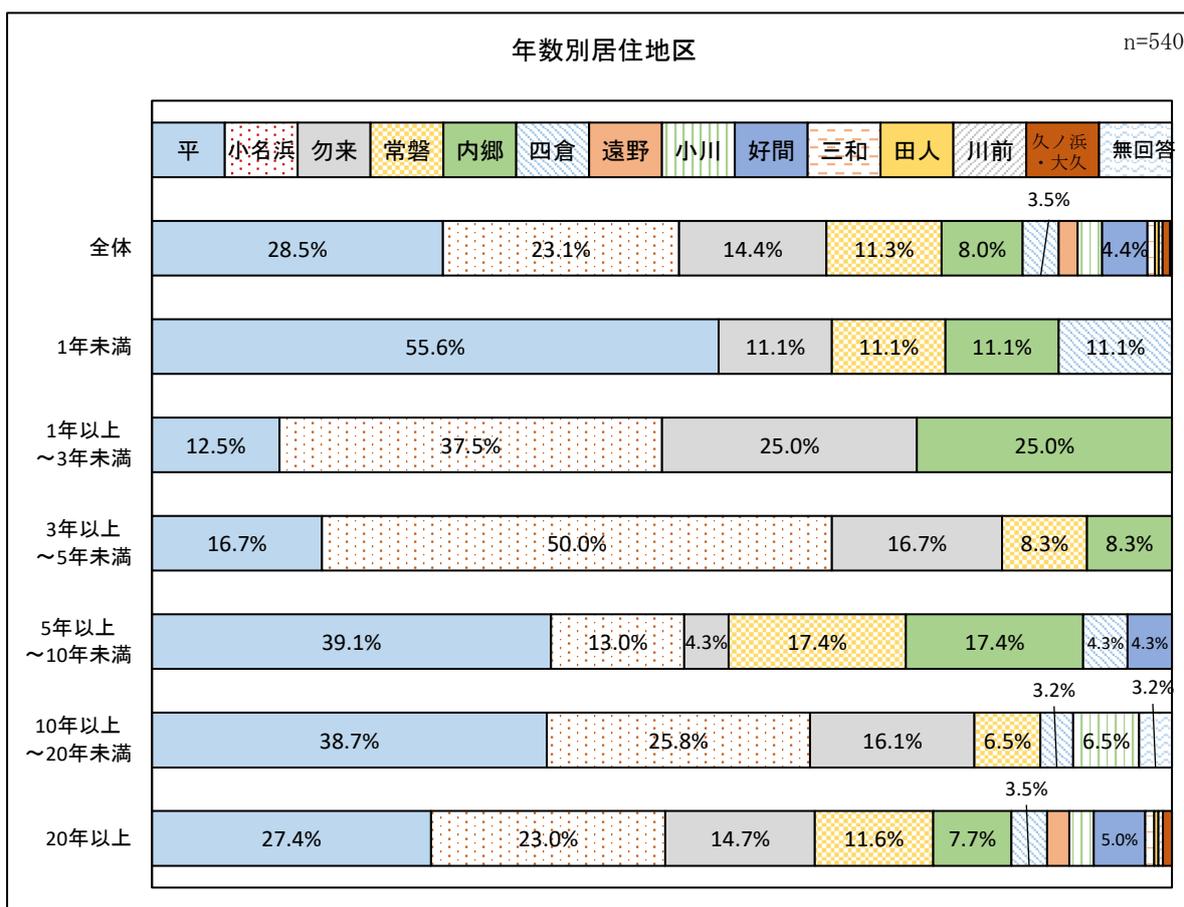
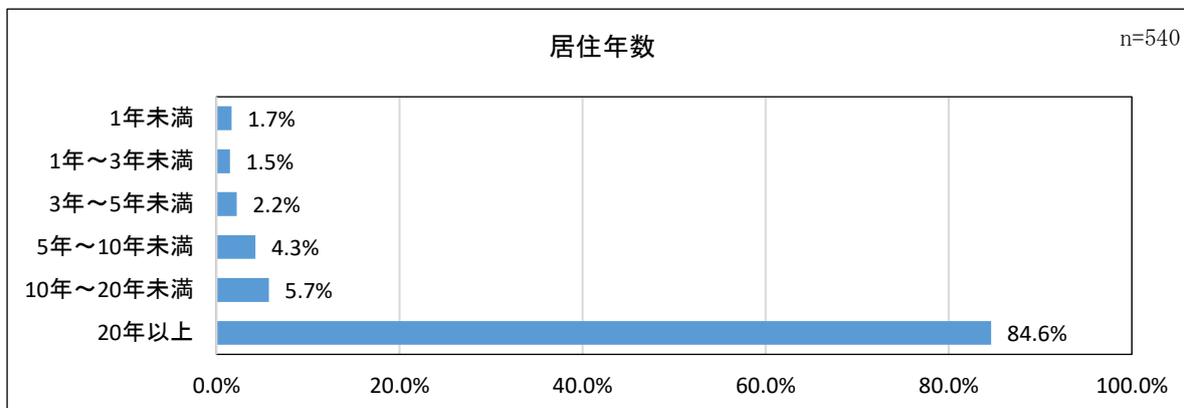
### 3) 居住地（問3）

回答者の居住地で最も多い地域は、「平」の28.5%、次いで「小名浜」の23.1%、「勿来」の14.4%と、現在のいわき市の地区別人口比率とほぼ同じ割合である。また、男女別で比較すると「平」では、男性が40.3%、女性が59.7%と女性の割合が多く、「小名浜」では、男性が49.6%、女性が48.0%と、ほぼ同じ割合となっている。



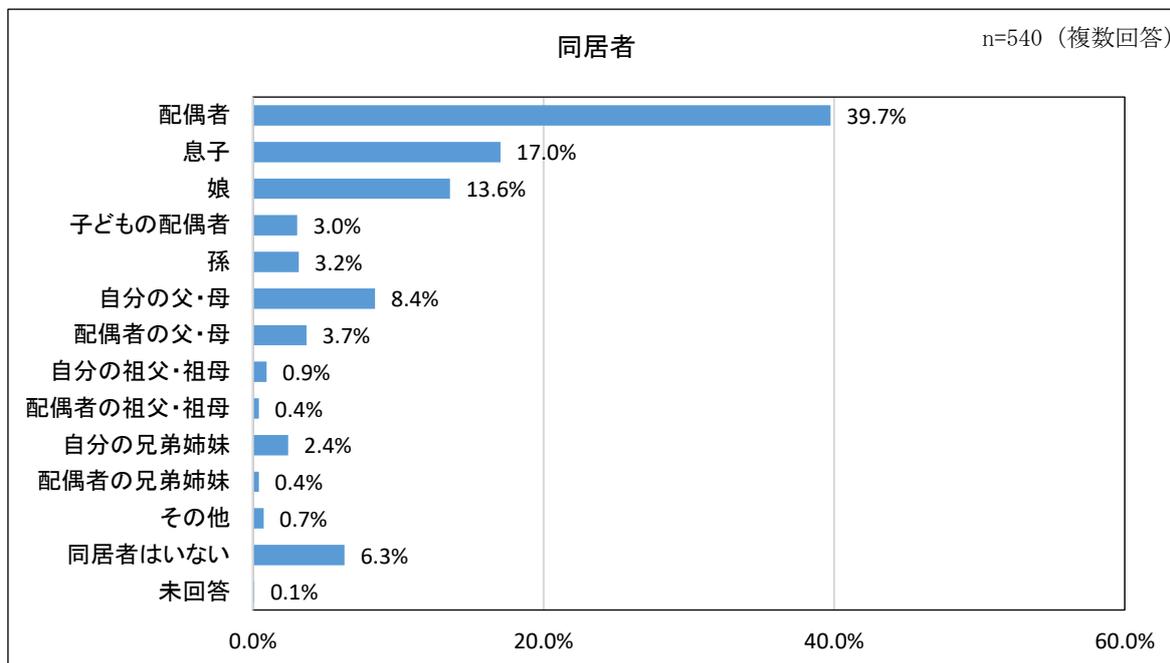
4) 居住年数 (問 4)

居住年数の割合は、「20年以上」の84.6%が最も多く、他の居住年数を大きく引き離している。また、居住年数別の地域では、「平地区」で「1年未満」の55.6%が最も多く、次いで「小名浜地区」での「3年以上5年未満」の50%と続く。



5) 同居者（問5）

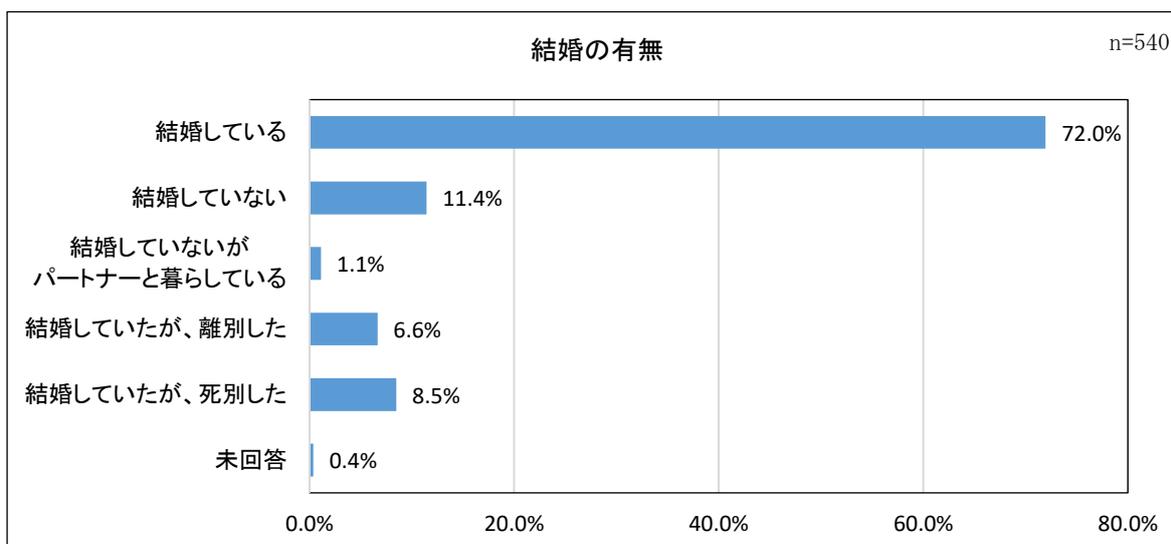
同居者の割合では、「配偶者」の39.7%が最も多く、次いで「息子」の17.0%であった。

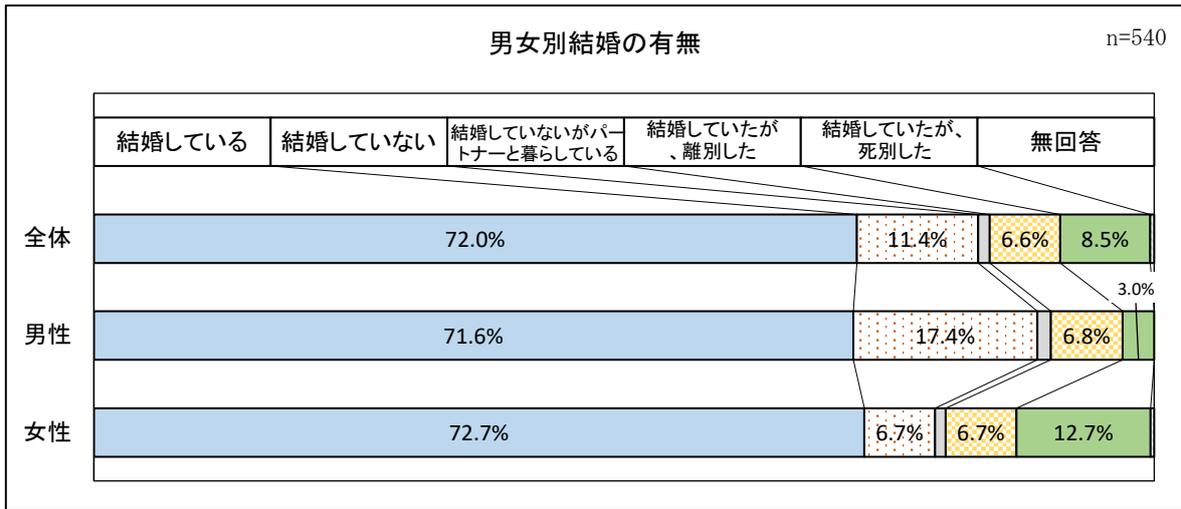


6) 結婚の有無（問6）

結婚の有無では、「結婚している」の回答が72.0%と最も多く、全体の7割以上を占めている。

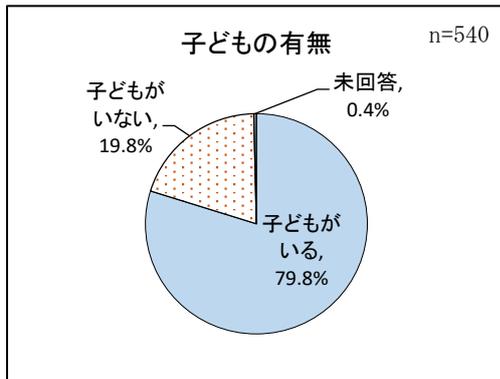
男女別で比較をすると、結婚しているとの回答割合は、男女ともにほとんど同じだが、「結婚していない」の回答においては、女性の6.7%に対し男性が17.4%となっている。





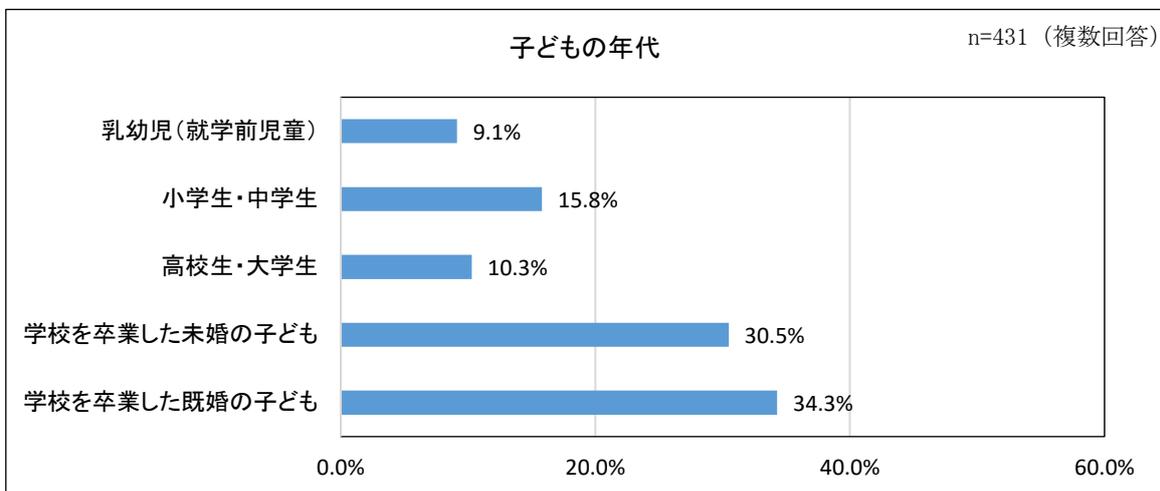
7) 子どもの有無 (問7)

「子どもがいる」の回答が全体の「79.8%」と8割を占めている。



8) 子どもの年代 (問8: 問7で「子どもがいる」と回答した方)

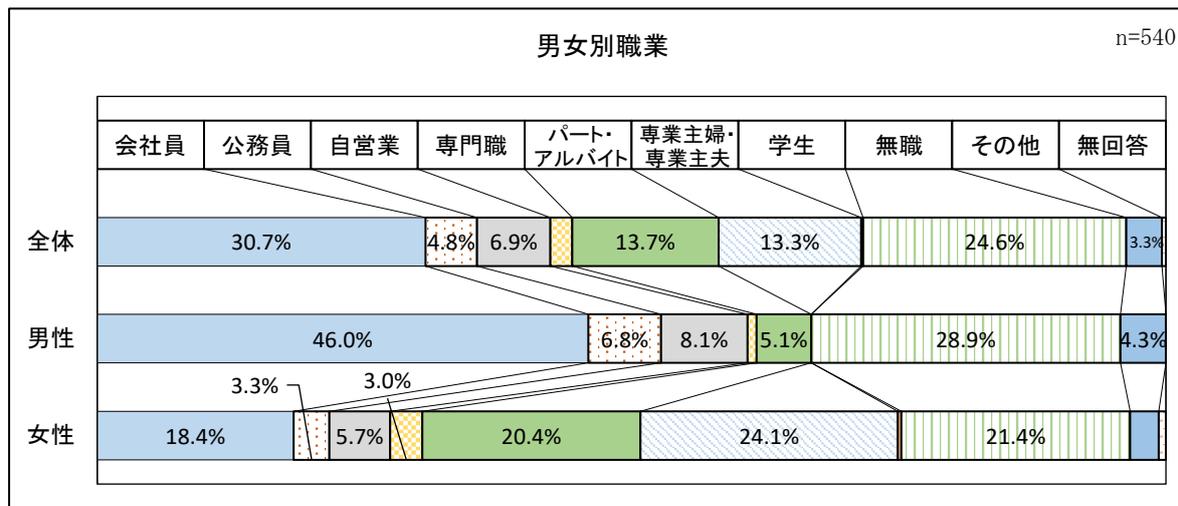
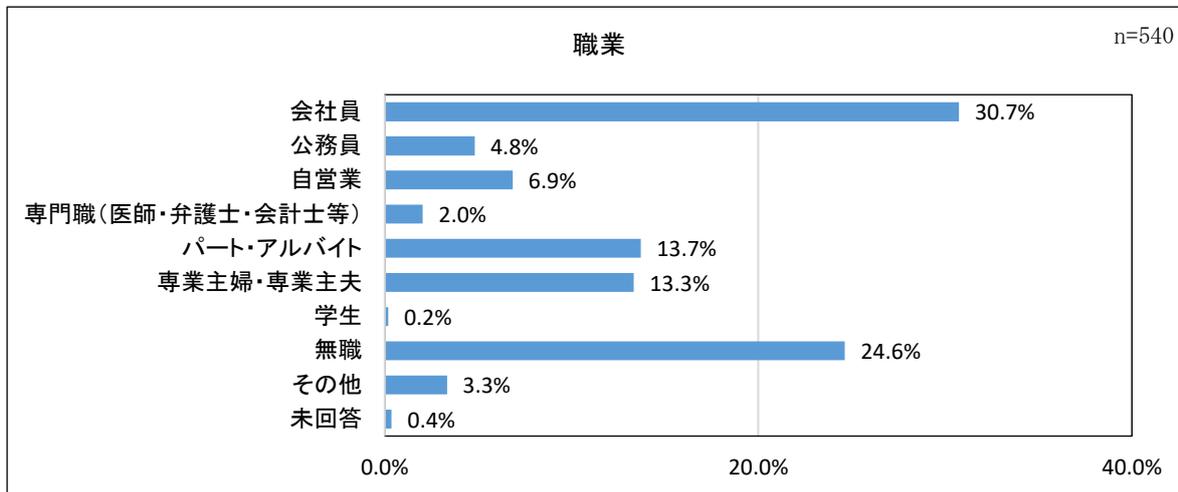
子どもの年代では、「学校を卒業した既婚の子ども」の割合が最も多く34.3%、次いで「学校を卒業した未婚の子ども」が30.5%と続く。



9) 職業 (問9)

職業については、「会社員」が30.7%と最も多く、次いで「無職」の24.6%、「パート・アルバイト」の13.7%、「専業主婦・専業主夫」の13.3%と続く。

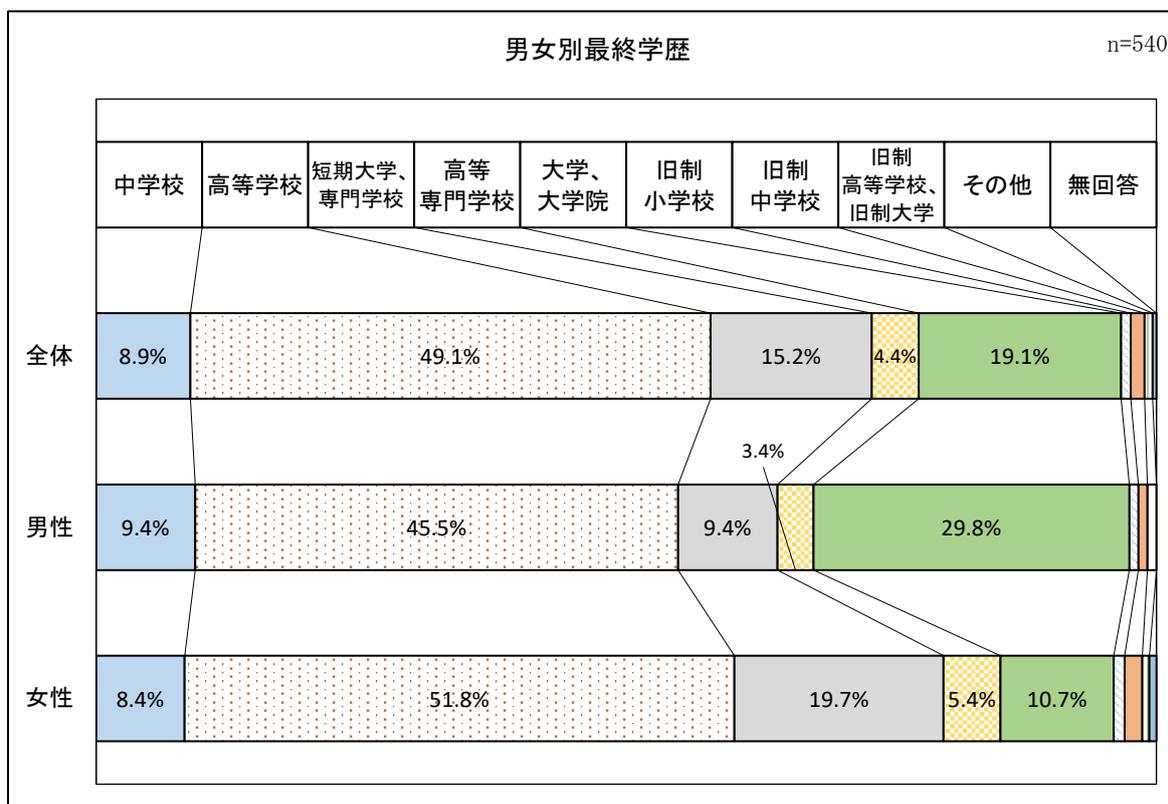
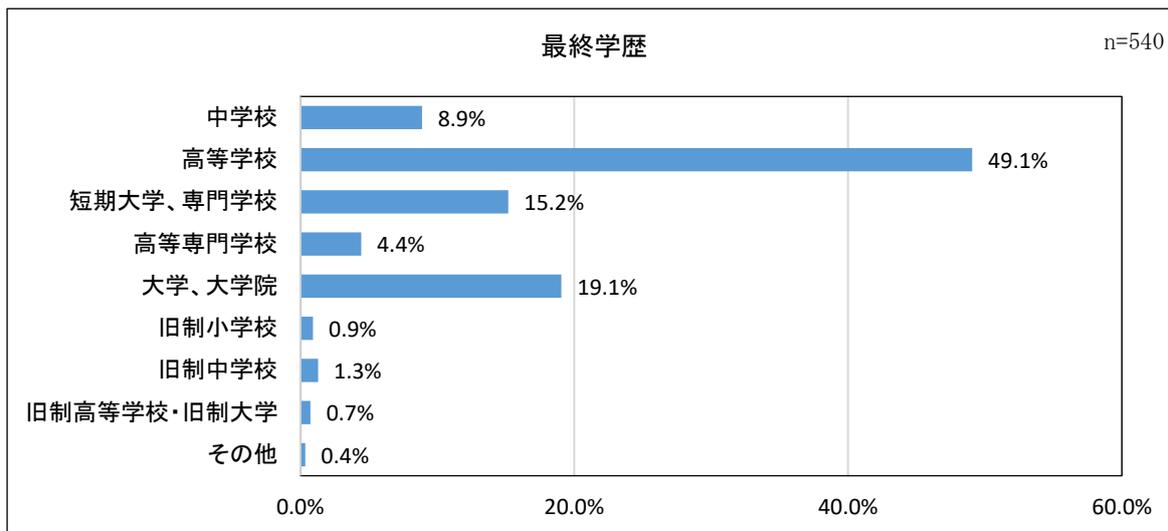
男女別での比較においては、男性は「会社員」の46.0%が最も多く、女性では「専業主婦・専業主夫」の24.1%が最も多かった。



10) 最終学歴（問 10）

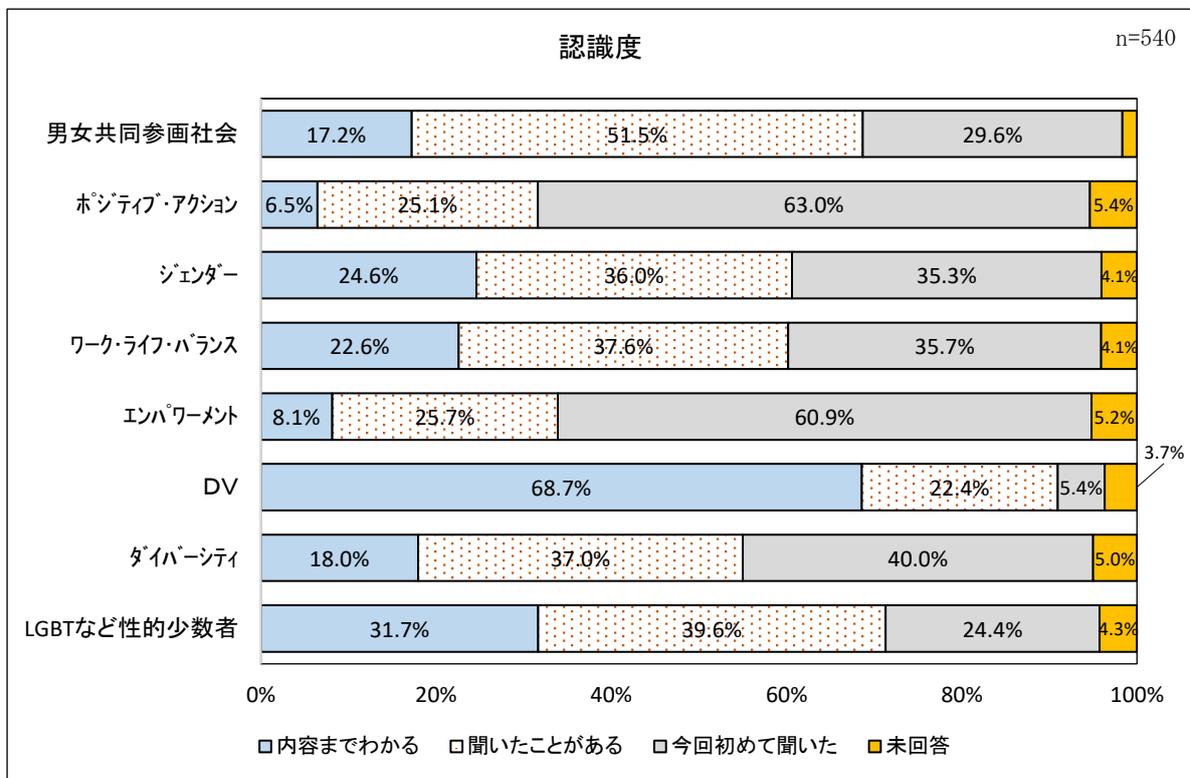
最終学歴では、「高等学校」の回答が最も多く、49.1%で約半数を占めており、次に多い「大学・大学院」の19.1%を大きく引き離している。

男女別で比較をすると、男女ともに約5割が「高等学校」を占めているが、男性では「大学・大学院」は29.8%と、女性の約3倍であり、女性では「短期大学、専門学校」が19.7%と、男性の2倍の割合となっている。



11) 男女共同参画関連言葉の認知度（問 11）

男女共同参画に関する言葉の認知度についての回答では、「DV」の「内容までわかる」が68.7%と最も多く、最も認知度が低いのは「ポジティブ・アクション」であり、63.0%が「今回初めて聞いた」と回答している。



## Ⅱ. 調査結果の総括

### 1. 回答者の属性について

今回の男女共同参画市民アンケート調査は、市内全域に在住する20歳以上の男女2,000人を無作為に抽出したが、回答者数540人中、勤労者と思われる20代から50代は260人、60代から80代は279人、回答者の男女比は、男性が235人(43.5%)、女性が299人(55.4%)となっている。

年代、男女の回答者数で大きな差は無いため、アンケートの設問について、あまり偏りが無く聞くことができたと思われる。

### 2. 普段の生活について

「家庭における役割分担」については、食事の準備・後片付け、掃除、洗濯、買い物、家計の管理、子育て、介護、地域行事の参加等についての関わり方を聞いたものだが、全ての項目において、男性の場合は『一部している > 全くしていない > 全部している』であり、女性は『全部している > ほとんどしている > 全くしていない』という構図となっている。

全項目において、70代女性の役割分担比率は高く、30代、40代男性の役割分担比率は低い傾向にあるが、全体を通して女性の役割分担の比率はかなり高い。

「男女の地位の平等」については、「平等である」の回答が多かったのは、「学校教育の場において」で、全体回答で39.7%となっている。

男女ともに「平等である」のは「学校教育の場」であり、男性の方が優遇されており「平等ではない」のは「政治の場」や「習慣やしきたり」との回答が出ている。

全項目において、「男性優遇」の回答割合が男女ともに多い。男性の回答が「平等」、「女性優遇」の割合が多くても、女性の回答は「男性優遇」の割合が多く、男女間で平等感の相違が出ている。

「生活における優先度」についての「現実」では、20代から50代の男女ともに「仕事」の回答が多いが、「理想」では、男女年代問わず「家族や家庭生活」や「個人の時間」と回答しており、「理想と現実」の違いが大きくでている。

### 3. 結婚や出産について

「結婚、離婚、出産」については、「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」の回答割合が最も多く、特に20代の女性では100%の回答となっている。

「結婚しても必ずしも子どもを持たなくてよい」では、年代が上がるにつれて、「そう思わない」の回答割合が高くなる。

「出生数の減少」については、男女とも偏った回答項目はなく、教育資金、未婚、仕事との両立の難しさ等、全項目にわたり選択され平均化している。

#### 4.子育てについて

「子どもの最終学歴」については、全体的に自分の子どもは（男の子・女の子とも）「大学」まで受けさせたいとの回答が最も多かった。ただし、子どもの意見を尊重するとしている。

「学校教育」においても、男女の回答にあまり相違はなく、「進路指導や職業教育において、男女問わず児童・生徒個人の希望や能力を重視して行う」が最も多かった。

#### 5.仕事について

「就業状況」については、半数以上が働いているの回答があり、理由は「生計を維持するため」が最も多い。

「退職」については、女性の約8割が退職を経験しており、理由は「結婚」、「出産・子育て」が多い。

「女性の仕事について」での回答で、男女とも「生涯にわたり、仕事をするのがよい」の回答割合が約半数となっているが、（わずかだが男性の回答割合の方が高い）家庭における役割分担では女性の負担が大きく、男性の「役割分担率」と「女性の働き方」の考えが反比例している傾向にある。

「夫婦がともに働き続けるため」については、男女ともに「男女とも育児休業・介護休業等を容易に取得できる職場環境の整備」で、働きやすい家庭環境とともに、職場の環境も整備する必要がある。

#### 6.女性の活躍推進について

「女性の社会進出」については、全体で「社会進出するべき」が7割を占めており、職種は「政治家（議員、首長）」に就くのが良いと考えている。

「女性の社会参画」では、「家事や子育て等において家庭内で役割分担を回り、家族の理解や協力を得る」の回答が最も多く、女性が社会進出、活躍するには、家族の理解と協力が必要と考えており、また、家族の理解とともに、職場の環境の整備（柔軟な働き方等）が必要との回答が多い。

#### 7.地域社会について

全体的に「参加している地域活動」の割合は少なく、3割から4割が参加していないと回答している。理由としては「あまり関心がない」、「時間的に余裕がない」が多い。

地域の中で、男女の差別や習慣についての回答では、「ないと思う」が約4割程度となっているが、「あると思う」との回答では、「自治会等の役員はほとんど男性が多い」、「家事・育児・介護は女性がやるものと決まっている」、「女性を蔑視した言葉」、「昔からの風習、習慣がある」等の意見が出ている。

#### 8.介護について

介護については、全体の8割が現在のところ「介護を要する人がいない」との回答で、「将来、家族が介護を要する状態」になった場合の介護方法としては、「訪問介護等の在宅福祉サ

ービスを利用しながら自宅で介護したい」が男女ともに4割程度の回答があった。

その場合の介護者として想定しているのは、「主に自分」と考えており、男性は25.0%、女性は47.7%と、女性の割合が男性の割合よりも多い。

「家族に介護が必要な人がいる場合の介護方法」としては「訪問介護等の在宅福祉サービスを利用しながら自宅で介護している」が最も多く、約4割程度となっている。

介護者としては、「主に自分が介護している」との回答が最も多いが、男性は25.0%、女性は40.3%と女性が多い。

「自分が介護を必要になった場合」の介護方法では、「介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けたい」が男女とも約半数程度の回答で最も多く、その時の介護者については、男性は「主に配偶者に介護して欲しい」が4割、女性は「自宅では介護されたくない」が3割となっており、男女での考えの相違が出ている。

女性は介護における役割についても、家庭における役割分担と同様に高い比率である。

## 9.男女の人権について

「ハラスメント」については、「受けたことや身近で見聞きしたことはない」の回答が半数以上と最も多い。

「受けたことがある」との回答者の相談先は「友人・知人・家族」が約4割程度となっているが、受けたことがあっても相談していない理由としては、「相談しても無駄」、「自分さえ我慢すればいい」が多く、「相談窓口がわからない」も1割あった。

「ハラスメント」や「LGBT」のような人権に関しての相談窓口の設置と、窓口の周知方法にも検討が必要と考える。

## 10.防災について

「防災活動に必要なこと」として、男女とも「女性や乳幼児等に配慮した避難所設備の確保」が最も多い回答であり、これは5年前と変わらず同じ傾向である。

## 11.社会参加について

積極的に社会参加するうえでは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」であり、生涯、健康であるためには「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」が必要との回答が多く、これは男女ともに同じ傾向である。

「男女共同参画の実現」については、「職場の環境整備」についての回答が多く、労働時間の短縮、子育て・介護の支援等の働き方の変革が必要であるとの回答が多い。

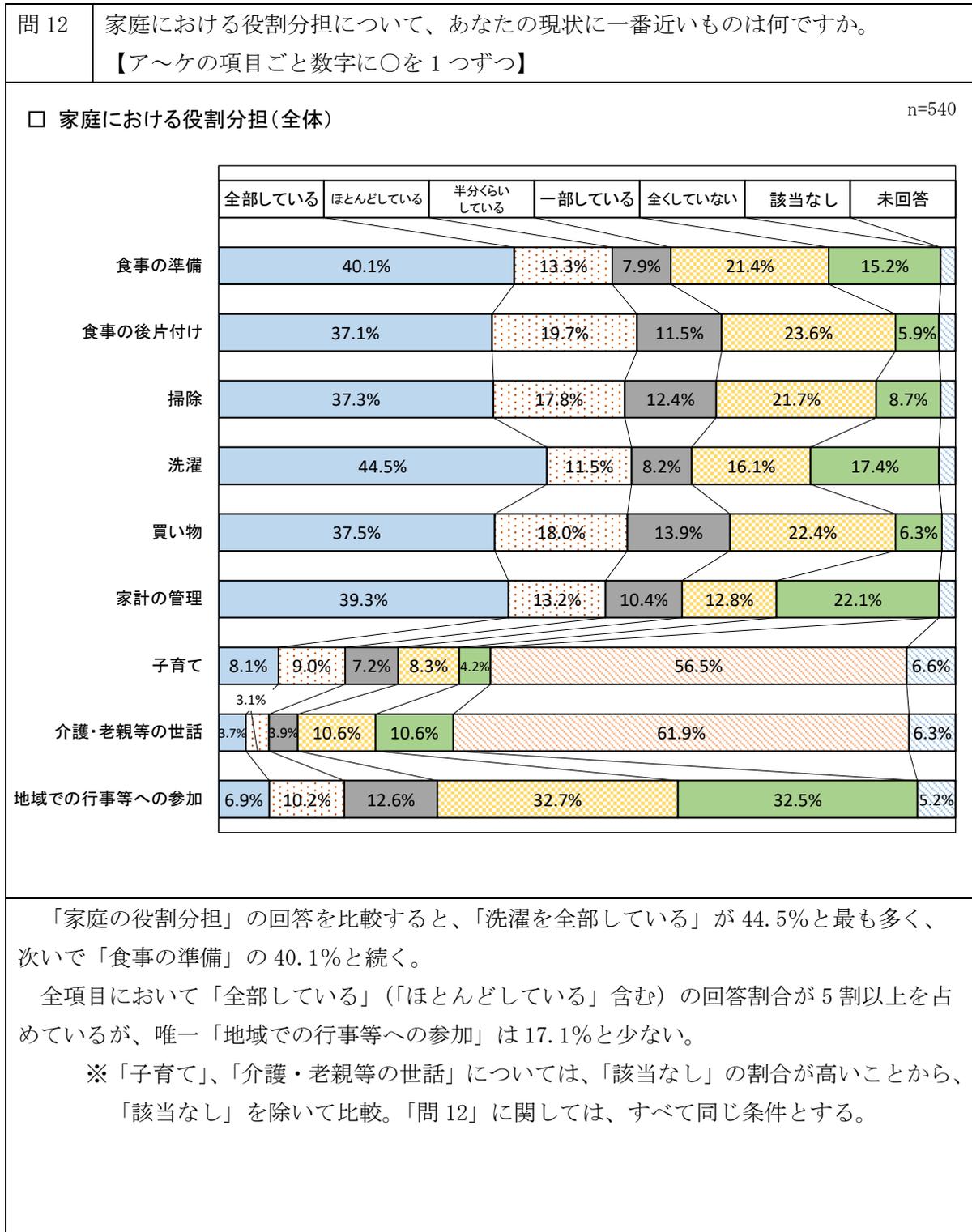
## 12.男女共同参画について

「男女共同参画」の取り組みについての周知度は低く、特に「男女共同参画の日」については、「はじめて聞いた」が男女ともに7割以上を占めている。

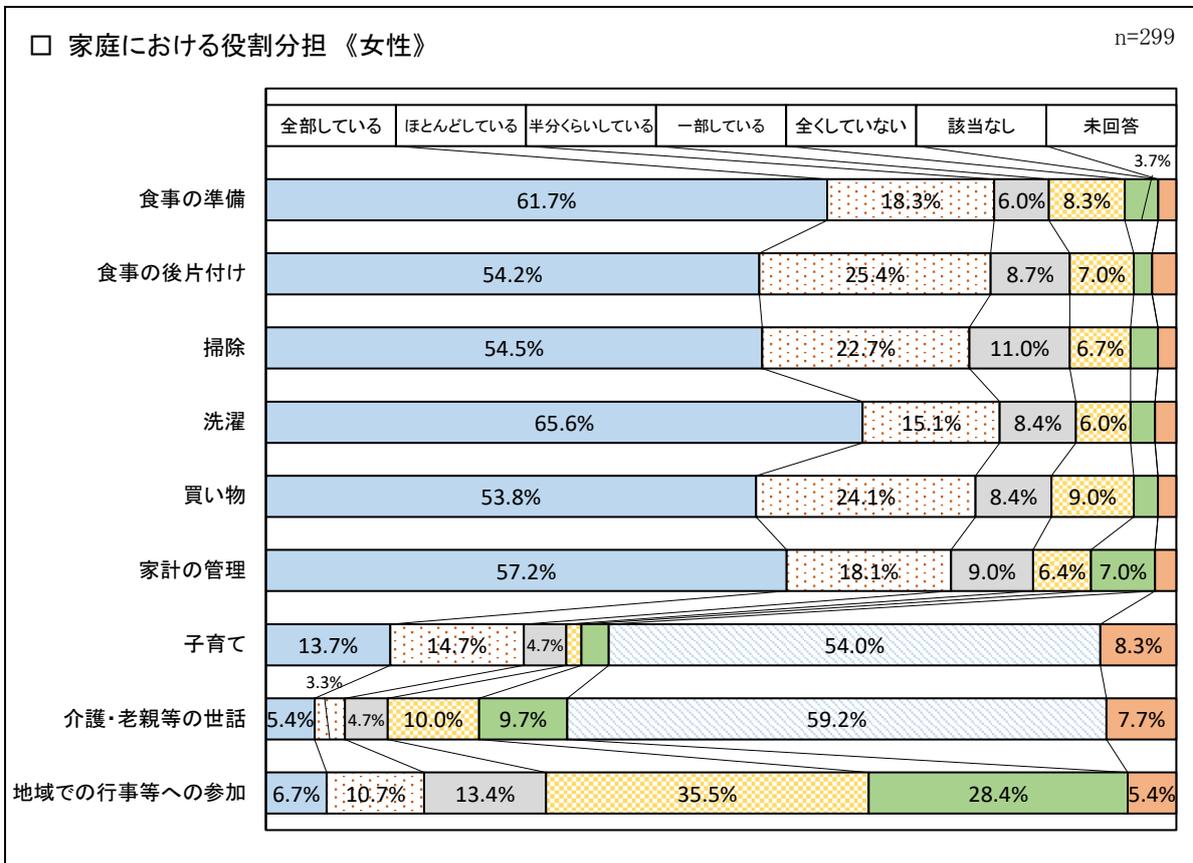
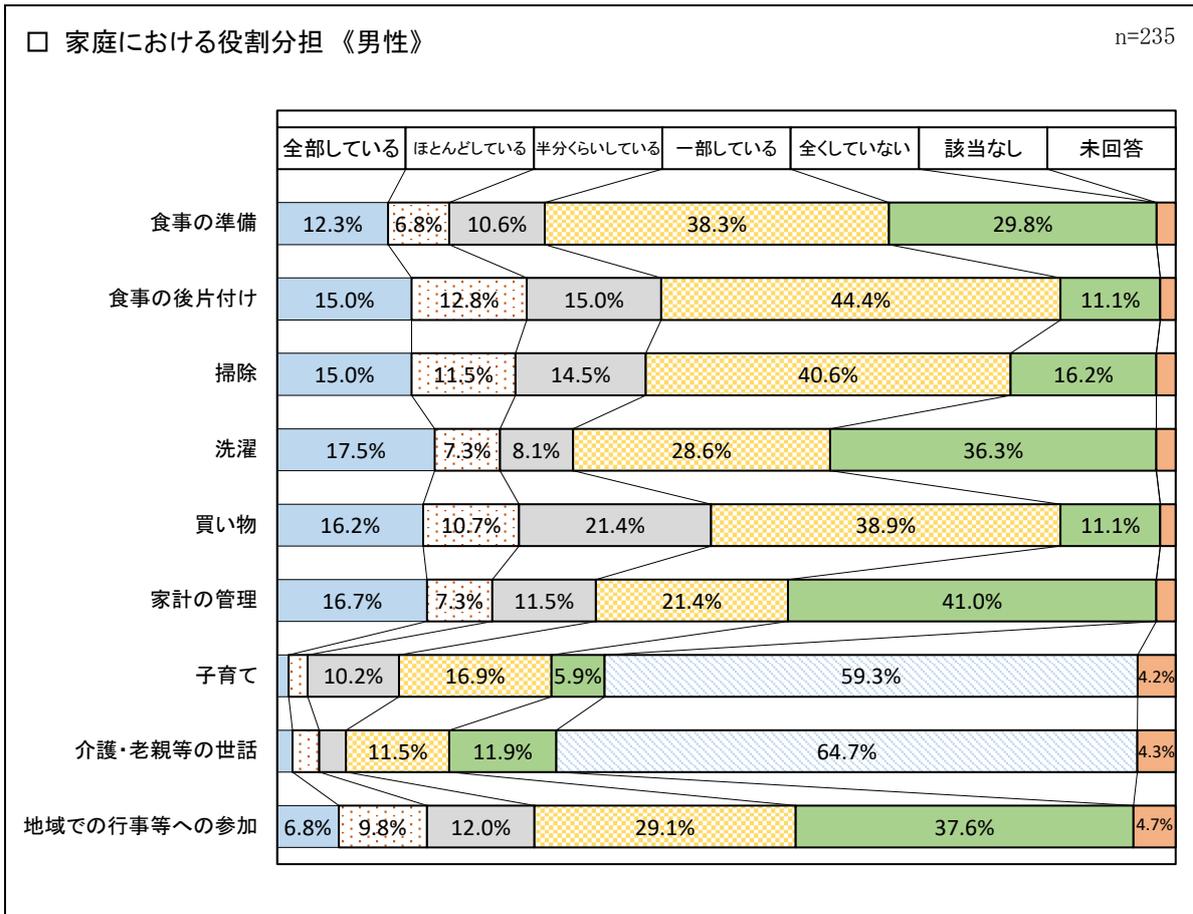
今後、男女平等、女性の社会進出等を推進するうえでも、「男女共同参画」の取り組みを多くの市民に周知する必要があると思われる。

### Ⅲ. 調査結果の分析

#### 1. 普段の生活について



1. 男女比で見る家庭における役割分担



## ■男性回答

「家庭における役割分担」で、最も多かった回答は「食事の後片付け」を「一部している」の44.4%で、次いで「家計の管理」を「全くしていない」の41.0%であった。

「食事の後片付け」については、「全部している」と回答している割合は15.0%で、「家計の管理」は16.7%となっている。

最も少ない回答は、「地域での行事等への参加」で「全部している」の6.8%であった。

全体的に、「一部している」と「全くしていない」の割合が高い。

## ■女性回答

「家庭における役割分担」の中で、最も多かった回答は「洗濯」を「全部している」の65.6%で、次いで「食事の準備」を「全部している」の61.7%と続く。

「食事の準備」、「食事の後片付け」、「掃除」、「洗濯」、「買い物」、「家計の管理」の項目については、「全部している」の割合が5割以上と高めになっており、「全くしていない」は1割に満たない。

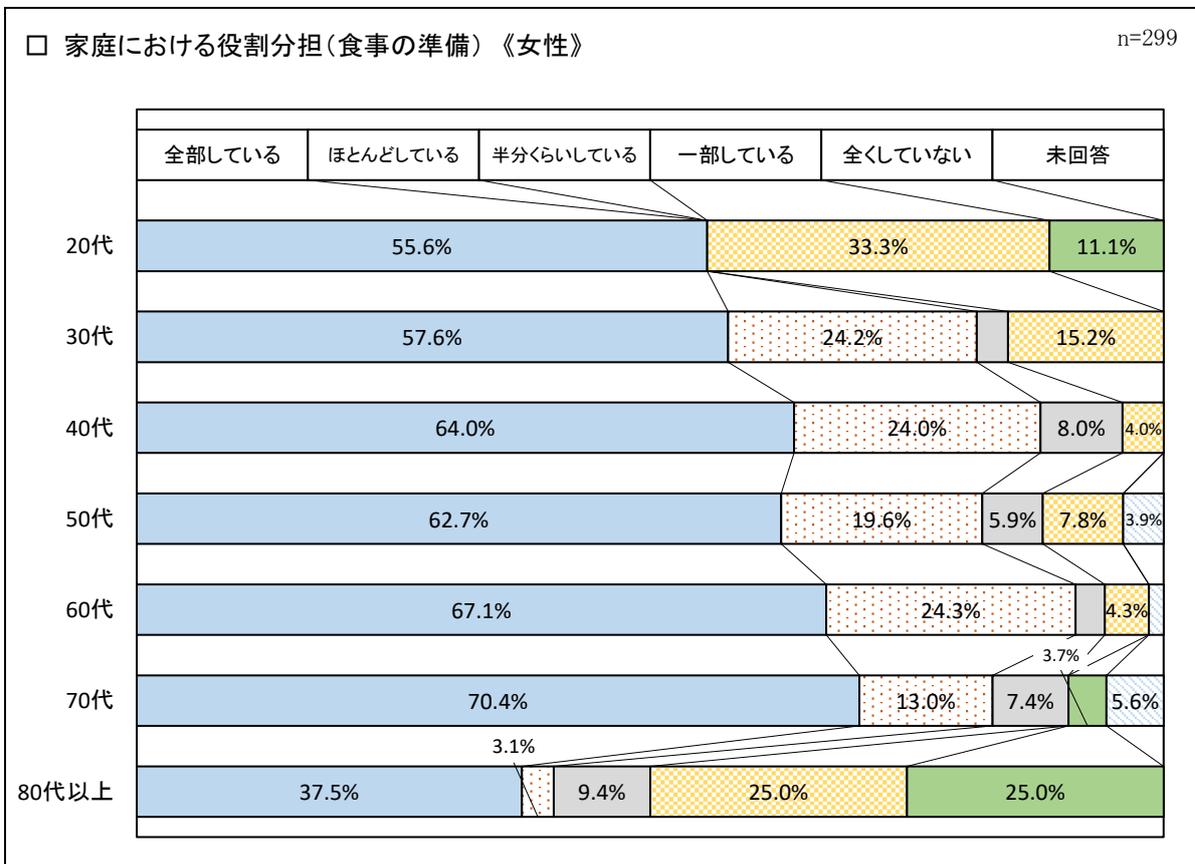
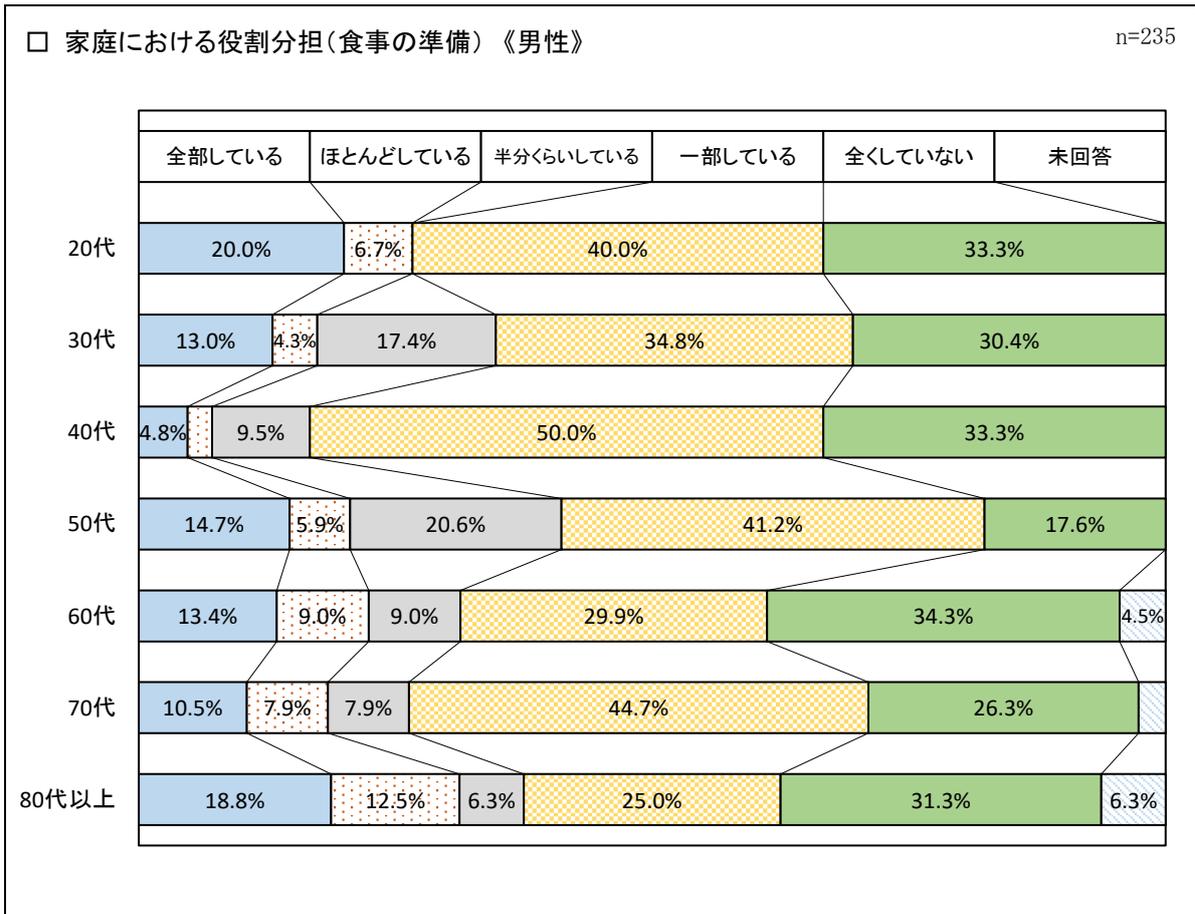
最も少ない回答は、男性と同じく「地域での行事等への参加」で「全部している」の6.7%であった。

「家庭における役割分担」では、「地域での行事等への参加」を除いて、「全部している」、「ほとんどしている」において、男性の2倍以上の割合となっている。

## ■家庭における役割分担（全体割合）

項目	全部している (%)	ほとんどしている (%)	半分くらいしている (%)	一部している (%)	全くしていない (%)	該当なし (%)	未回答 (%)	合計 (%)
食事の準備	40.1	13.3	7.9	21.4	15.2	-	2.0	100.0
食事の後片付け	37.1	19.7	11.5	23.6	5.9	-	2.2	100.0
掃除	37.3	17.8	12.4	21.7	8.7	-	2.0	100.0
洗濯	44.5	11.5	8.2	16.1	17.4	-	2.2	100.0
買い物	37.5	18.0	13.9	22.4	6.3	-	1.9	100.0
家計の管理	39.3	13.2	10.4	12.8	22.1	-	2.2	100.0
子育て	8.1	9.0	7.2	8.3	4.2	56.5	6.6	100.0
介護・老親等の世話	3.7	3.1	3.9	10.6	10.6	61.9	6.3	100.0
地域での行事等への参加	6.9	10.2	12.6	32.7	32.5	-	5.2	100.0

① 男女・年代別でみる役割分担（食事の準備）



## ■男性回答

「食事の準備」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「40代」の「一部している」が50.0%で、次いで、「70代」の44.7%と続く。

最も少ない回答は、「40代」の「ほとんどしている」の2.4%であるが、40代の男性においては、他の年代と比べて家庭の役割分担の負担が少ない傾向にある。

## ■女性回答

「食事の準備」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「70代」の「全部している」が70.4%、次いで「60代」の67.1%と続く。20代から70代において、「全部している」の割合が年代が上がるにつれて、段々高くなる傾向にある。

全体的に、「全部している」、「ほとんどしている」の割合が多く、特に30代から70代においては、8割以上が当てはまる。

男性の回答で「全部している」「ほとんどしている」の割合が少ないことを鑑みても、この傾向が当てはまる。

## ■5年前との比較

### ○食事の準備

男性では、「全くしていない」の割合が低下し、「全部している」、「ほとんどしている」、「半分くらいしている」の割合が上昇している。

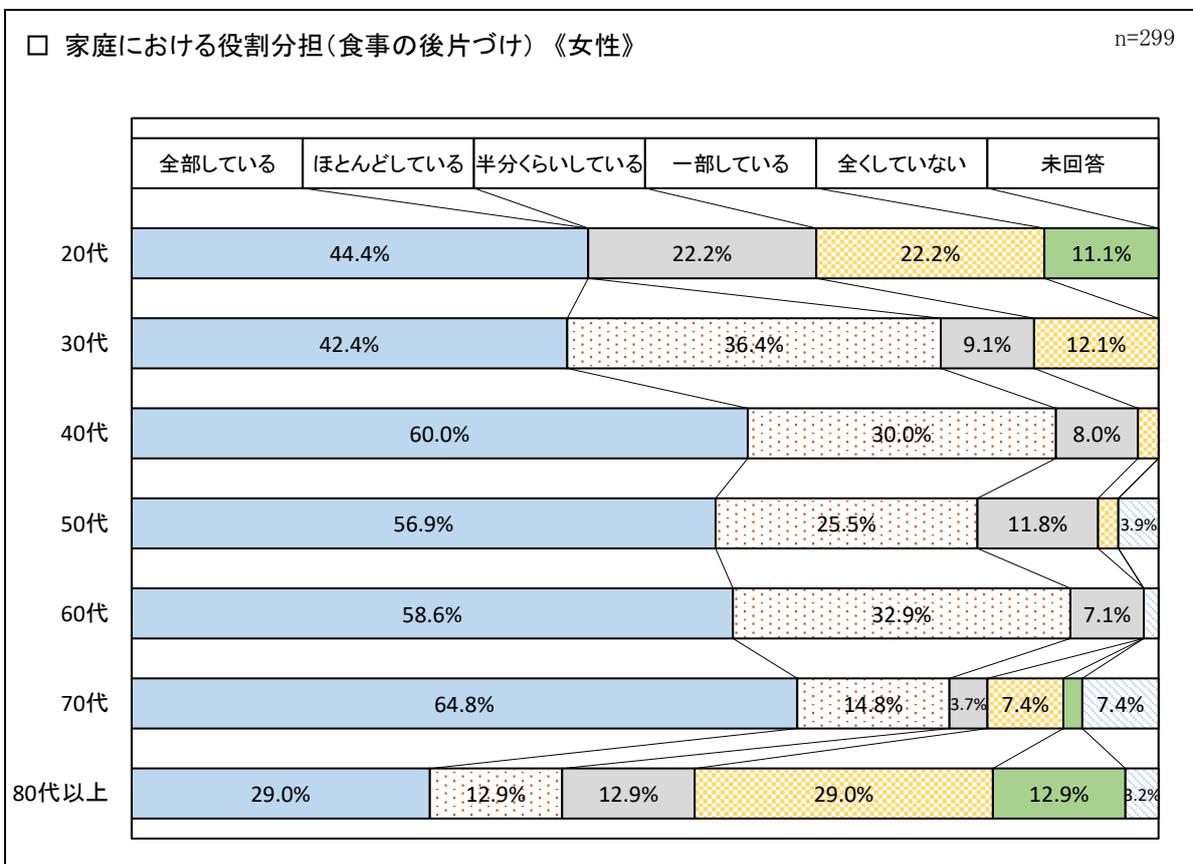
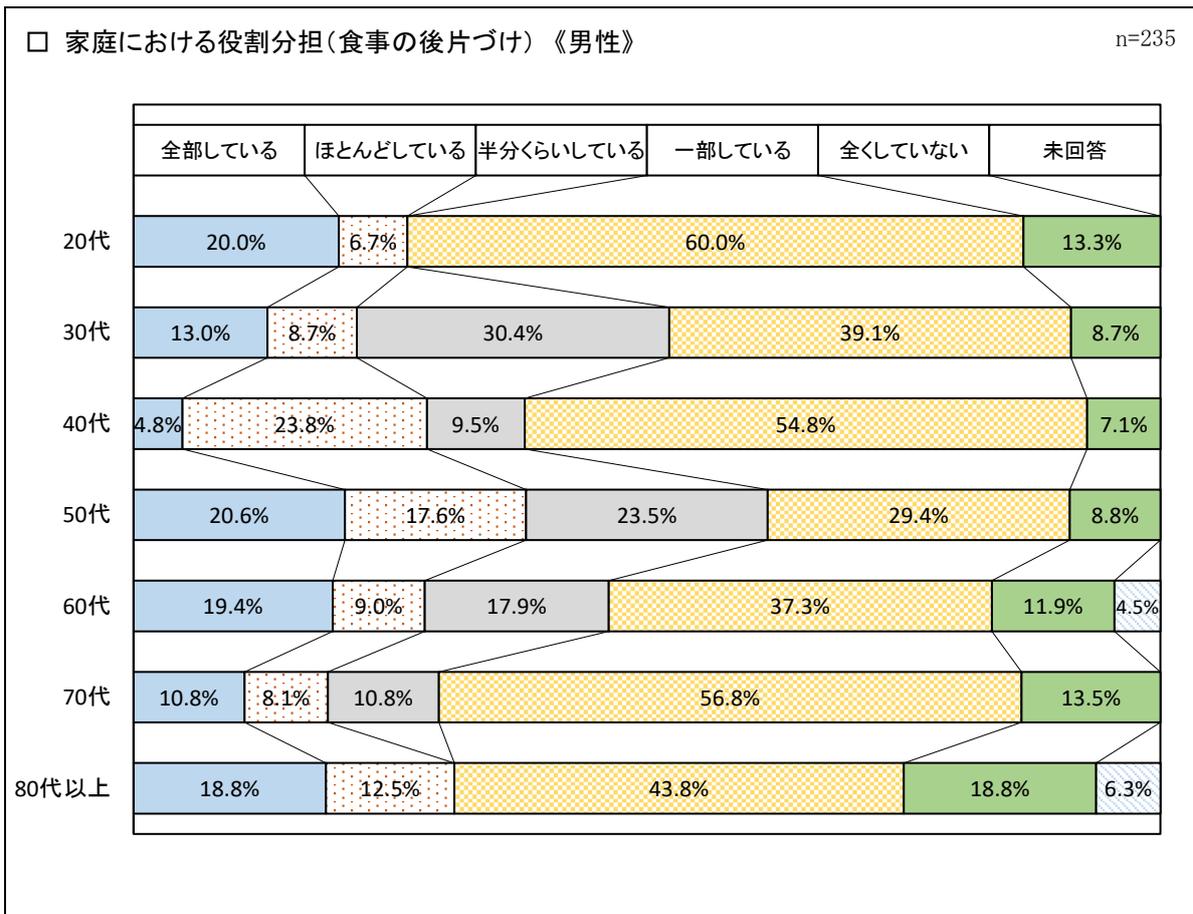
女性では、「全くしていない」の割合が低下し、「全部している」の割合が上昇している。

## ■男女年代別比較

「全部している」 ⇔ 「全くしていない」

項目	全部している		全くしていない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	20.0	55.6	33.3	11.1
30代	13.0	57.6	30.4	0.0
40代	4.8	64.0	33.3	0.0
50代	14.7	62.7	17.6	0.0
60代	13.4	67.1	34.3	0.0
70代	10.5	70.4	26.3	3.7
80代以上	18.8	37.5	31.3	25.0

②男女・年代別でみる役割分担（食事の後片付け）



## ■男性回答

「食事の後片付け」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「20代」の「一部している」で60.0%、次いで、「70代」の56.8%であった。

回答割合が最も少ないのは、「40代」の「全部している」で4.8%となっている。

全体的にみると、「一部している」の割合が全年代で多くを占めている。

## ■女性回答

「食事の後片付け」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「70代」の「全部している」で64.8%、次いで「40代」の60.0%と続く。

回答割合が最も少ないのは、「70代」で「全くしていない」の1.9%、次いで「50代」で「一部している」の2.0%であった。

全体的に「全部している」、「ほとんどしている」の割合が高く、30代から70代にかけては、8割を占めている。特に40代においては9割となっており、役割分担が少ない傾向にある40代男性の回答と比例している。

## ■5年前との比較

### ○食事の後片付け

男性では、「全くしていない」の割合が低下し、「全部している」、「ほとんどしている」の割合が上昇している。

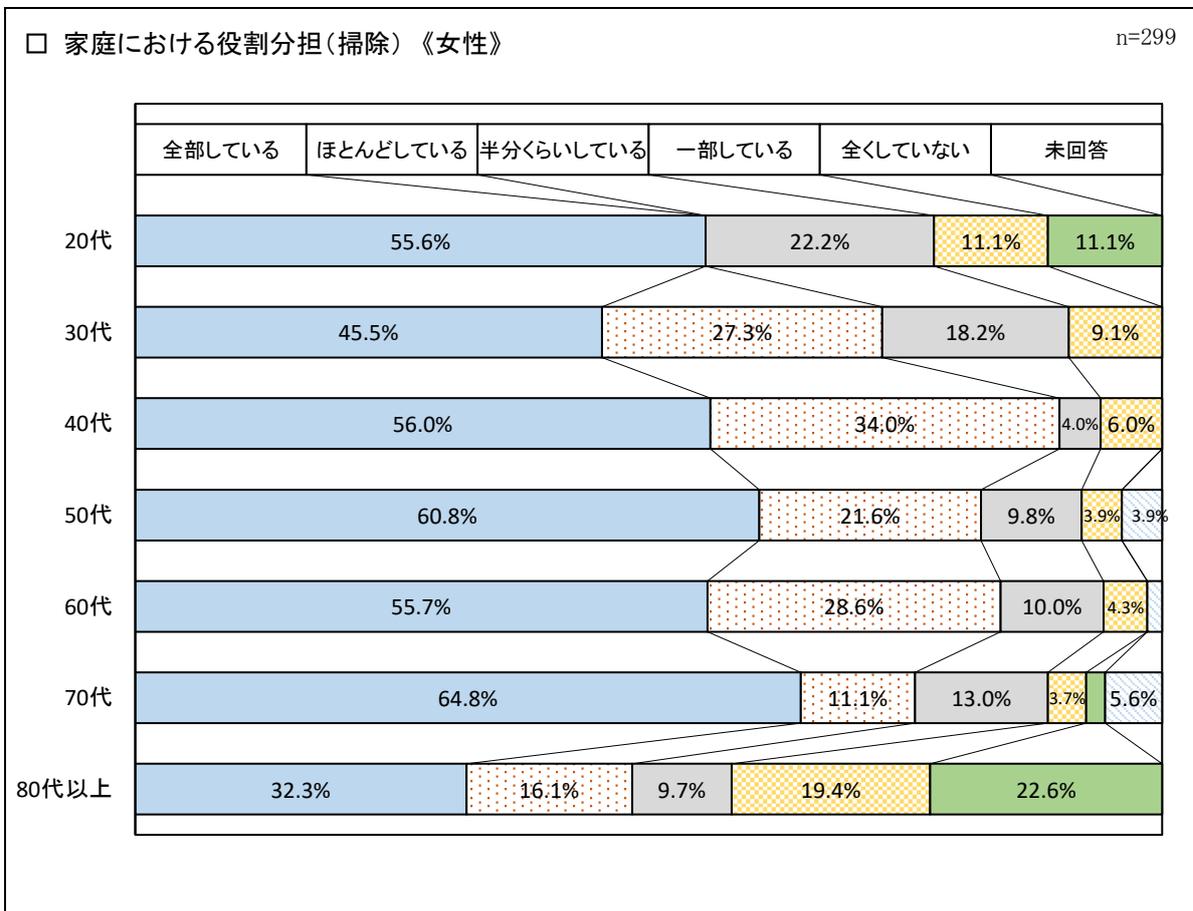
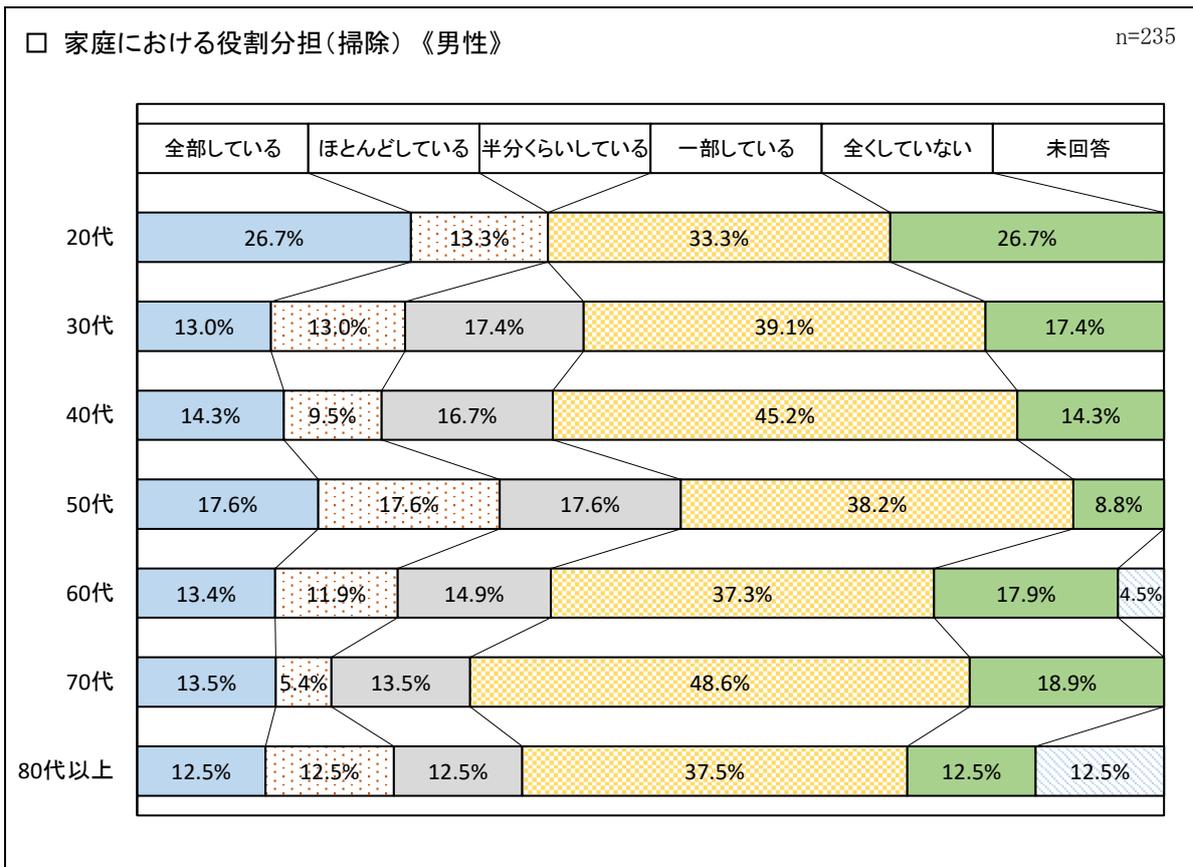
女性は、5年前と同じ傾向である。

## ■男女年代別比較

「全部している」 ⇔ 「全くしていない」

項目	全部している		全くしていない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	20.0	44.4	13.3	11.1
30代	13.0	42.4	8.7	0.0
40代	4.8	60.0	7.1	0.0
50代	20.6	56.9	8.8	0.0
60代	19.4	58.6	11.9	0.0
70代	10.8	64.8	13.5	1.9
80代以上	18.8	29.0	18.8	12.9

③男女・年代別でみる役割分担（掃除）



### ■男性回答

「掃除」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「70代」の「一部している」で48.6%、次いで「40代」の「一部している」で45.2%と続く。

全体的に「一部している」の割合が高く、全体の3割から4割を占めている。

最も回答が少ないのは、「70代」で「ほとんどしている」の5.4%となっている。

### ■女性回答

「掃除」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「70代」の「全部している」で64.8%、次いで「50代」の60.8%と続く。

「全部している」（「ほとんどしている」含む）の回答割合は、「40代」で90.0%、「50代」で82.4%となっており、30代から70代にかけては、7割から9割が「全部している」（「ほとんどしている」含む）と回答している。

最も回答が少ないのは、「70代」で「全くしていない」の1.9%となっている。

### ■5年前との比較

#### ○掃除

男性では、「全くしていない」の割合が低下し、「全部している」、「ほとんどしている」の割合が上昇している。

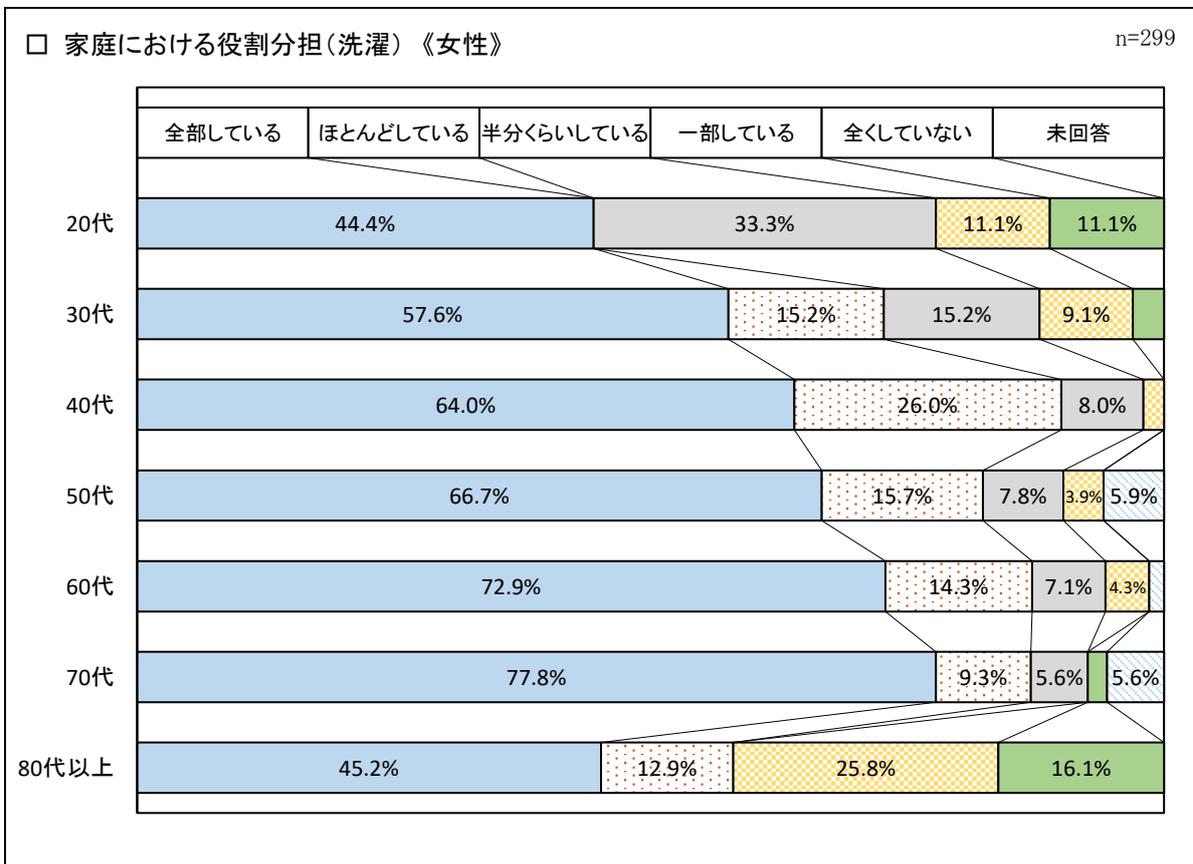
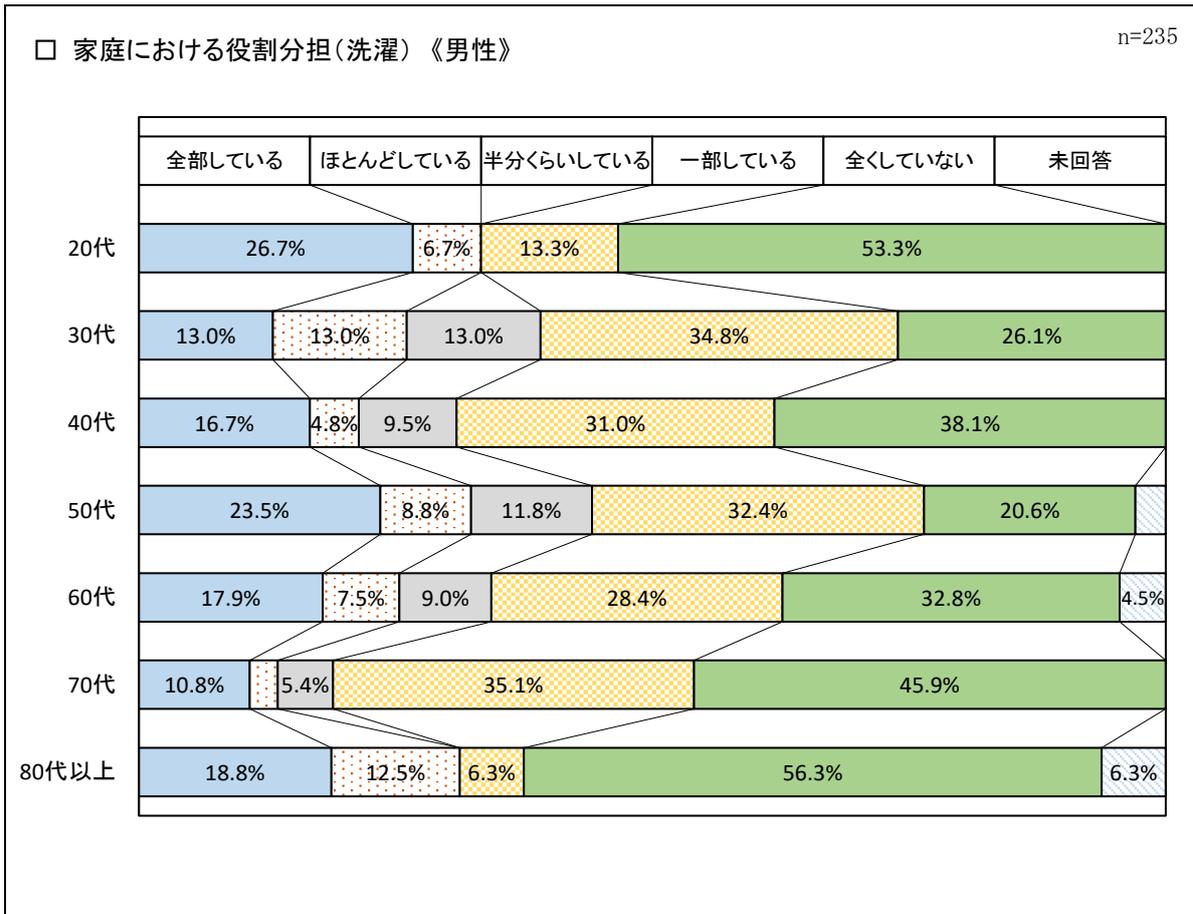
女性は、5年前と同じ傾向である。

### ■男女年代別比較

「全部している」 ⇔ 「全くしていない」

項目	全部している		全くしていない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	26.7	55.6	26.7	11.1
30代	13.0	45.5	17.4	0.0
40代	14.3	56.0	14.3	0.0
50代	17.6	60.8	808	0.0
60代	13.4	55.7	17.9	0.0
70代	13.5	64.8	18.9	1.9
80代以上	12.5	32.3	12.5	22.6

④男女・年代別でみる役割分担（洗濯）



### ■男性回答

「洗濯」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「80代以上」の「全くしていない」で56.3%、「20代」の53.3%と続く。

最も少ない回答は、「70代」で「ほとんどしている」の2.7%であった。

全体的に、30代と50代を除く年代で「全くしていない」の割合が3割から5割を占める。

### ■女性回答

「洗濯」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「70代」の「全部している」で77.8%、「60代」の72.9%と続く。

洗濯を「全部している」と回答した割合は、「20代」から「70代」にかけて、年代ごとに段々増えていく傾向にある。

「全部している」（「ほとんどしている」含む）では、「40代」で90.0%、「60代」で87.2%となっており、30代から70代の年代においては、7割から9割を占める。

全体的に女性の方が、かなり高い割合となっている。

### ■5年前との比較

#### ○洗濯

男性では、「全くしていない」の割合が低下し、「全部している」の割合が上昇している。

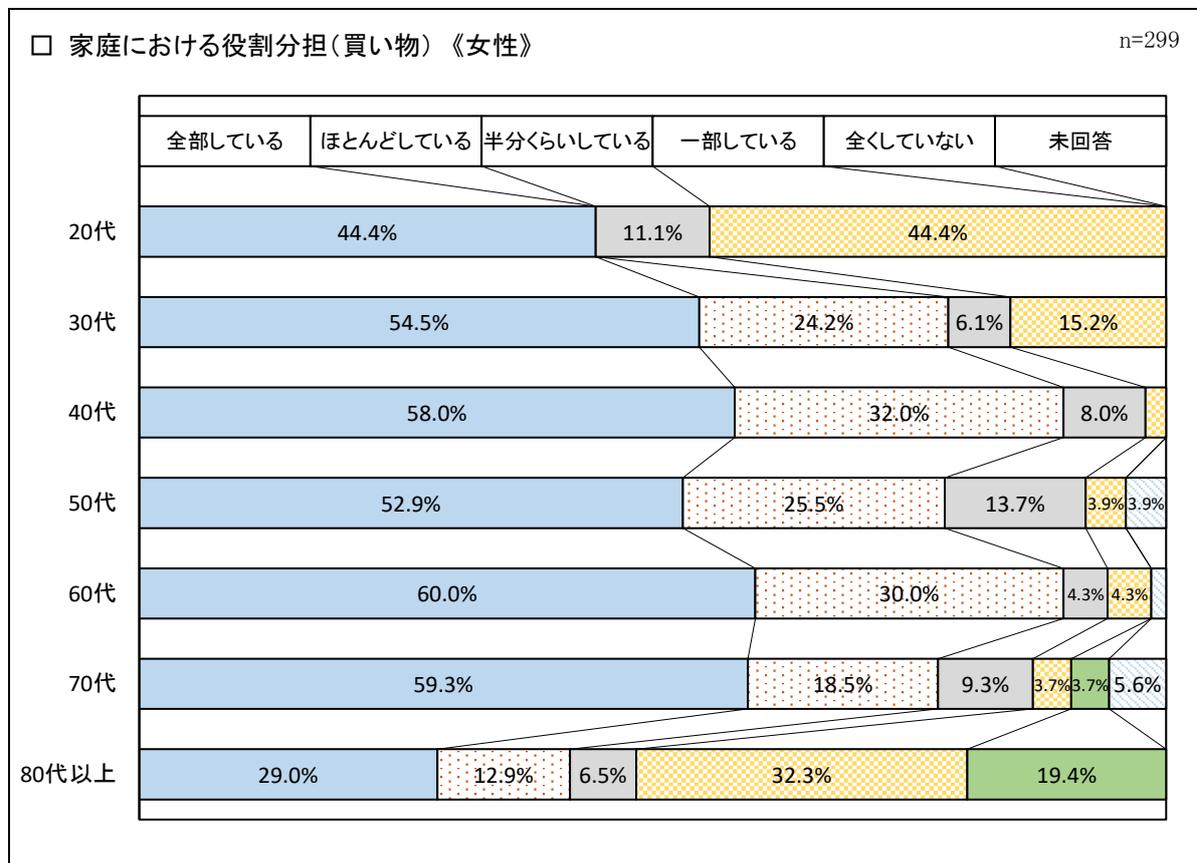
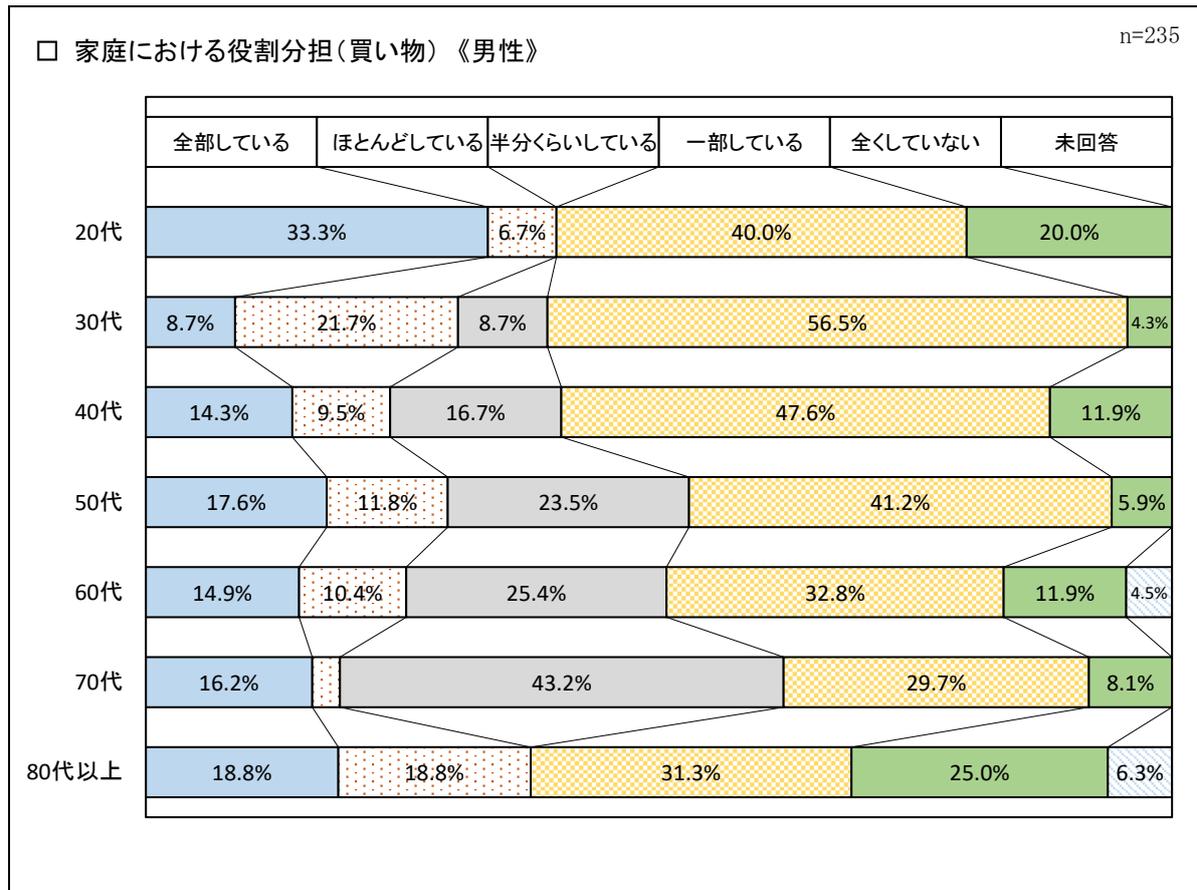
女性は、5年前と同じ傾向である。

### ■男女年代別比較

「全部している」 ⇔ 「全くしていない」

項目	全部している		全くしていない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	26.7	44.4	53.3	11.1
30代	13.0	57.6	26.1	3.0
40代	16.7	64.0	38.1	0.0
50代	23.5	66.7	20.6	0.0
60代	17.9	72.9	32.8	0.0
70代	10.8	77.8	45.9	1.9
80代以上	18.8	45.2	56.3	16.1

⑤男女・年代別でみる役割分担（買い物）



## ■男性回答

「買い物」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「30代」の「一部している」で56.5%、同じく「40代」の47.6%と続く。

「一部している」の回答が全体的に多い。

最も少ない回答は、「70代」で「ほとんどしている」の2.7%であった。

80代以上になると、「一部している」が一番多いが、他の年代と比較すると役割分担が平均化されている傾向にある。

## ■女性回答

「買い物」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「60代」の「全部している」で60.0%、同じく「70代」の59.3%と続く。

「全部している」（「ほとんどしている」含む）では、40代と60代で90.0%となっている。

最も少ない回答は、「70代」で「一部している」、「全くしていない」の3.7%であった。

全体的に、30代から70代にかけて、約8割以上が「全部している」、「ほとんどしている」と回答している。

## ■5年前との比較

### ○買い物

男性では、「全くしていない」の割合が低下し、「全部している」、「ほとんどしている」の割合が上昇している。

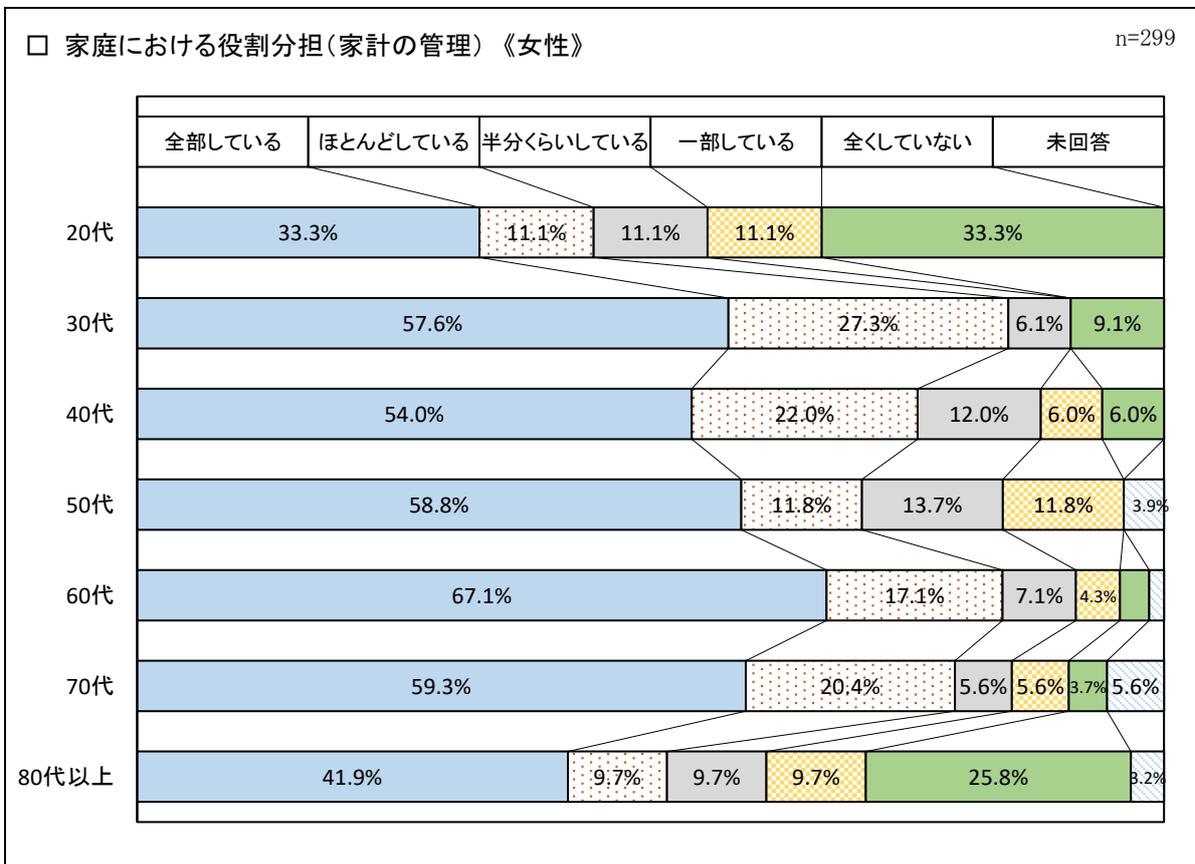
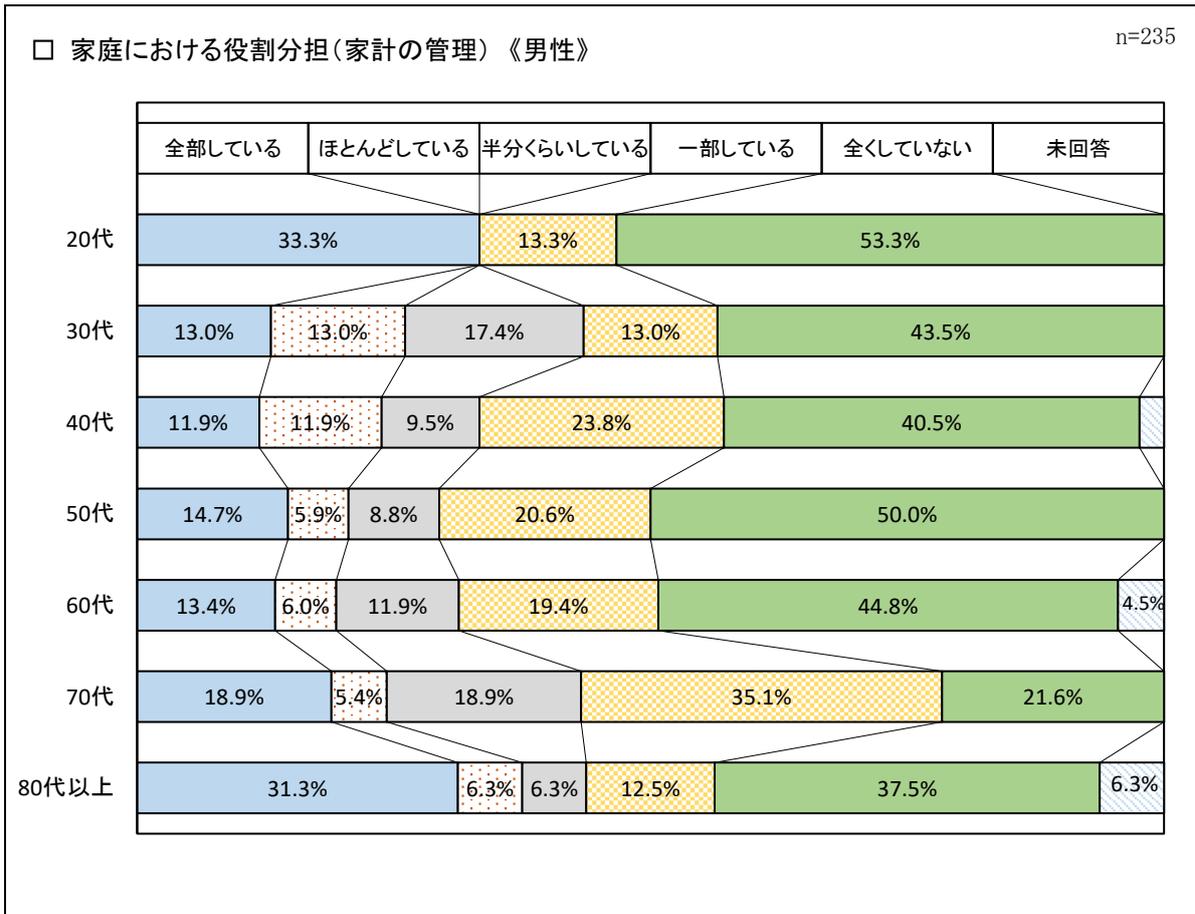
女性は、5年前と同じ傾向である。

## ■男女年代別比較

「全部している」 ⇔ 「全くしていない」

項目	全部している		全くしていない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	33.3	44.4	20.0	0.0
30代	8.7	54.5	4.3	0.0
40代	14.3	58.0	11.9	0.0
50代	17.6	52.9	5.9	0.0
60代	14.9	60.0	11.9	0.0
70代	16.2	59.3	8.1	3.7
80代以上	18.8	29.0	25.0	19.4

⑥男女・年代別でみる役割分担（家計の管理）



## ■男性回答

「家計の管理」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「20代」の「全くしていない」で53.3%、次いで「50代」の50.0%と続く。

全体的に、20代から60代までが「全くしていない」の回答が、4割から5割となっており、約半数を占めている。

最も少ない回答は、「70代」で「ほとんどしている」の5.4%であった。

「全部している」、「ほとんどしている」の割合は、20代と80代を除き、約2割程度となっている。

## ■女性回答

「家計の管理」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「60代」で「全部している」の67.1%、次いで「70代」の59.3%と続く。

30代から70代の約7割から8割が、「全部している」（「ほとんどしている」含む）と回答しており、「30代」では、84.9%、「60代」では84.2%となっている。

「全部している」、「ほとんどしている」の回答割合は、男性の3倍程度となっている。

## ■5年前との比較

### ○家計の管理

男性では、「全くしていない」の割合が低下し、「全部している」、「一部している」の割合が上昇している。

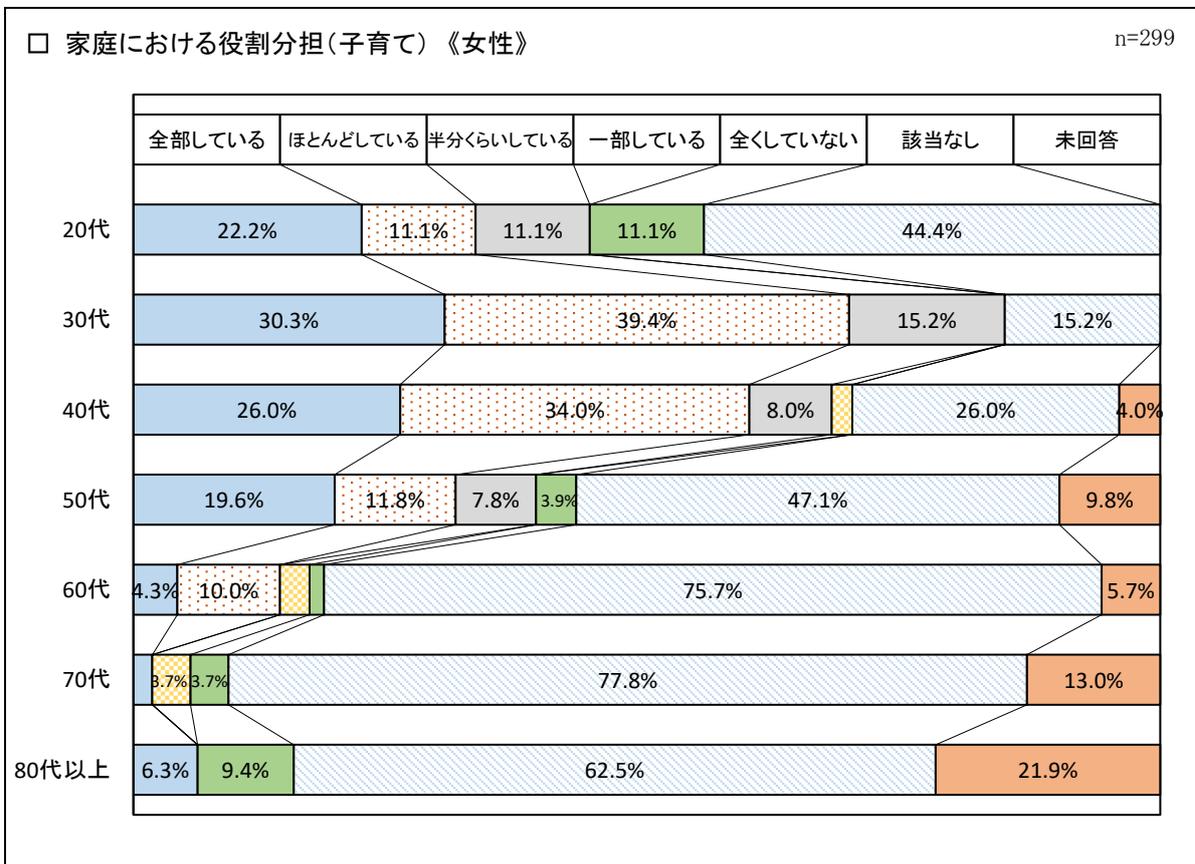
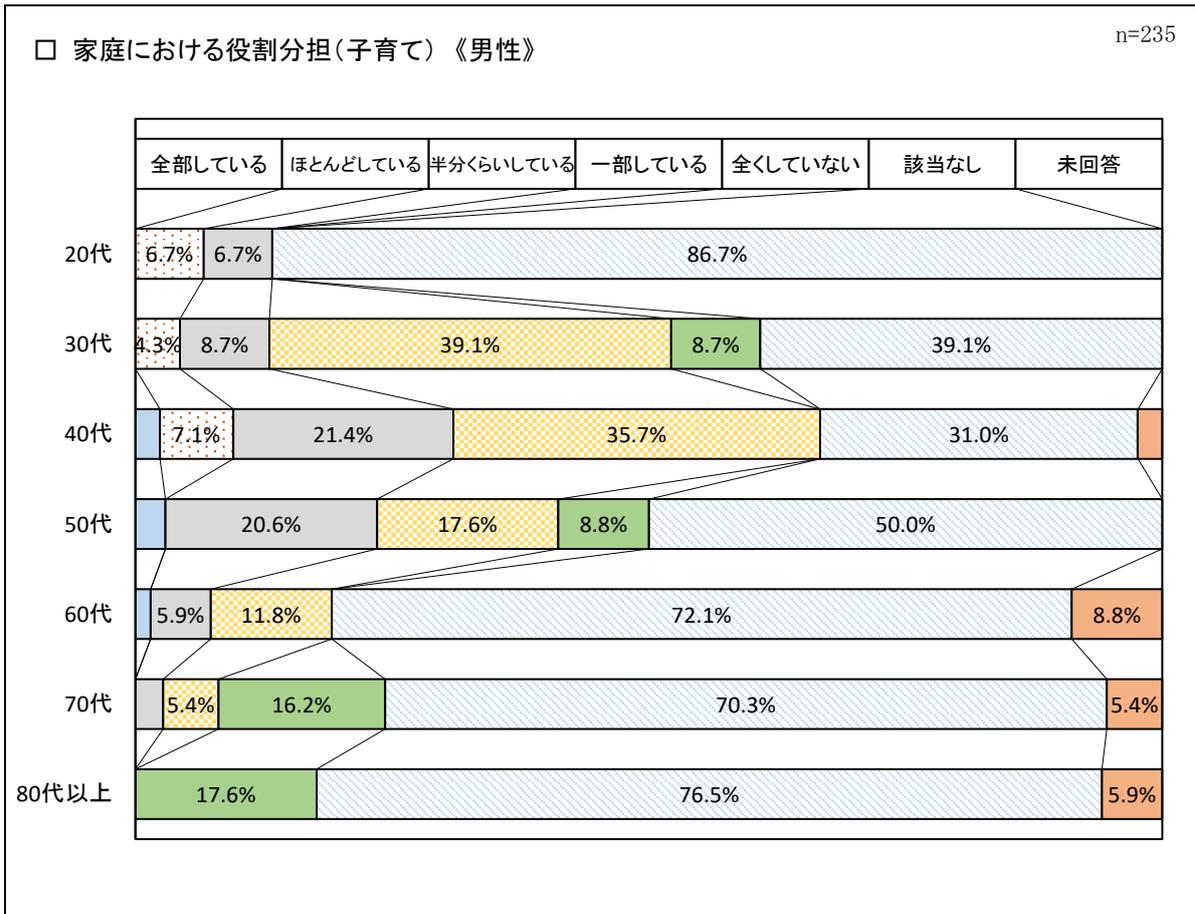
女性では、「一部している」の割合が低下し、「ほとんどしている」の割合が上昇している。

## ■男女年代別比較

「全部している」 ⇔ 「全くしていない」

項目	全部している		全くしていない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	33.3	33.3	53.3	33.3
30代	13.0	57.6	43.5	9.1
40代	11.9	54.0	40.5	6.0
50代	14.7	58.8	50.0	0.0
60代	13.4	67.1	44.8	2.9
70代	18.9	59.3	21.6	3.7
80代以上	31.3	41.9	37.5	25.8

⑦男女・年代別でみる役割分担（子育て）



■男性回答

「子育て」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「30代」の「一部している」で39.1%、次いで「40代」の35.7%と続く。

「全部している」（「ほとんどしている」含む）の割合が最も少ないのは、「30代」の4.3%となっているが、全体的に子育ての役割分担はかなり低い傾向にある。

■女性回答

「子育て」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「30代」で「ほとんどしている」の39.4%で、次いで同じく「40代」の34.0%と続く。

子育て年代の比較的多い「30代」、「40代」においては、「全部している」（「一部している」含む）の回答割合が6割から7割となっており、男性の30代の子育ての役割分担が低いいため、女性の子育ての役割が高くなっていることがわかる。

■5年前との比較

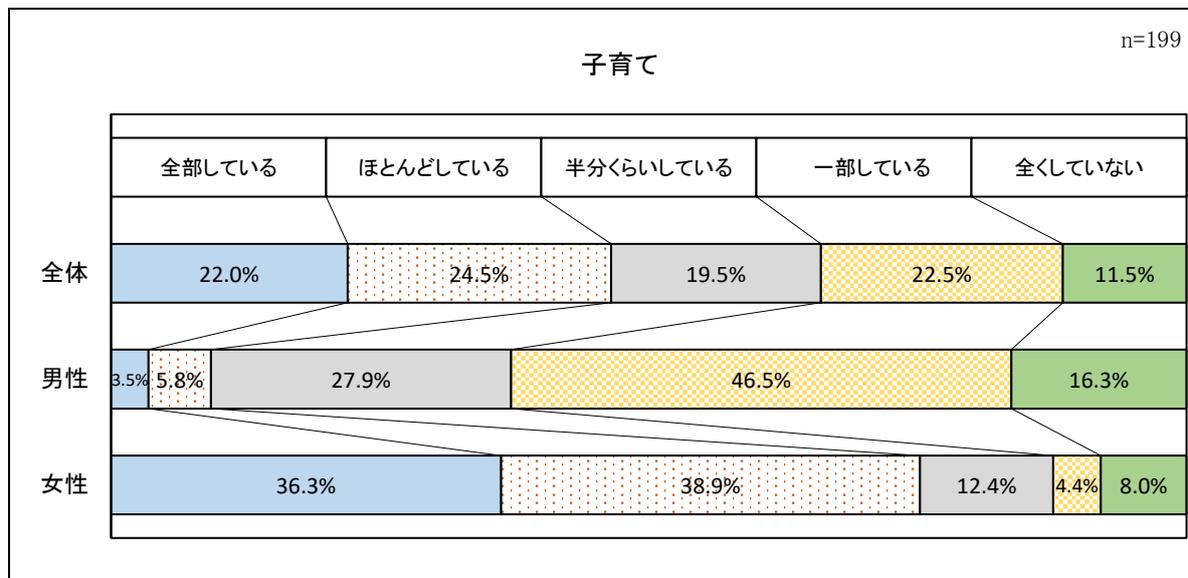
○子育て

男性では、「していない」の割合が低下し、「一部している」の割合が上昇している。

女性では、「全部している」の割合が低下し、「半分くらいしている」の割合が上昇している。

※「子育て」については、『該当なし』（子育てを要する子どもはいない）の割合が高いことから、「該当なし」を除いて比較。

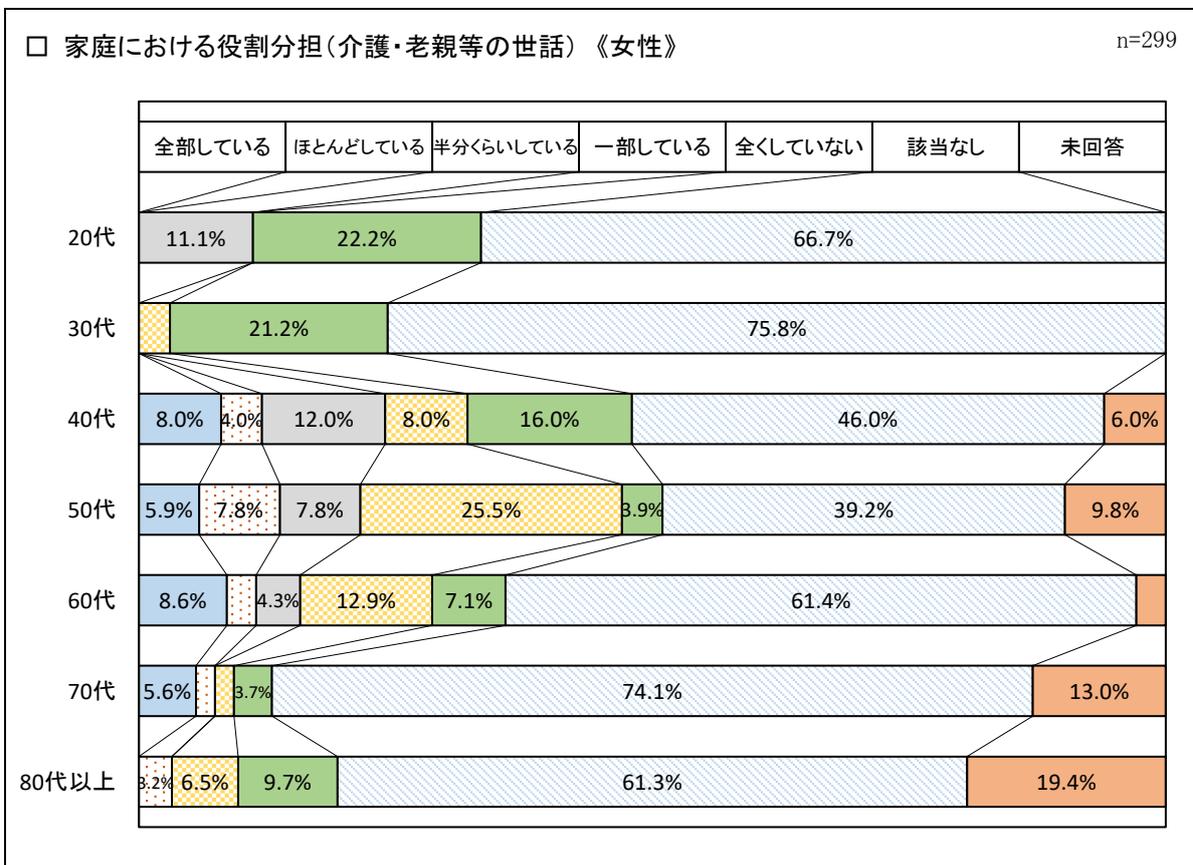
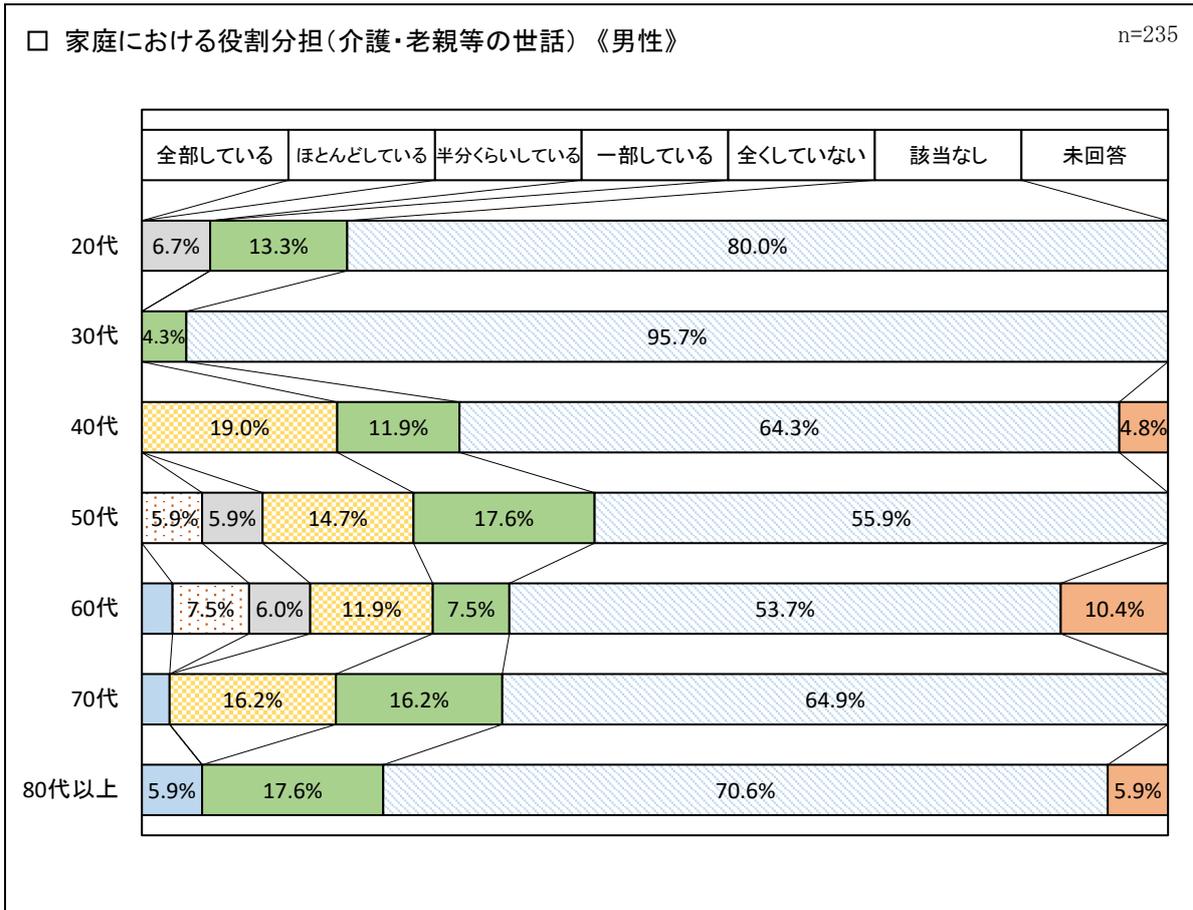
■「該当なし」を除いた比較



「子育て」で最も多い回答は、男性では「一部している」の46.5%で、女性では「ほとんどしている」の38.9%となっている。

「全部している」（「ほとんどしている」含む）では、女性が75.2%、男性が9.3%となっており、女性が多くを占めている。

⑧男女・年代別でみる役割分担（介護・老親等の世話）



■男性回答

「介護・老親等の世話」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「40代」の「一部している」で19.0%、次いで「50代」と「80代以上」の「全くしていない」の17.6%と続く。

「全部している」（「ほとんどしている」含む）では、「60代」の10.5%が最も多く、その他の年代は3%から6%と、「介護・老親等の世話」に関わっている傾向は少ない。

■女性回答

「介護・老親等の世話」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「50代」で「一部している」の25.5%で、次いで「20代」で「全くしていない」の22.2%と続く。

「全部している」（「ほとんどしている」含む）では、「50代」の13.7%が最も多く、男女ともに介護に「全部している」傾向は少ない。

■5年前との比較

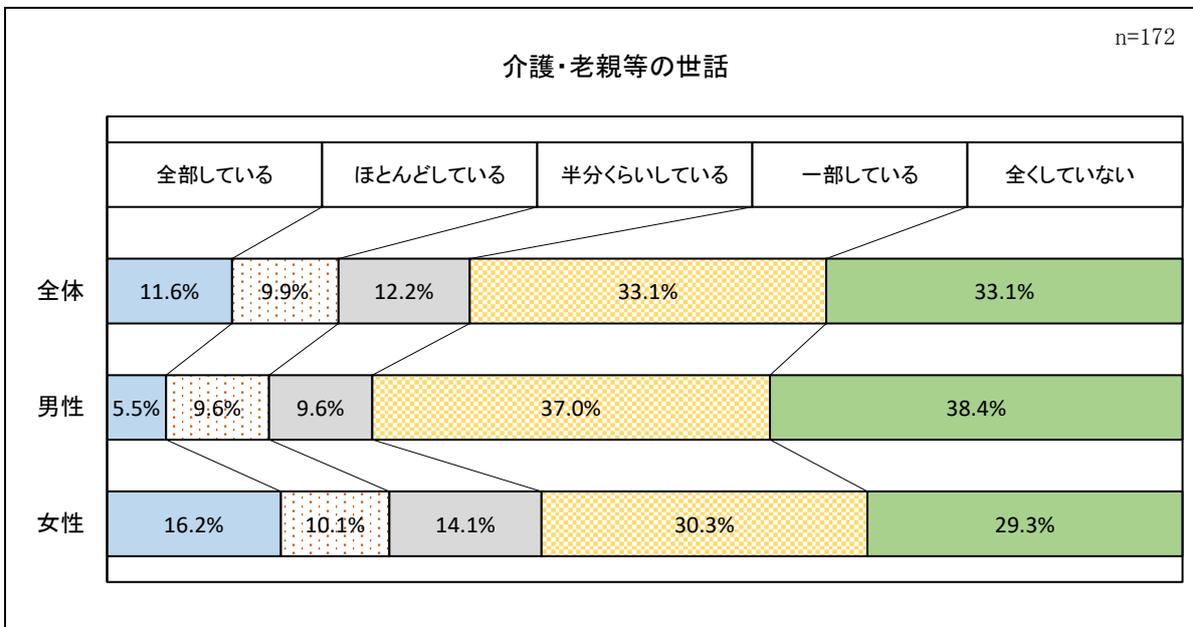
○介護・老親等の世話

男性では、「一部している」の割合が低下し、「全部している」、「ほとんどしている」の割合が上昇している。

女性では、「全部している」の割合が低下し、「していない」の割合が上昇している。

※「介護・老親等の世話」については、『「該当なし」（子育てを要する子どもはいない）』の割合が高いことから、「該当なし」を除いて比較。

■「該当なし」を除いた比較



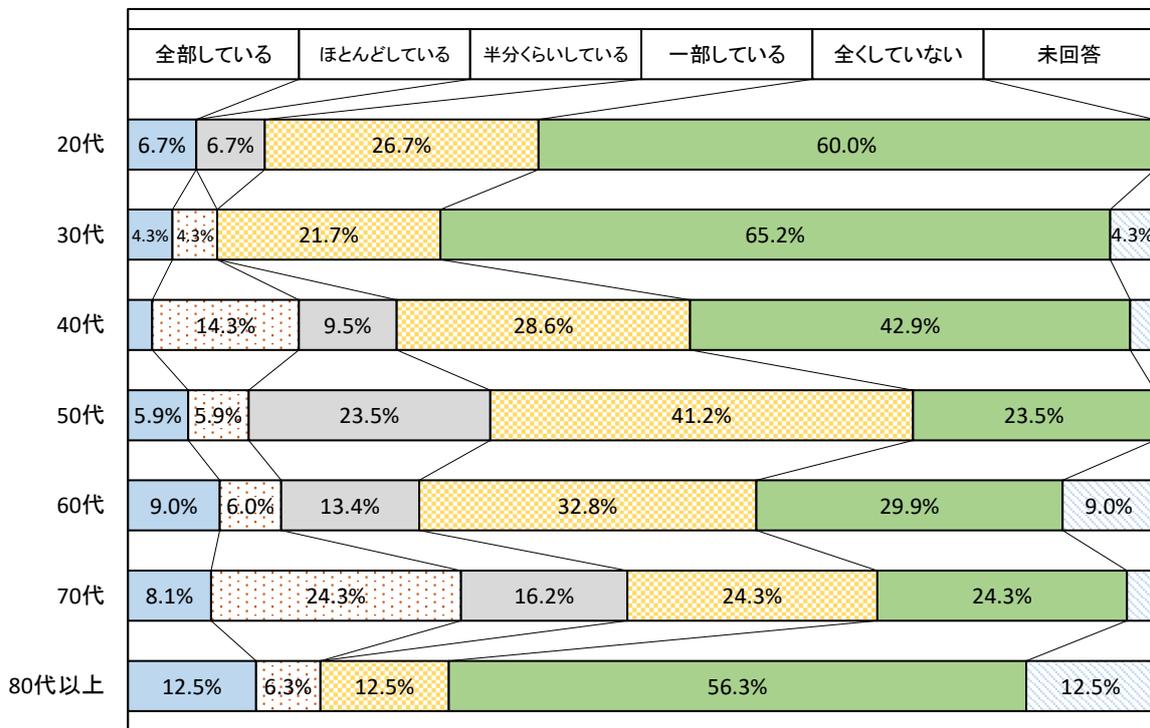
「介護・老親等の世話」で最も多い回答は、男性では「全くしていない」の38.4%、女性では「一部している」の30.3%であった。

「全部している」（「ほとんどしている」含む）では、女性26.3%、男性15.1%となっている。

⑨男女・年代別でみる役割分担（地域での行事等への参加）

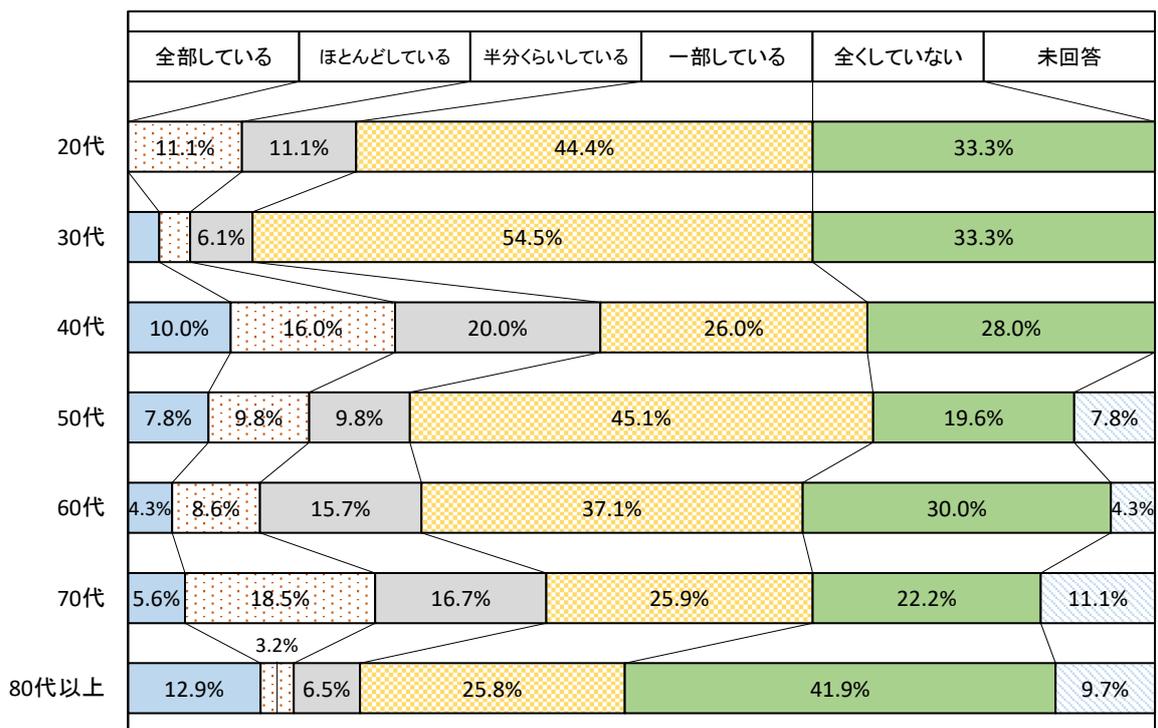
□ 家庭における役割分担（地域での行事等への参加）《男性》

n=235



□ 家庭における役割分担（地域での行事等への参加）《女性》

n=299



## ■男性回答

「地域での行事等への参加」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「30代」の「全くしていない」で65.2%、次いで「20代」の60.0%と続く。

最も少ない回答は、「40代」で「全部している」の2.4%で、全体的に「全部している」、「ほとんどしている」の回答割合は少ない。

「20代」、「30代」、「40代」、「80代以上」については、4割から6割が「全くしていない」と回答している。

## ■女性回答

「地域での行事等への参加」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「30代」の「一部している」で54.5%、次いで「50代」の45.1%と続く。

全体的に、「一部している」と「全くしていない」の回答割合が多く、「80代以上」になると、「全くしていない」が41.9%となっている。

女性においては、「一部している」の回答割合が多いが、男女ともに「地域での行事等への参加」が少ない傾向である。

## ■5年前との比較

### ○地域での行事等への参加

男性では、「全部している」、「ほとんどしている」の割合が低下し、「全くしていない」の割合が上昇している。

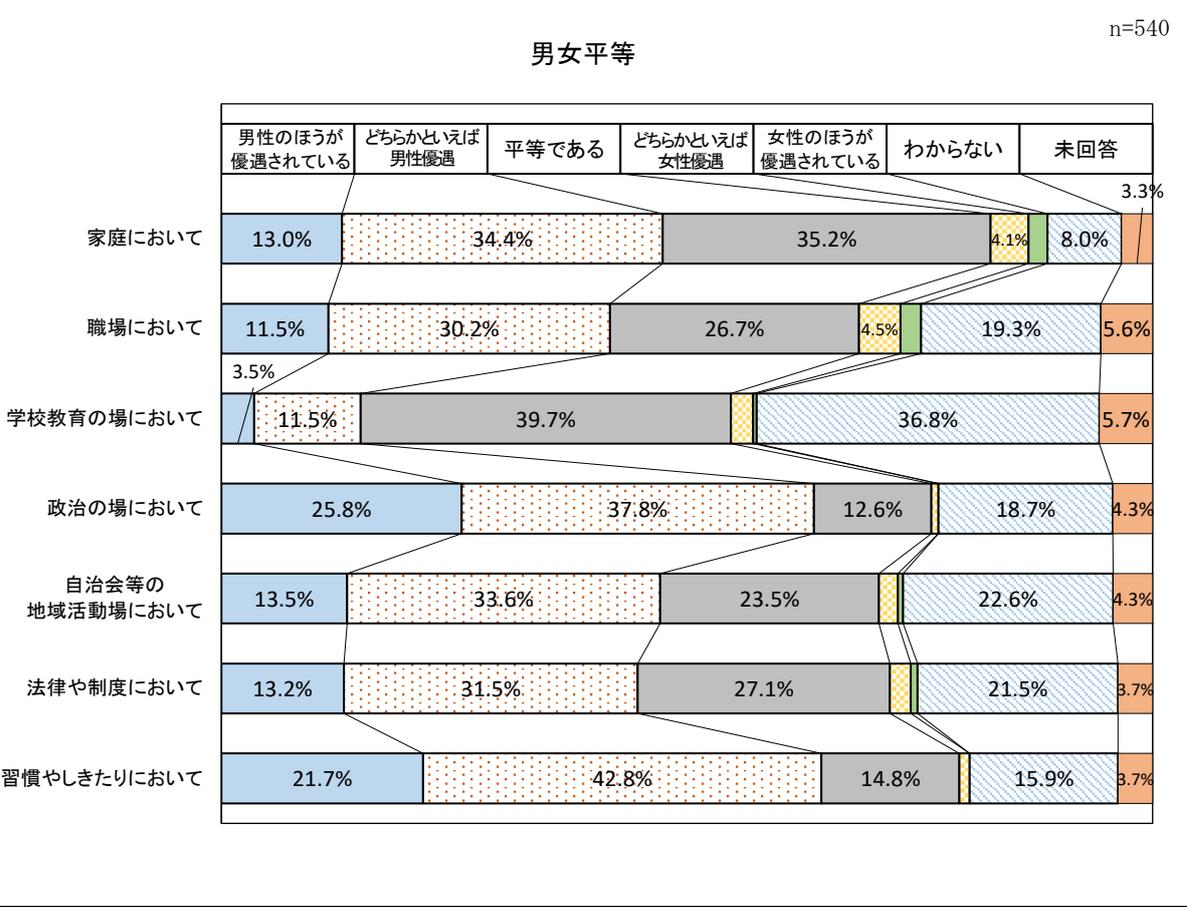
女性では、「全くしていない」の割合が低下し、「一部している」の割合が上昇している。

## ■男女年代別比較

「全部している」 ⇔ 「全くしていない」

項目	全部している		全くしていない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	6.7	0.0	60.0	33.3
30代	4.3	3.0	65.2	33.3
40代	2.4	10.0	42.9	28.0
50代	5.9	7.8	23.5	19.6
60代	9.0	4.3	29.9	30.0
70代	8.1	5.6	24.3	22.2
80代以上	12.5	12.9	56.3	41.9

問 13 あなたのまわりでは、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
【ア～キの項目ごと数字に○を1つずつ】

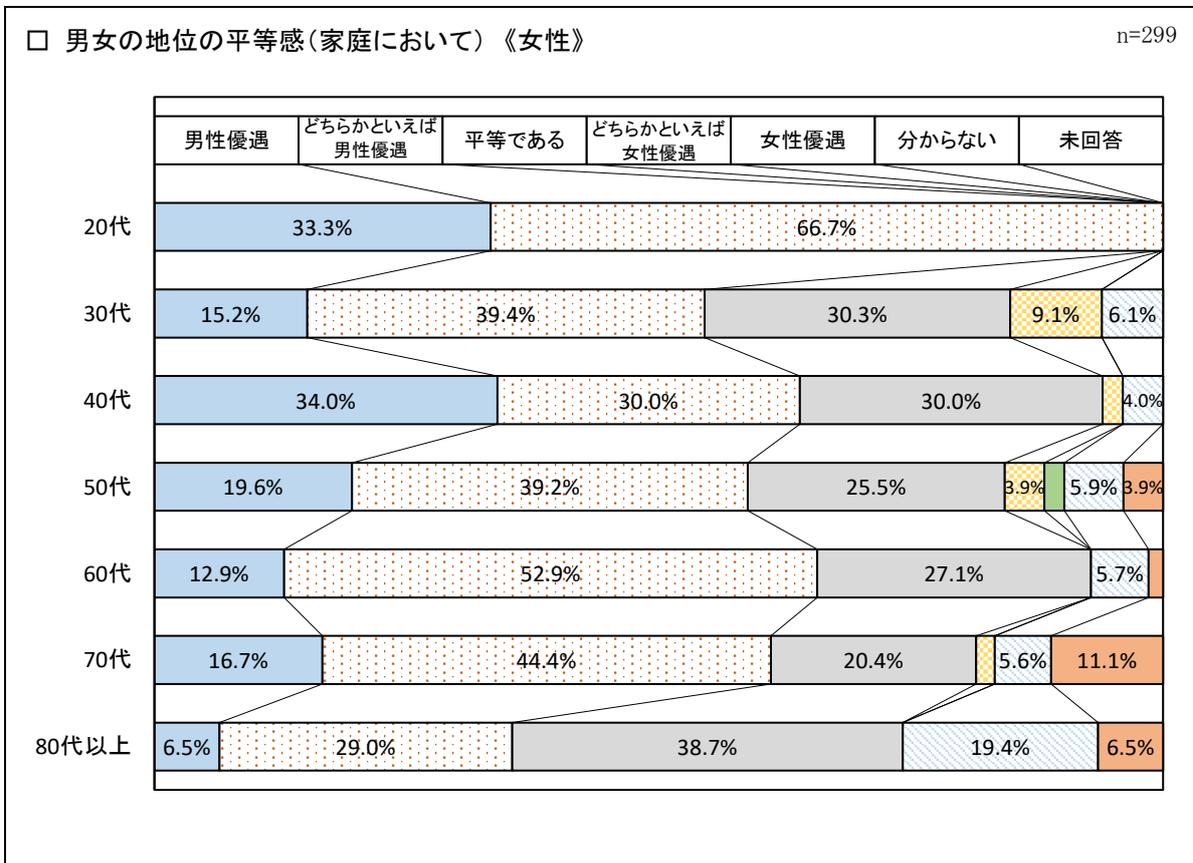
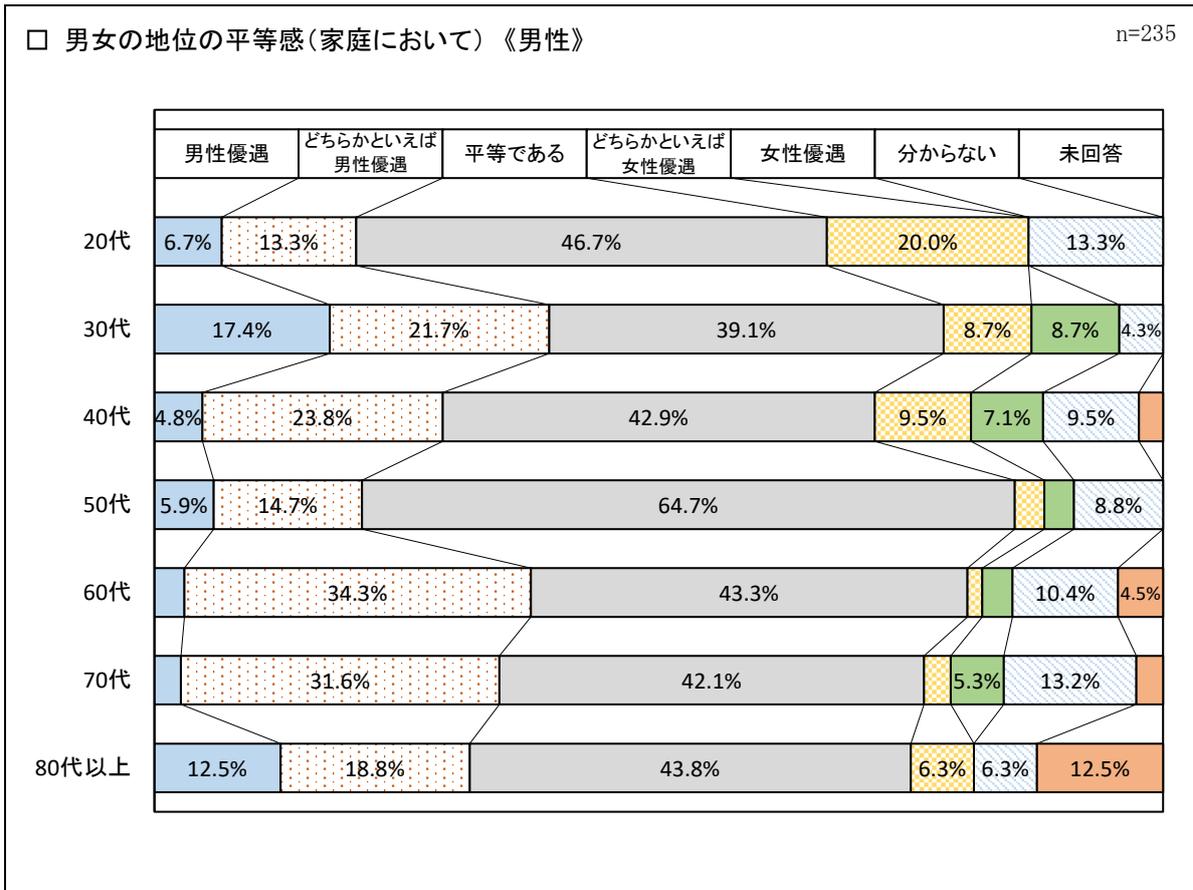


男女の地位の平等性について最も多い回答は、「習慣やしきたりにおいて」の「どちらかといえば男性優遇」で42.8%、次いで「学校教育の場において」の「平等である」が39.7%と続く。

「男性の方が優遇されている」（「どちらかといえば男性優遇」含む）の回答割合が最も多いのは、「習慣やしきたりにおいて」の64.5%、次いで、「政治の場において」の63.6%と6割以上を占める。

「女性の方が優遇されている」（「どちらかといえば女性優遇」含む）の回答で最も多いのは、「職場において」の6.7%で、他の項目においては「女性の方が優遇されている」との回答は5%に満たない。

①男女・年代別でみる男女の地位の平等感（家庭において）



### ■男性回答

「家庭において」の平等感を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「50代」で「平等である」の64.7%、次いで「20代」の46.7%と続く。

最も少ない回答は、「60代」で「どちらかと言えば女性優遇」の1.5%であった。

「平等である」の回答が、全体の約4割から6割を占めている。

### ■女性回答

「家庭において」の平等感を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「20代」の「どちらかと言えば男性優遇」で66.7%、次いで「60代」の52.9%と続く。

20代においては、「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）が100.0%であった。

「80代以上」を除く、全ての年代で「男性が優遇されている」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）の回答が、約6割を占めており、男性は「平等である」と考えているが、女性は「男性が優遇」と感じており、回答の違いが出ている。

### ■5年前との比較

#### ○家庭において

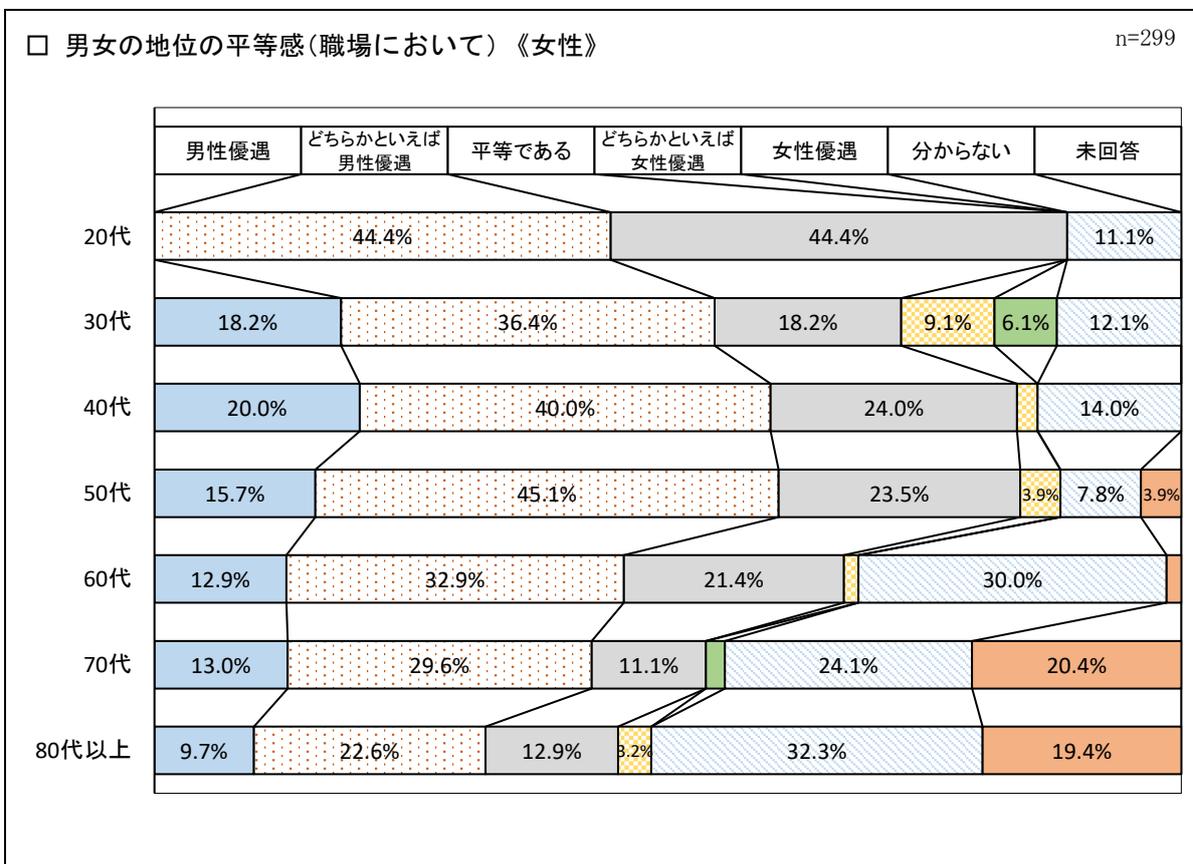
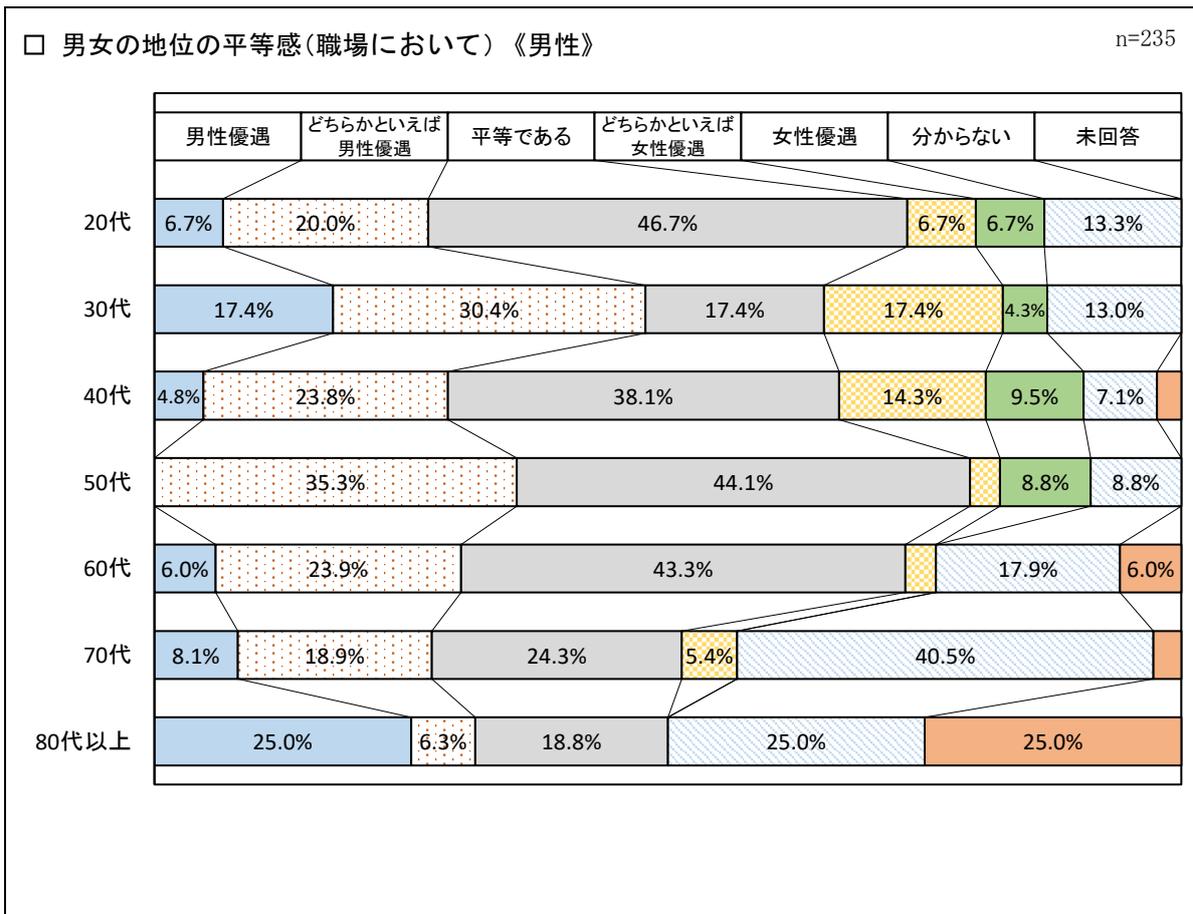
全体的に同じ傾向ではあるが、「平等」の割合が男性では上昇し、女性では低下している。

### ■男女年代別比較

「男性優遇」（「どちらかといえば男性優遇」含む） ⇄ 平等 ⇄ 「女性優遇」（「どちらかといえば女性優遇」含む）

項目	男性優遇		平等		女性優遇	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	20.0	100.0	46.7	0.0	20.0	0.0
30代	39.1	54.5	39.1	30.3	17.4	9.1
40代	28.6	64.0	42.9	30.0	16.7	2.0
50代	20.6	58.8	64.7	25.5	5.9	5.9
60代	37.3	65.7	43.3	27.1	4.5	0.0
70代	34.2	61.1	42.1	20.4	7.9	1.9
80代以上	31.3	35.5	43.8	38.7	6.3	0.0

②男女・年代別でみる男女の地位の平等感（職場において）



## ■男性回答

「職場において」の平等感を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「平等である」で46.7%、次いで「50代」の44.1%と続く。

「30代」では、約5割が「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）と回答している。

「女性優遇」（「どちらかと言えば女性優遇」含む）の回答割合では、「40代」の23.8%が最も多いが、「女性優遇」と考えている男性は少ない傾向にある。

## ■女性回答

「職場において」の平等感を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「50代」の「どちらかと言えば男性優遇」で45.1%、次いで「20代」の44.4%と続く。

「20代」では、「どちらかと言えば男性優遇」と「平等である」がどちらも44.4%と同じ回答割合であったが、「80代以上」を除く、全ての年代で「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）と回答している割合が4割から6割を占めている。

男女ともに「男性優遇」と考えている割合が高い。

## ■5年前との比較

### ○職場において

男性では、5年前と同じ傾向である。

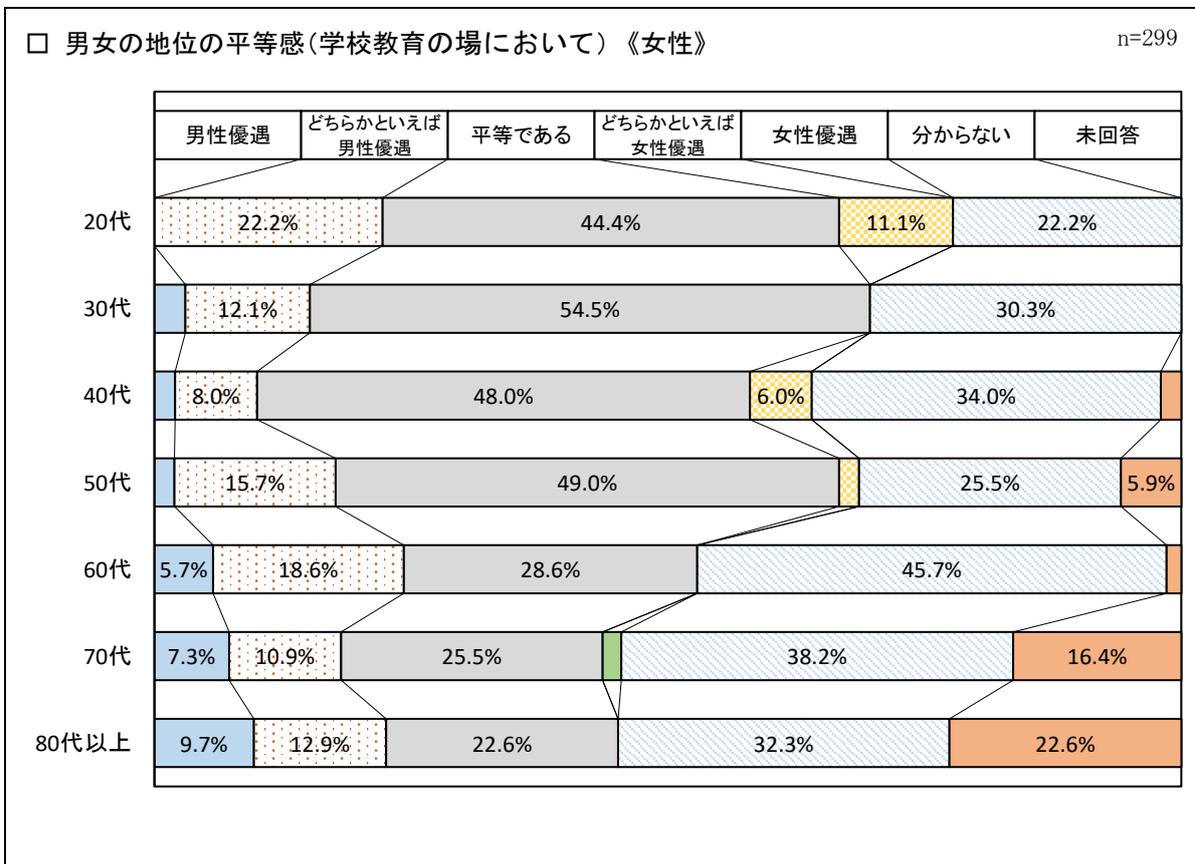
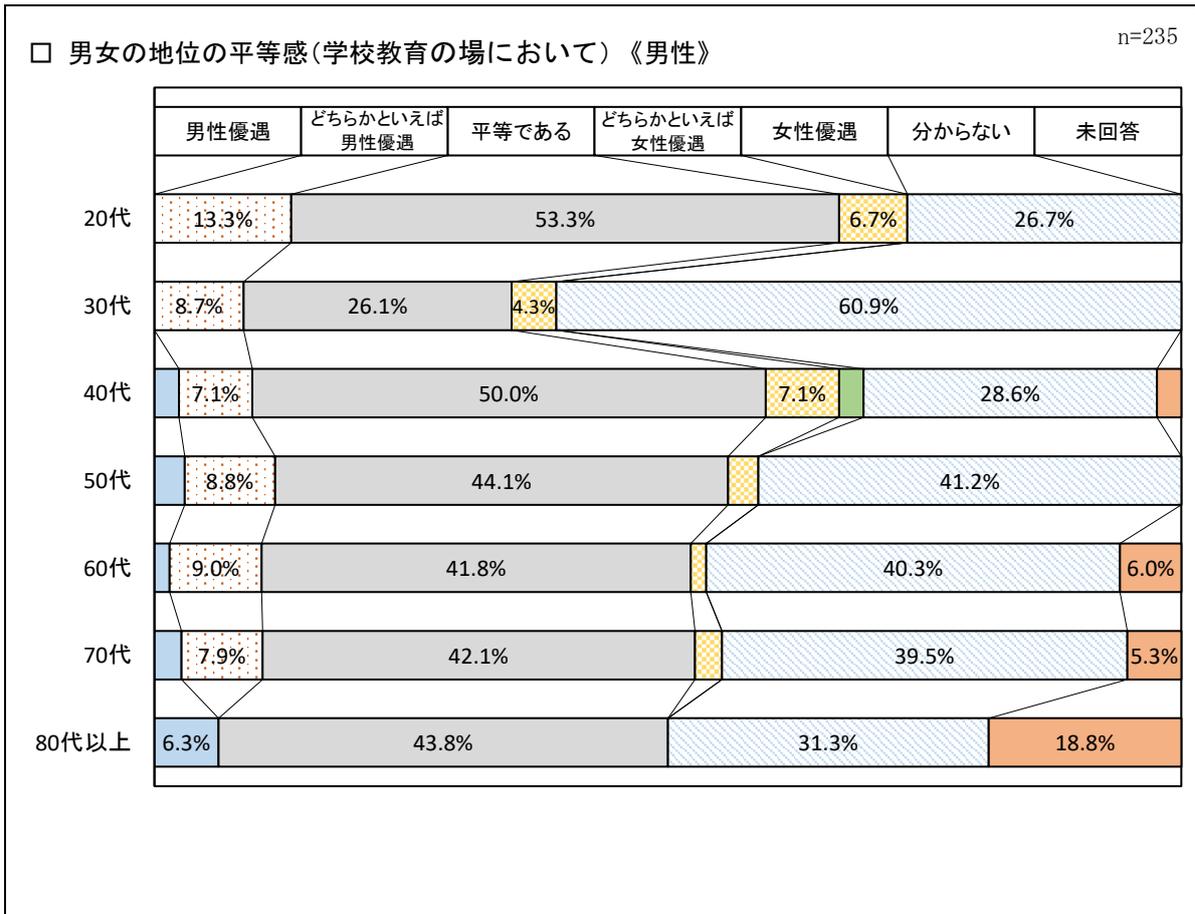
女性では、「わからない」の割合が低下し、「男性優遇」の割合が上昇している。

## ■男女年代別比較

「男性優遇」（「どちらかといえば男性優遇」含む） ⇔ 平等 ⇔ 「女性優遇」（「どちらかといえば女性優遇」含む）

項目	男性優遇		平等		女性優遇	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	26.7	44.4	46.7	44.4	13.3	0.0
30代	47.8	54.5	17.4	18.2	21.7	15.2
40代	28.6	60.0	38.1	24.0	23.8	2.0
50代	35.3	60.8	44.1	23.5	11.8	3.9
60代	29.9	45.7	43.3	21.4	3.0	1.4
70代	27.0	42.6	24.3	11.1	5.4	1.9
80代以上	31.3	32.3	18.8	12.9	0.0	3.2

③男女・年代別でみる男女の地位の平等感（学校教育の場において）



## ■男性回答

「学校教育の場において」の平等感を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「30代」の「わからない」で60.9%、次いで、「20代」の「平等である」の53.3%と続く。

「30代」を除き、全体的に「平等である」の割合が4割から5割を占めている。

「男性優遇」、「女性優遇」（「どちらかと言えば男性・女性優遇」含む）の回答は、約1割程度となっており、「学校教育の場」では、男女平等と考えている傾向にある。

## ■女性回答

「学校教育の場において」の平等感を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「30代」の「平等である」で54.5%、次いで「50代」の49.0%と続く。

「平等である」との考えは男性と同じ傾向にあるが、「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）の回答は約2割程度あり、男性の割合よりも高い。

## ■5年前との比較

○学校教育の場において

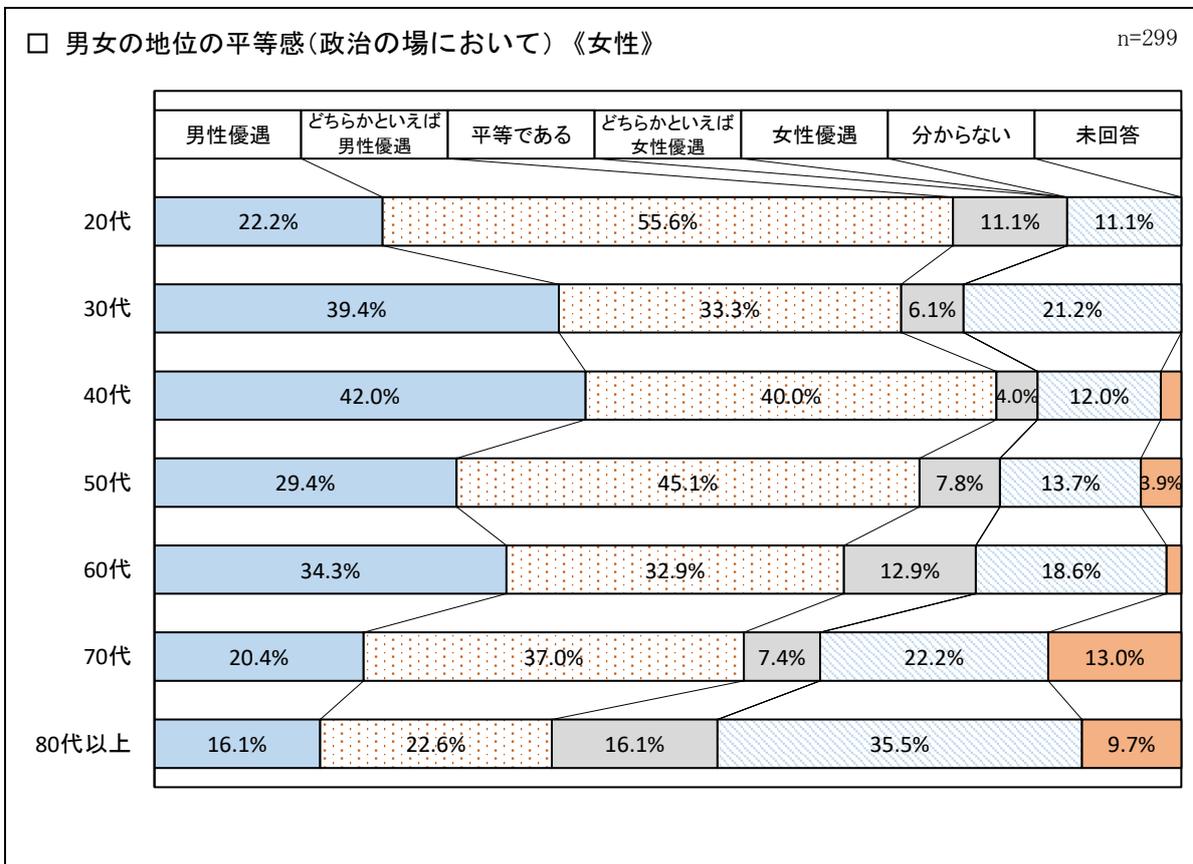
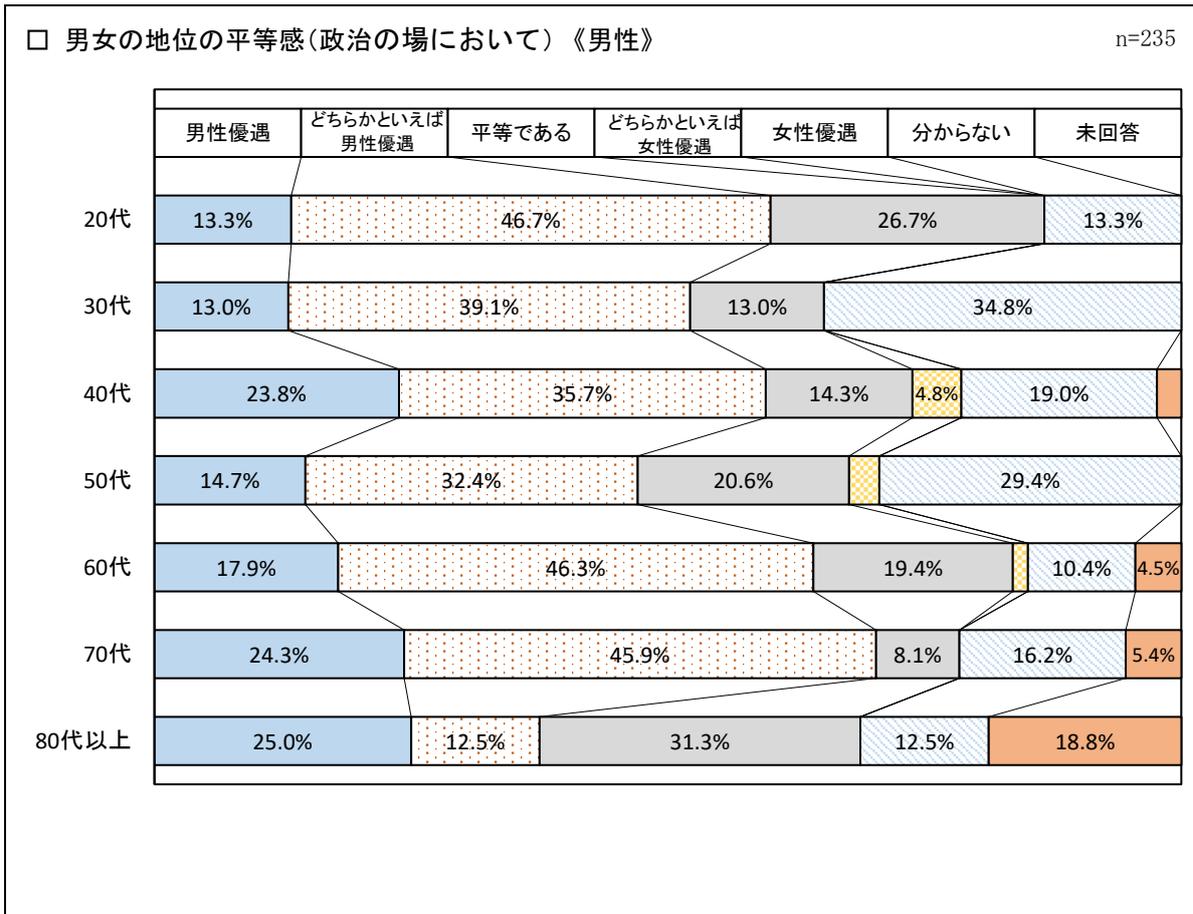
全体的に5年前と同じ傾向である。

## ■男女年代別比較

「男性優遇」（「どちらかといえば男性優遇」含む） ⇔ 平等 ⇔ 「女性優遇」（「どちらかといえば女性優遇」含む）

項目	男性優遇		平等		女性優遇	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	13.3	22.2	53.3	44.4	6.7	11.1
30代	8.7	15.2	26.1	54.5	4.3	0.0
40代	9.5	10.0	50.0	48.0	9.5	6.0
50代	11.8	17.6	44.1	49.0	2.9	2.0
60代	10.4	24.3	41.8	28.6	1.5	0.0
70代	10.5	18.2	42.1	25.5	2.6	1.8
80代以上	6.3	22.6	43.8	22.6	0.0	0.0

④男女・年代別でみる男女の地位の平等感（政治の場において）



## ■男性回答

「政治の場において」の平等感を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」で「どちらかと言えば男性優遇」の46.7%、次いで同じく「60代」の46.3%と続く。

全体的に「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）との回答が多く、中でも「70代」は、70.2%であった。

「女性優遇」（「どちらかと言えば女性優遇」含む）の回答は、最も多い回答でも「40代」の4.8%で、他0%の回答が多く、「政治の場において」は男性優遇と考えている男性が多い。

## ■女性回答

「政治の場において」の平等感を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「どちらかと言えば男性優遇」で55.6%、次いで「50代」の45.1%と続く。

「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）の回答割合が多く、「40代」は82.0%と最も多く「70代」、「80代以上」を除き、全ての年代で、「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）が約7割以上を占めている。

「政治の場において」の回答割合は、男女ともに「男性優遇」との回答が多く、男性と女性間での相違はあまり無い。

## ■5年前との比較

### ○政治の場において

全体的に、「女性優遇」の割合が低下し、「男性優遇」の割合が上昇している。

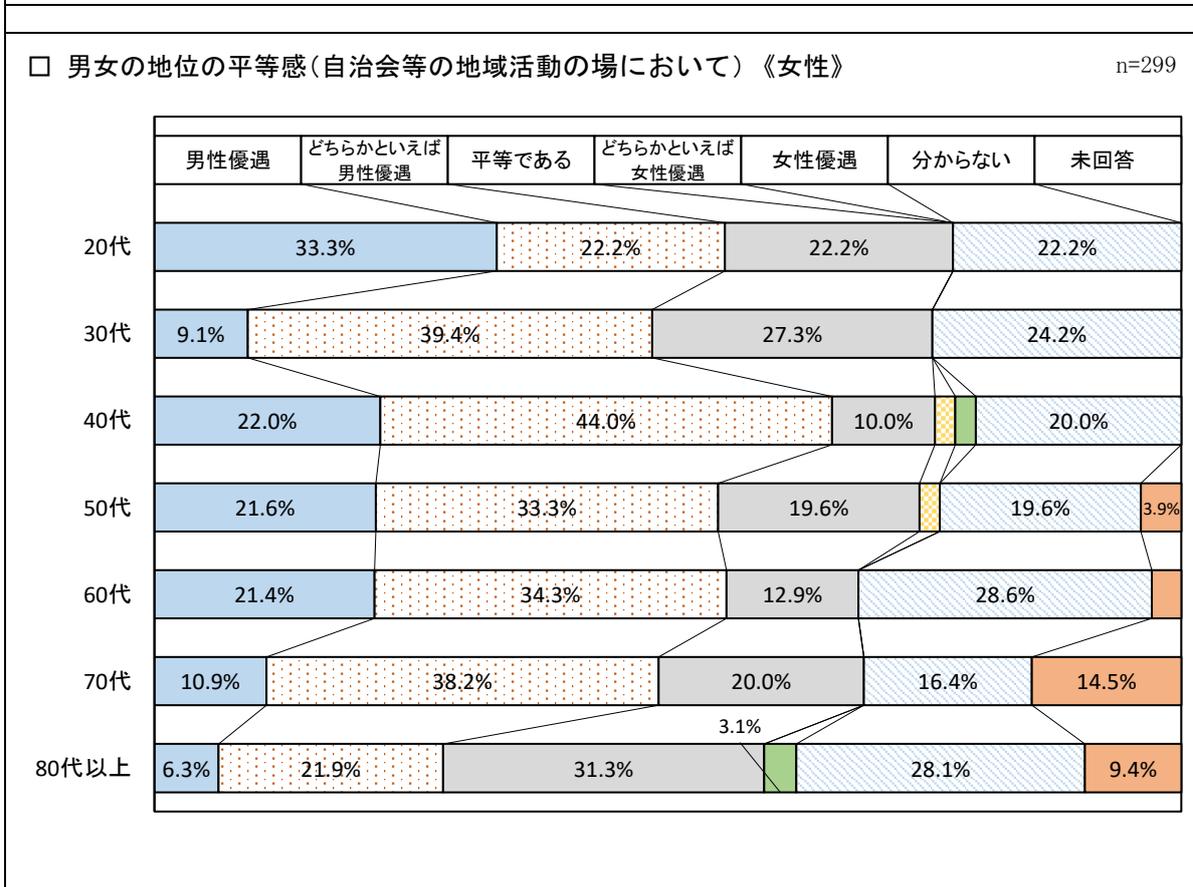
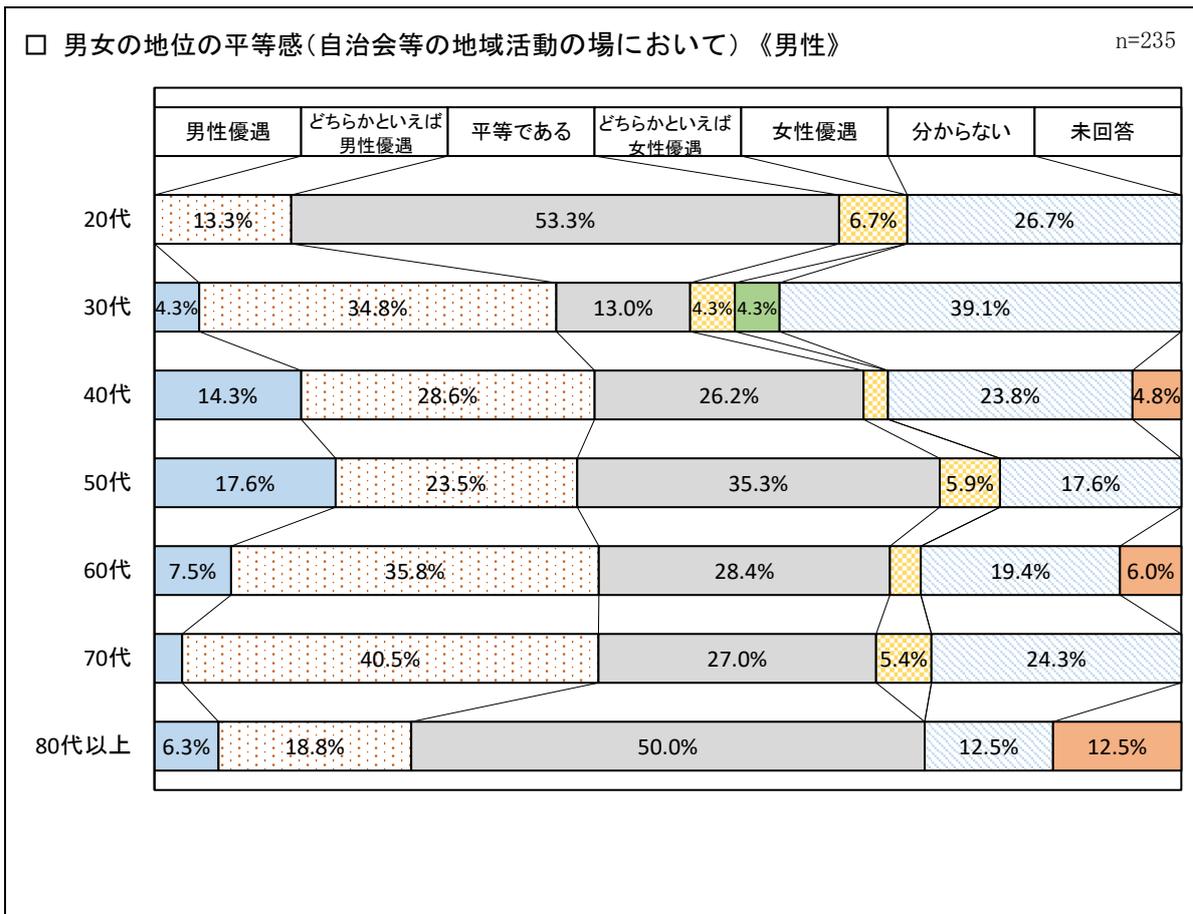
特に女性では、1割ほど「男性優遇」の割合が上昇している。

## ■男女年代別比較

「男性優遇」（「どちらかといえば男性優遇」含む） ⇄ 平等 ⇄ 「女性優遇」（「どちらかといえば女性優遇」含む）

項目	男性優遇		平等		女性優遇	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	60.0	77.8	26.7	11.1	0.0	0.0
30代	52.2	72.7	13.0	6.1	0.0	0.0
40代	59.5	82.0	14.3	4.0	4.8	0.0
50代	47.1	74.5	20.6	7.8	2.9	0.0
60代	64.2	67.1	19.4	12.9	1.5	0.0
70代	70.3	57.4	8.1	7.4	0.0	0.0
80代以上	37.5	38.7	31.3	16.1	0.0	0.0

⑤男女・年代別でみる男女の地位の平等感（自治会等の地域活動の場において）



## ■男性回答

「自治会等の地域活動の場において」の平等感を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「平等である」で53.3%、次いで「80代以上」の50.0%と続く。

30代から70代にかけて、約4割が「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）と回答しており、「平等である」の割合よりも多い傾向にある。

「女性優遇」（「どちらかと言えば女性優遇」含む）の回答は1割に満たない。

## ■女性回答

「自治会等の地域活動の場において」の平等感を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「40代」の「どちらかと言えば男性優遇」で44.0%、次いで「30代」の39.4%と続く。

「80代以上」を除く、全ての年代で約5割程度が「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）と回答しており、特に「40代」は66.0%と最も多い。

「女性優遇」（「どちらかと言えば女性優遇」含む）の回答は、男性と同様に1割に満たない。

## ■5年前との比較

○自治会等の地域活動の場において

全体的に、「男性優遇」の割合が上昇している。

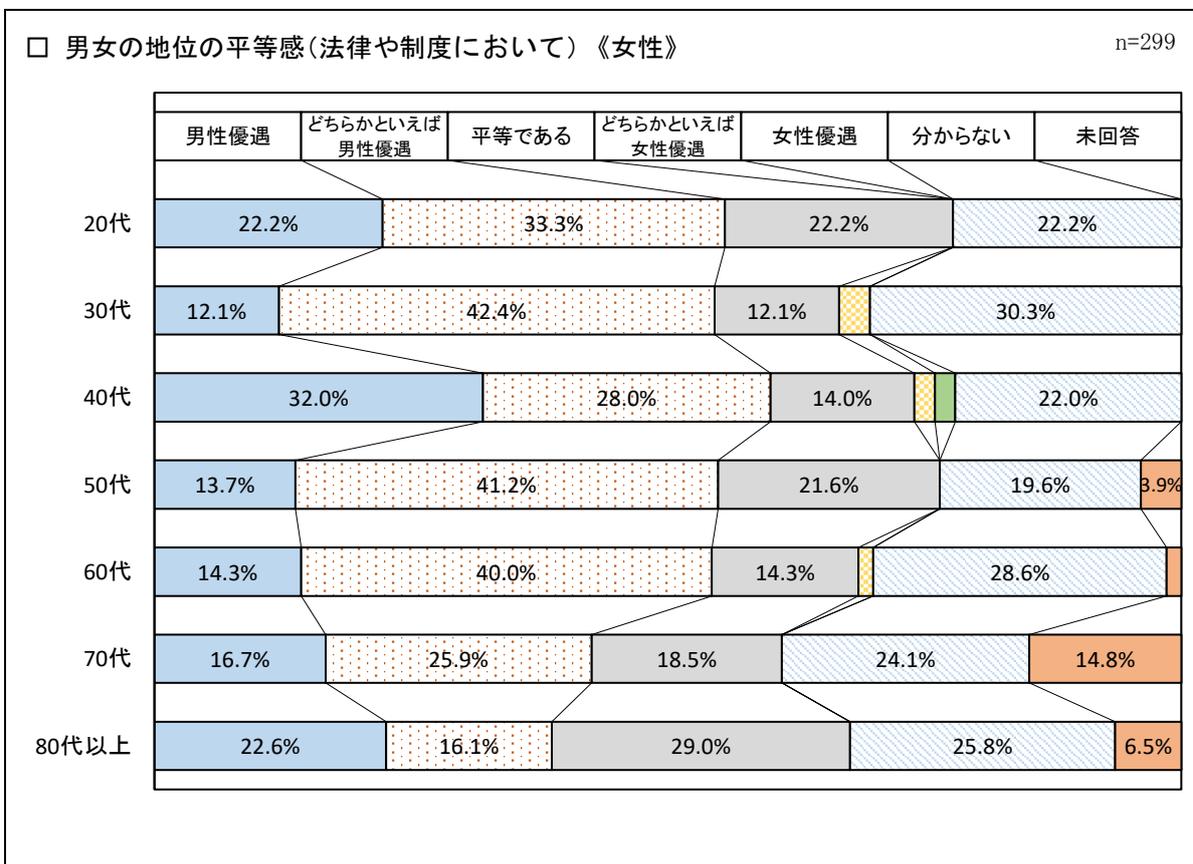
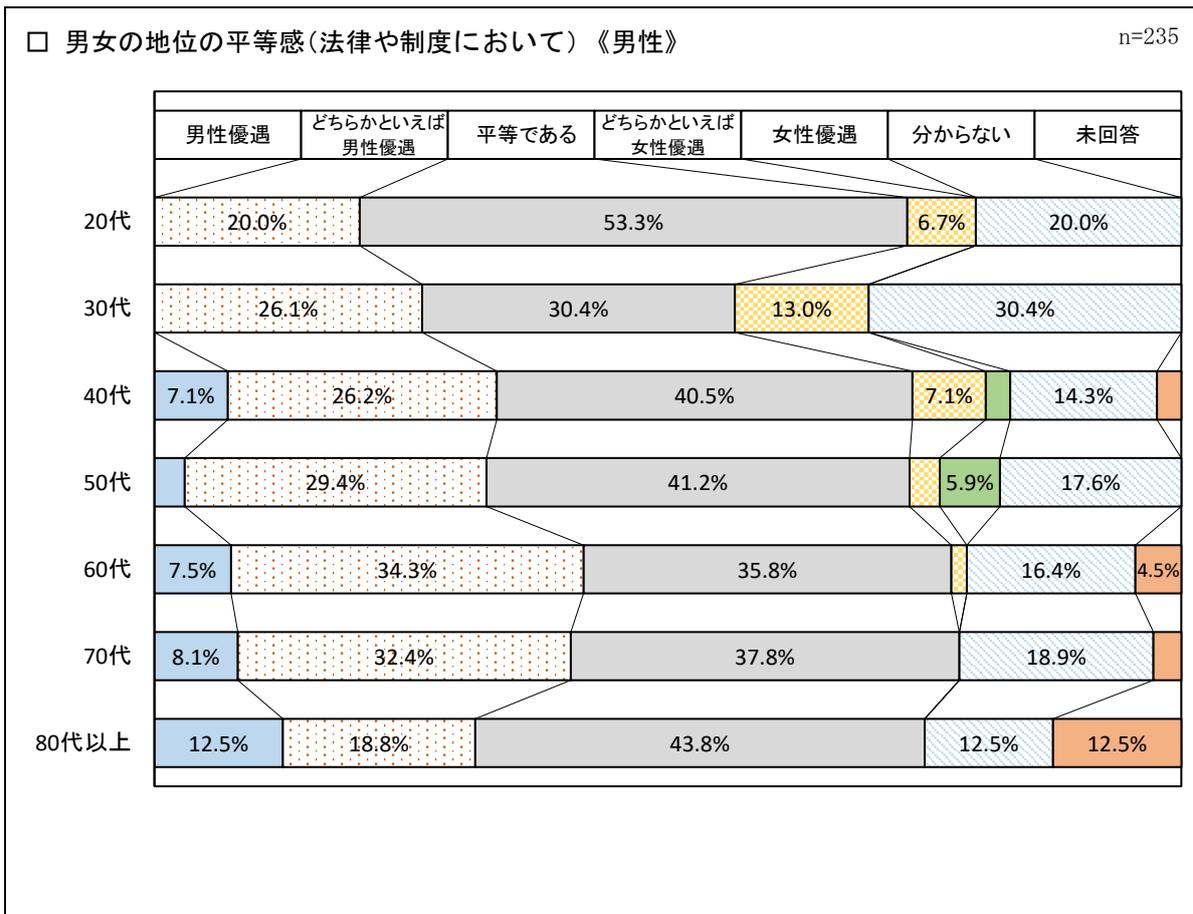
特に女性では、1割以上「男性優遇」の割合が上昇している。

## ■男女年代別比較

「男性優遇」（「どちらかといえば男性優遇」含む） ⇔ 平等 ⇔ 「女性優遇」（「どちらかといえば女性優遇」含む）

項目	男性優遇		平等		女性優遇	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	13.3	55.6	53.3	22.2	6.7	0.0
30代	39.1	48.5	13.0	27.3	8.7	0.0
40代	42.9	66.0	26.2	10.0	2.4	4.0
50代	41.2	54.9	35.3	19.6	5.9	2.0
60代	43.3	55.7	28.4	12.9	3.0	0.0
70代	43.2	49.1	27.0	20.0	5.4	0.0
80代以上	25.0	28.1	50.0	31.3	0.0	3.1

⑥男女・年代別でみる男女の地位の平等感（法律や制度において）



## ■男性回答

「法律や制度において」の平等感を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「平等である」で53.3%、次いで「80代以上」の43.8%と続く。

全ての年代で「平等である」の回答割合が多い。

「女性優遇」（「どちらかと言えば女性優遇」含む）の回答は、「30代」の13.0%が最も多いが、他の年代では1割に満たないか、0%の回答であった。

## ■女性回答

「法律や制度において」の平等感を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「30代」の「どちらかと言えば男性優遇」で42.4%、次いで「50代」の41.2%と続く。

「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）の回答割合が、「70代」、「80代以上」を除いて5割から6割を占めている。

「平等である」の回答割合は1割から3割となっており、男性の回答と比べると少ない。

## ■5年前との比較

### ○法律や制度において

全体的に、「女性優遇」の割合が低下し、「男性優遇」の割合が上昇している。

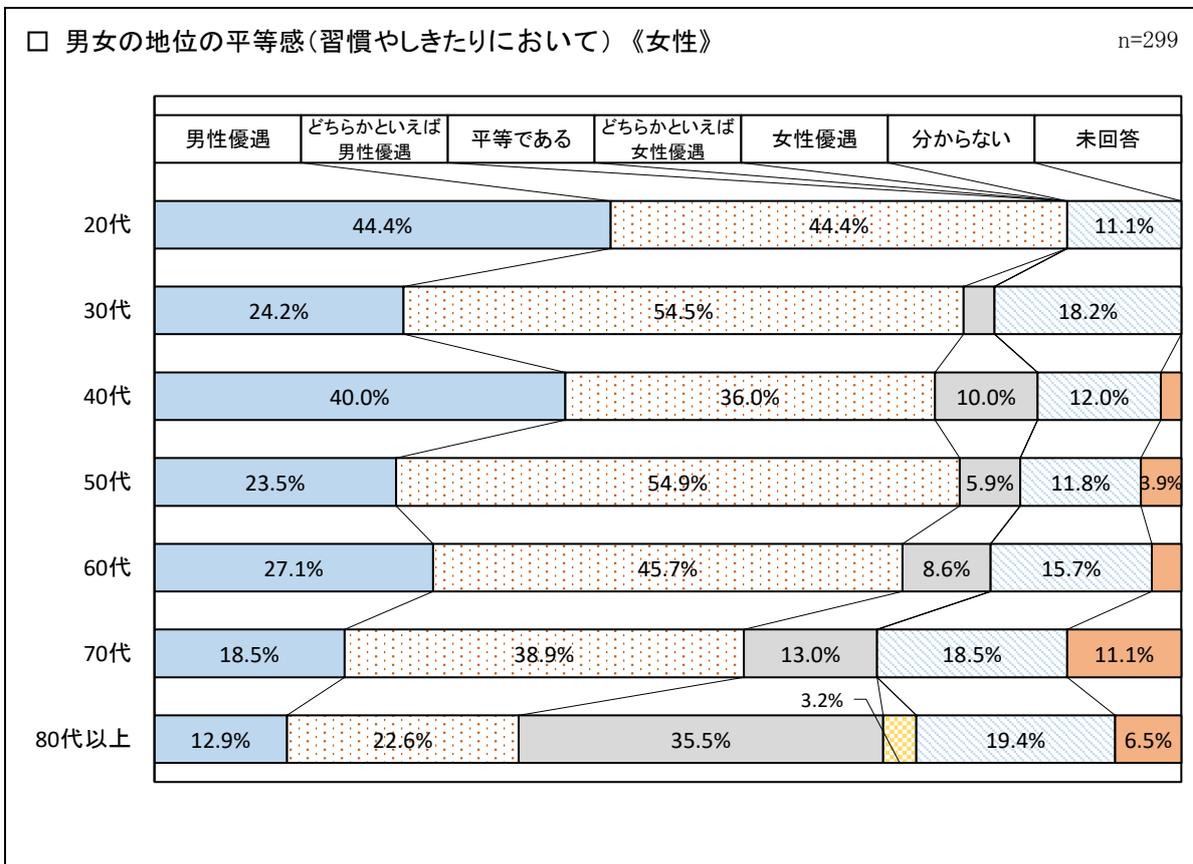
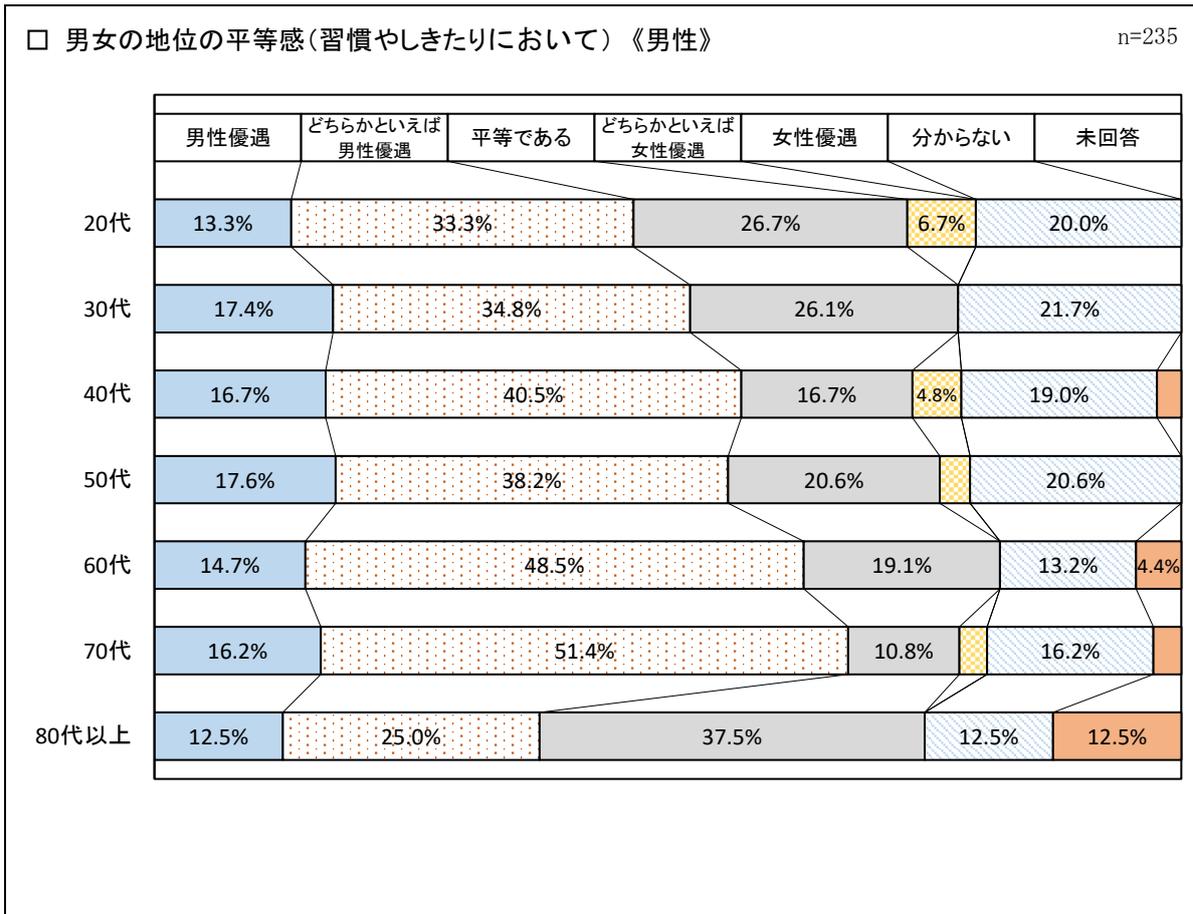
特に女性では、「男性優遇」の割合が1割ほど上昇している。

## ■男女年代別比較

「男性優遇」（「どちらかといえば男性優遇」含む） ⇔ 平等 ⇔ 「女性優遇」（「どちらかといえば女性優遇」含む）

項目	男性優遇		平等		女性優遇	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	20.0	55.6	53.3	22.2	6.7	0.0
30代	26.1	54.5	30.4	12.1	13.0	3.0
40代	33.3	60.0	40.5	14.0	9.5	4.0
50代	32.4	54.9	41.2	21.6	8.8	0.0
60代	41.8	54.3	35.8	14.3	1.5	1.4
70代	40.5	42.6	37.8	18.5	0.0	0.0
80代以上	31.3	38.7	43.8	29.0	0.0	0.0

⑦男女・年代別でみる男女の地位の平等感（習慣やしきたりにおいて）



## ■男性回答

「習慣やしきたりにおいて」の平等感を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「70代」の「どちらかと言えば男性優遇」で51.4%、次いで「60代」の48.5%と続く。

「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）の回答割合が全体的に多く、特に「70代」では7割近くを占める。

「女性優遇」（「どちらかと言えば女性優遇」含む）の回答割合については、0%から6.7%となっている。

## ■女性回答

「習慣やしきたりにおいて」の平等感を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「50代」の「どちらかと言えば男性優遇」で54.9%、次いで「30代」の54.5%と続く。

「70代」、「80代以上」を除いた各年代の約7割以上が、「男性優遇」（「どちらかと言えば男性優遇」含む）と回答している。

男女ともに、同じ回答傾向にある。

## ■5年前との比較

### ○習慣やしきたりにおいて

全体的に、「平等」、「女性優遇」の割合が低下し、「男性優遇」の割合が上昇している。

特に女性では、「男性優遇」の割合が1割ほど上昇している。

## ■男女年代別比較

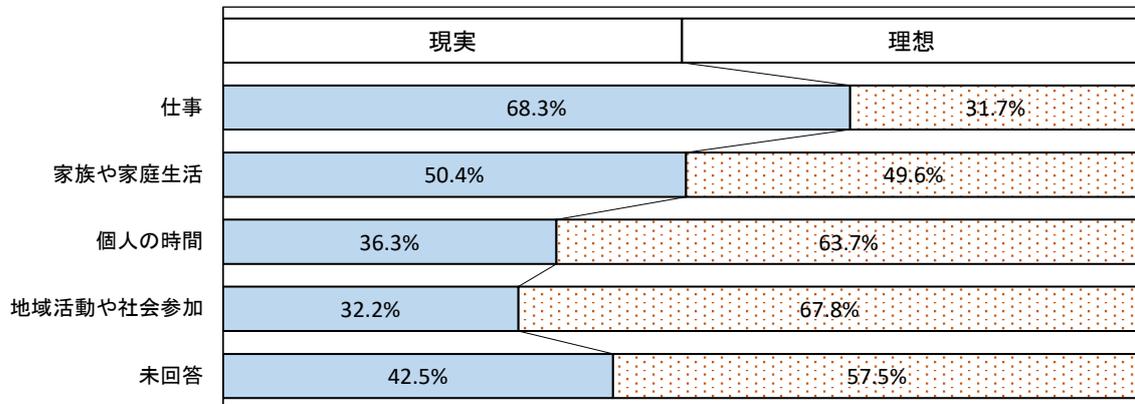
「男性優遇」（「どちらかといえば男性優遇」含む） ⇔ 平等 ⇔ 「女性優遇」（「どちらかといえば女性優遇」含む）

項目	男性優遇		平等		女性優遇	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	46.7	88.9	26.7	0.0	6.7	0.0
30代	52.2	78.8	26.1	3.0	0.0	0.0
40代	57.1	76.0	16.7	10.0	4.8	0.0
50代	55.9	78.4	20.6	5.9	2.9	0.0
60代	63.2	72.9	19.1	8.6	0.0	0.0
70代	67.6	57.4	10.8	13.0	2.7	0.0
80代以上	37.5	35.5	37.5	35.5	0.0	3.2

問 14 あなたの生活において、現実として優先しているものは何ですか。また、理想として優先したいものは何ですか。【〇は項目ごとに3つまで】

n=540 (複数回答 3つまで)

生活の中の優先度



「生活の中の優先度」で、「現実」として優先しているのは「仕事」の68.3%が最も多く、次いで、「家族や家庭生活」の50.4%と続く。

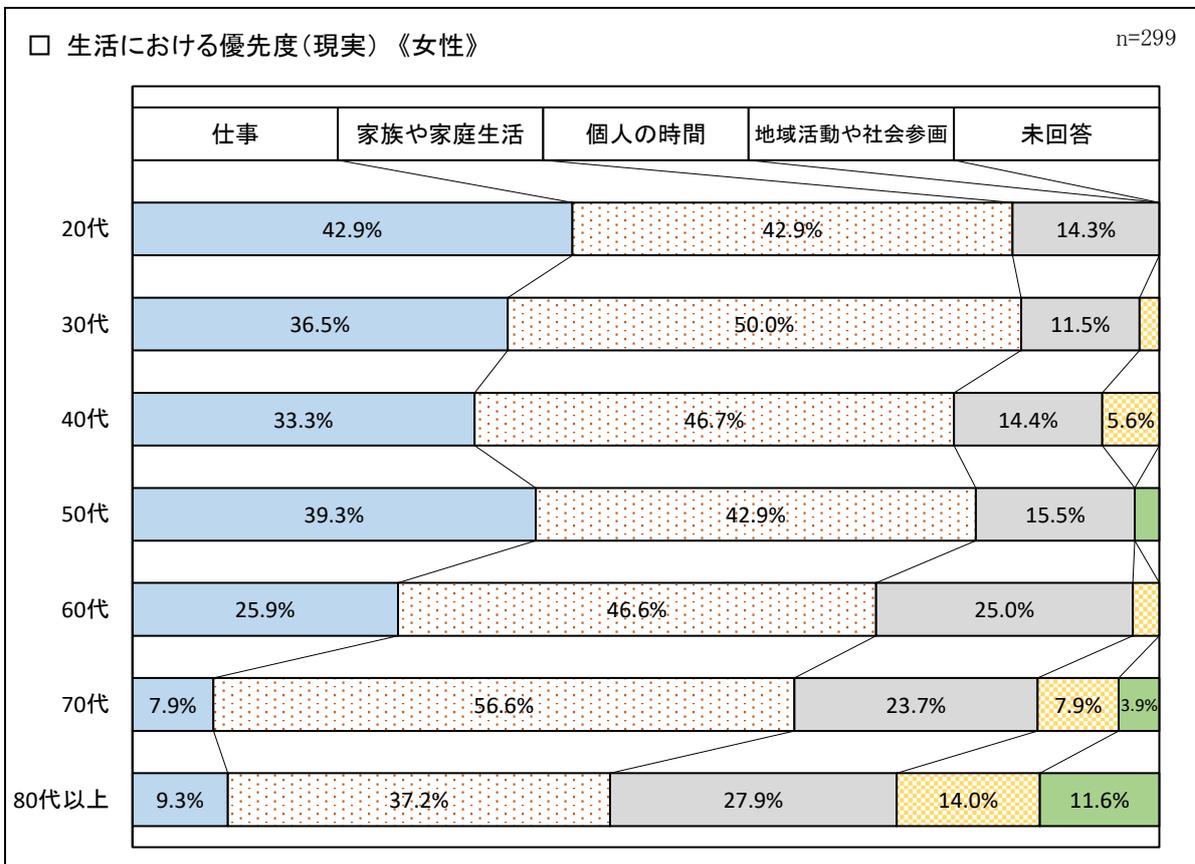
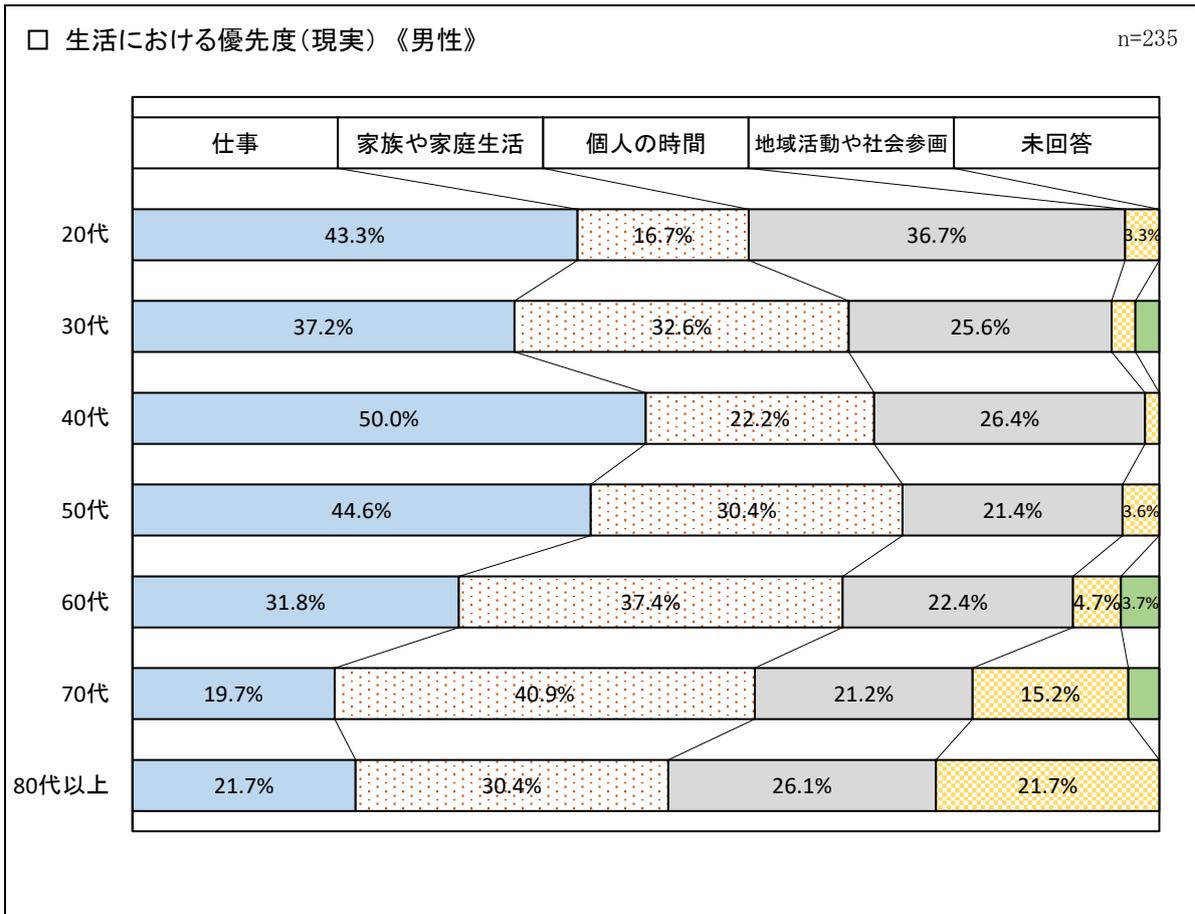
「地域活動や社会参加」は、32.2%と最も少ない。

「理想」では、「現実」とは反対の「地域活動や社会参加」の67.8%の回答が最も多く、次いで、「個人の時間」の63.7%と続く。

現状の生活の中では、「理想」と「現実」の相違が伺われる。

また、5年前と比較をしても、全体的に同じ傾向にある。

①男女・年代別でみる生活における優先度（現実）



#### ■男性回答

「生活における優先度」の「現実」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「40代」の「仕事」で50.0%、次いで「50代」の44.6%と続く。

20代から60代にかけては、「仕事」の割合が3割から5割と他の項目よりも多い。

70代以上になると、「仕事」よりも「家族や家庭生活」の割合が高くなる。

「地域活動や社会参加」の割合は少なく、「80代以上」の21.7%が最も多い。

#### ■女性回答

「生活における優先度」の「現実」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「70代」の「家族や家庭生活」で56.6%、次いで「30代」の50.0%と続く。

「仕事」の割合は、「20代」から「50代」にかけて3割から4割程度となっている。

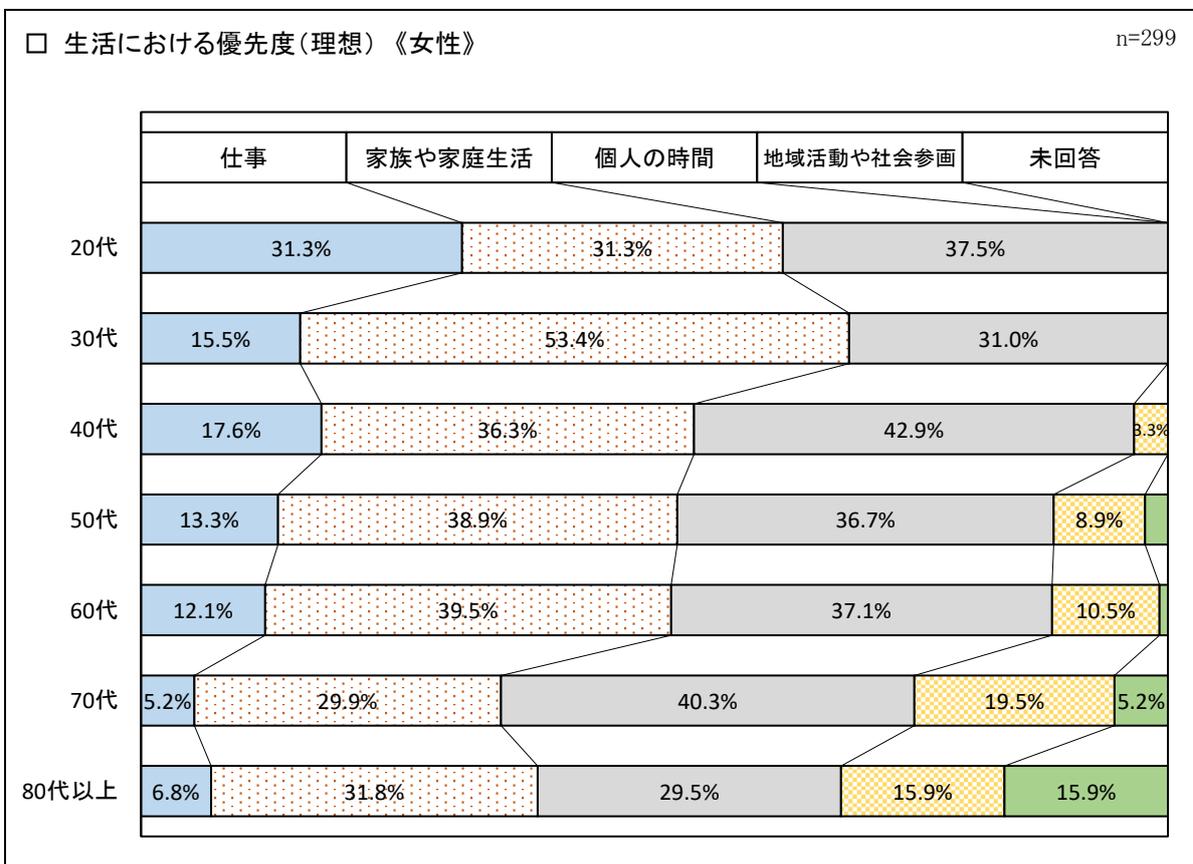
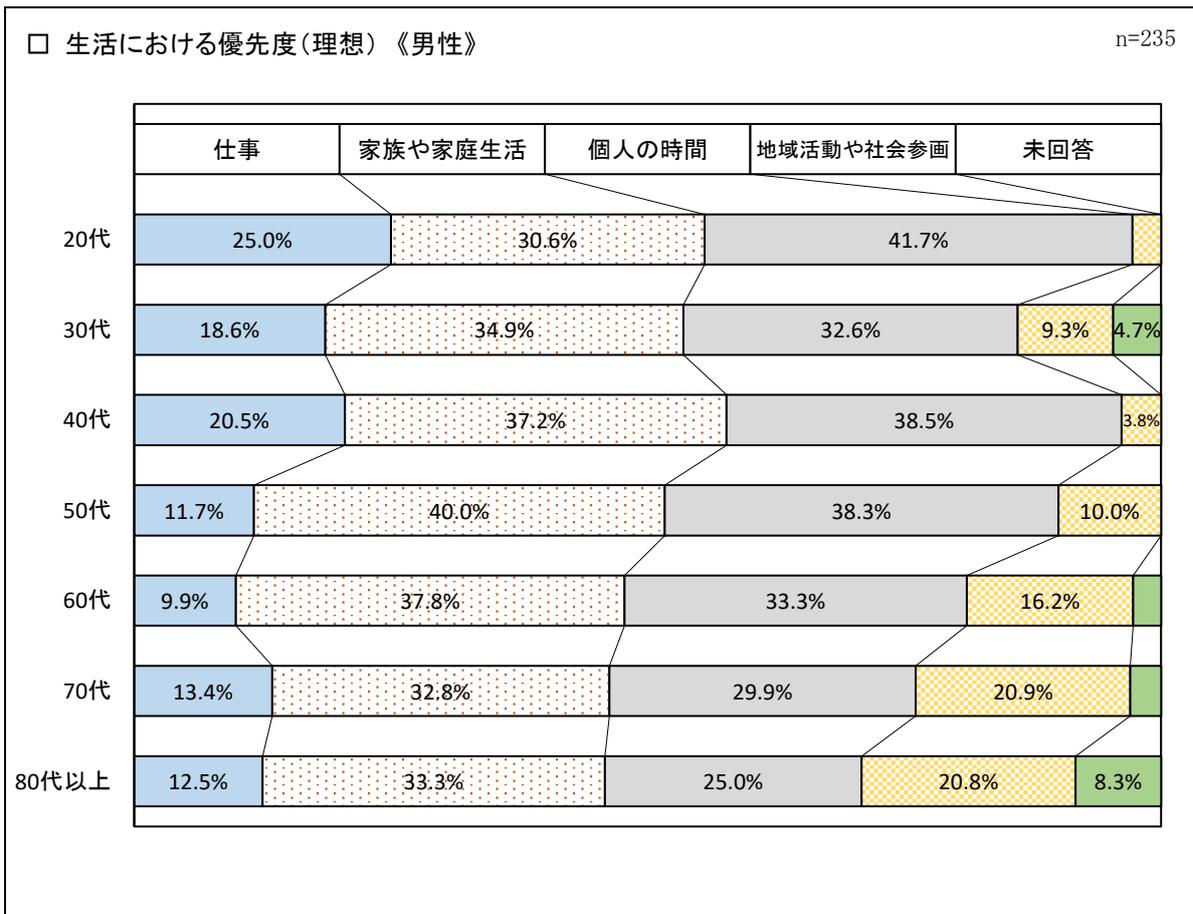
全体的に男性と比べ、「家族や家庭生活」の割合が多い。

#### ■5年前との比較

##### ○生活における優先度（現実）

全体的に5年前と同じ傾向である。

②男女・年代別でみる生活における優先度（理想）



## ■男性回答

「生活における優先度」の「理想」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「個人の時間」で41.7%、次いで「50代」の「家族や家庭生活」の40.0%と続く。

「地域活動や社会参画」については、「70代」、「80代以上」で2割の回答があるが、「20代」、「30代」、「40代」では1割に満たない。

「理想」では、「仕事」よりも、「家族や家庭生活」と「個人の時間」の割合が全ての年代で高くなっている。

## ■女性回答

「生活における優先度」の「理想」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「30代」の「家族や家庭生活」で53.4%、次いで「40代」で「個人の時間」の42.9%と続く。

全ての年代で、「家族や家庭生活」、「個人の時間」の割合が多くを占めている。

これは、男性の割合と同じ傾向にある。

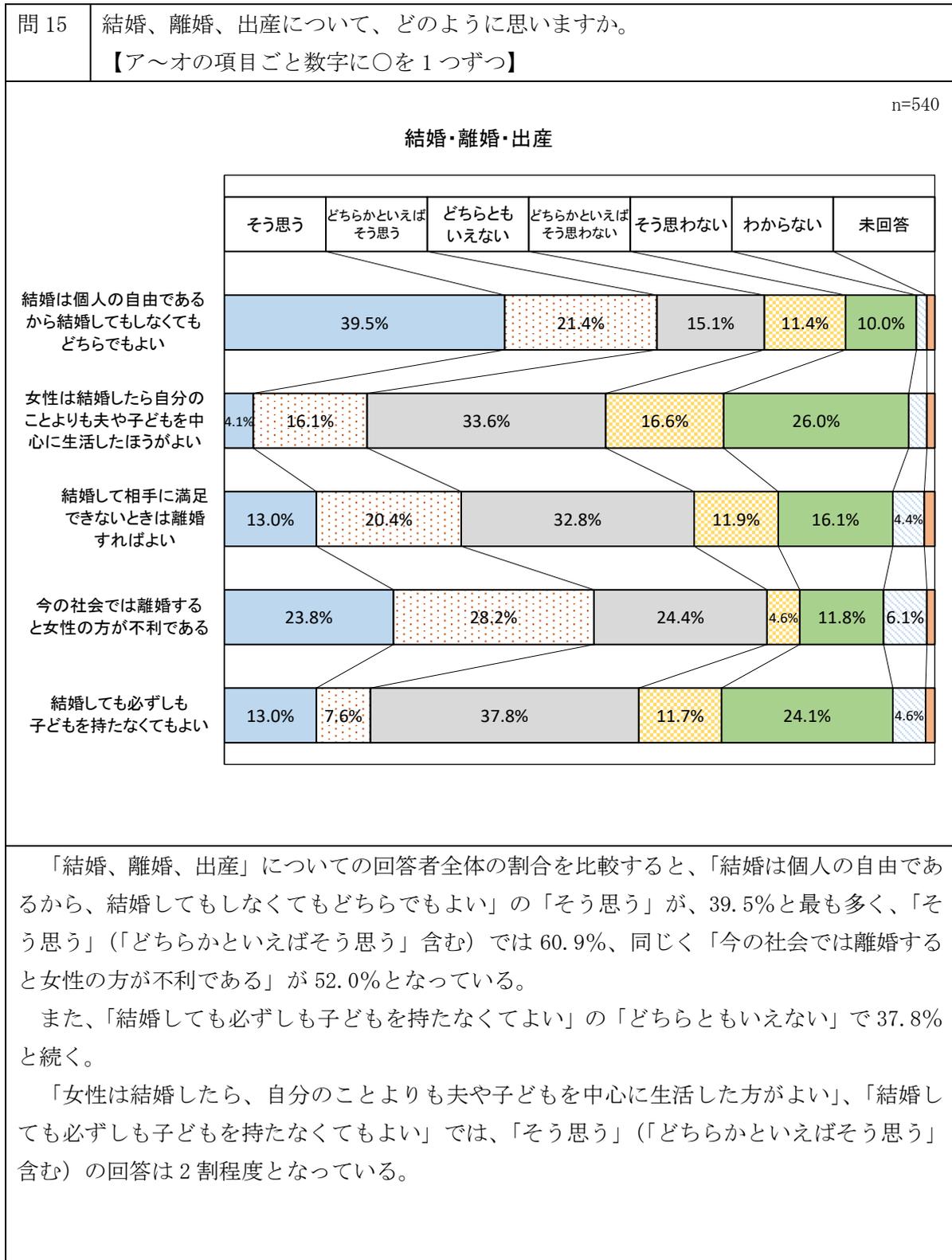
また、「地域活動や社会参画」については、男性と同じで「70代」、「80代以上」の約2割の回答が最も多く、「20代」、「30代」では0.0%、「40代」、「50代」では1割に満たなく、男性同様、他の項目と比べ少ない傾向にある。

## ■5年前との比較

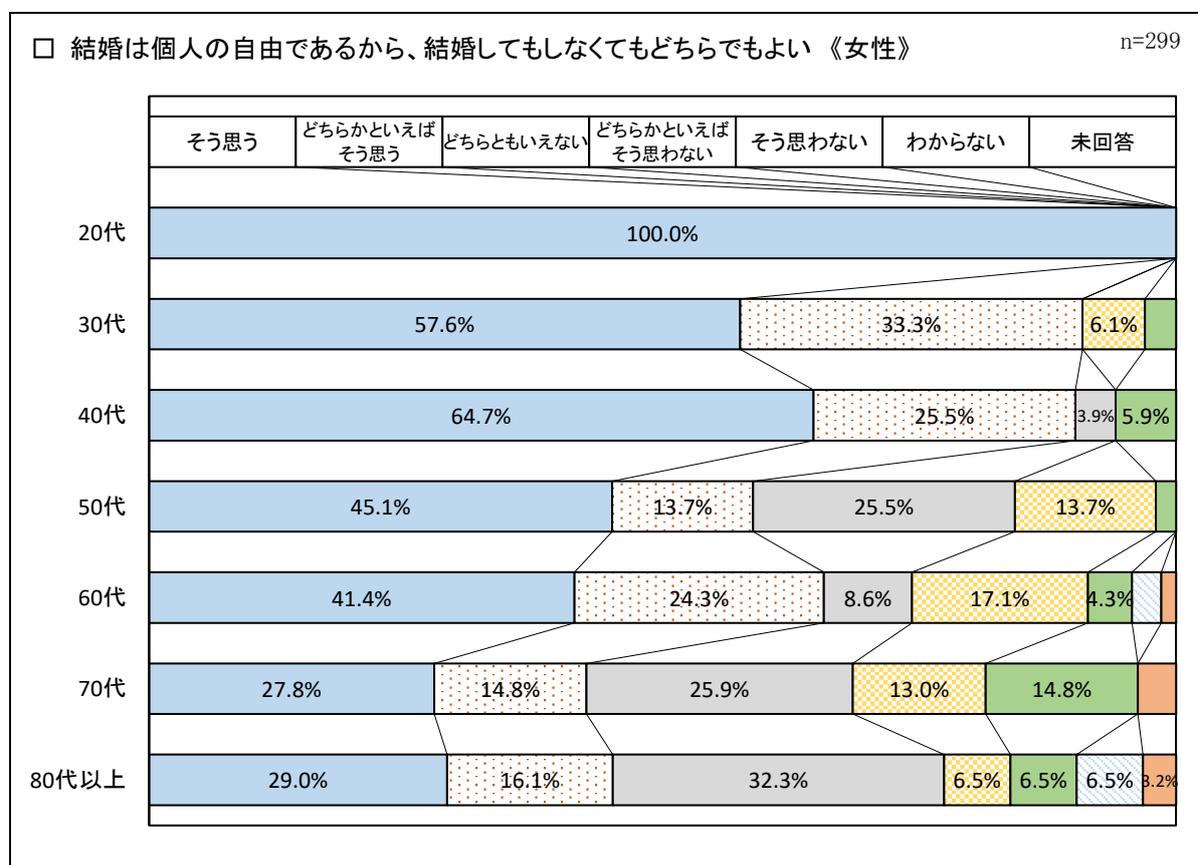
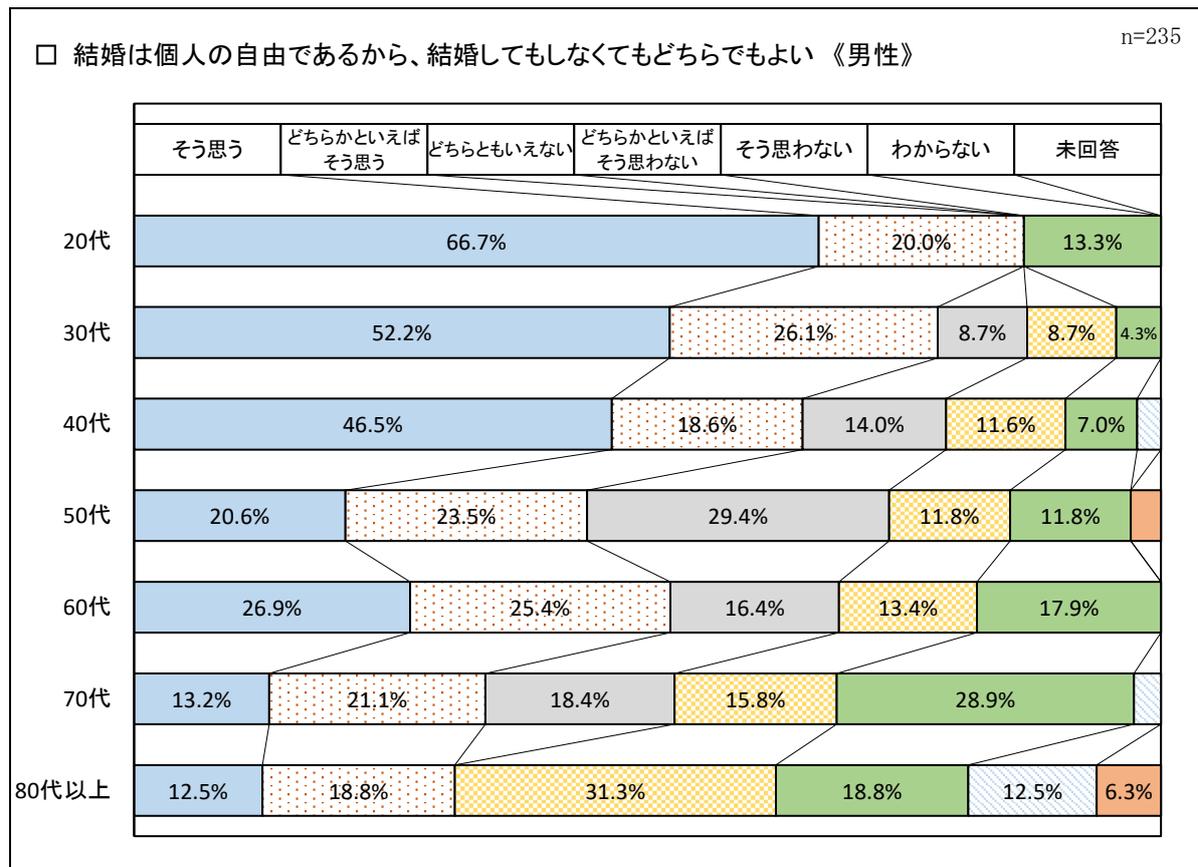
### ○生活における優先度（理想）

全体的に5年前と同じ傾向である。

## 2.結婚や出産について



①男女・年代別でみる結婚、離婚、出産（結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい）



## ■男性回答

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「そう思う」で66.7%、次いで、「30代」の52.2%と続くが、この年代では、「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）の回答が、約8割となっている。

「70代」、「80代以上」になると、「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）の回答割合が約5割と高くなる。

## ■女性回答

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「そう思う」で100%となっており、同じ年代の男性も66.7%と最も高い割合となっており、この年代の結婚に対する意識が伺える。

次いで「40代」の64.7%と続いているが、「30代」、「40代」では、「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）の回答が9割以上となっている。

「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）では、「70代」の27.8%が最も多い。

## ■5年前との比較

○結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

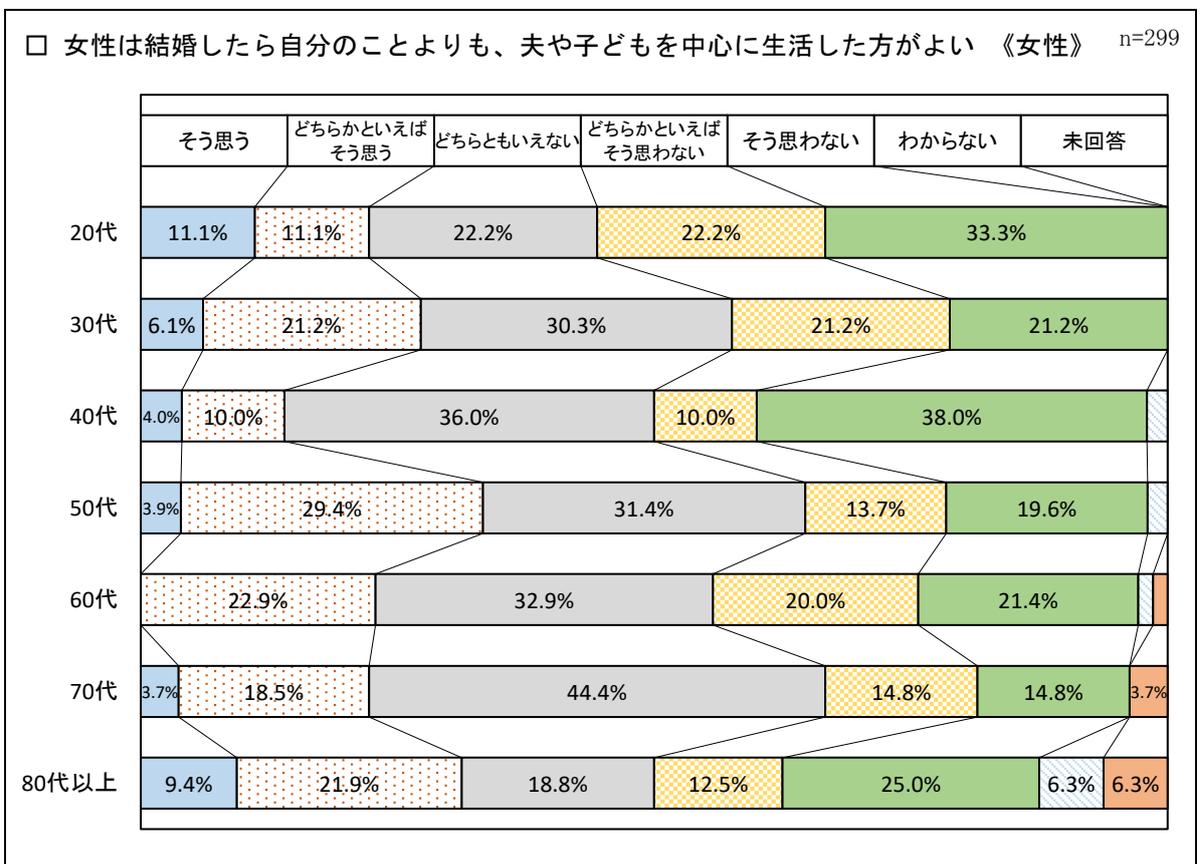
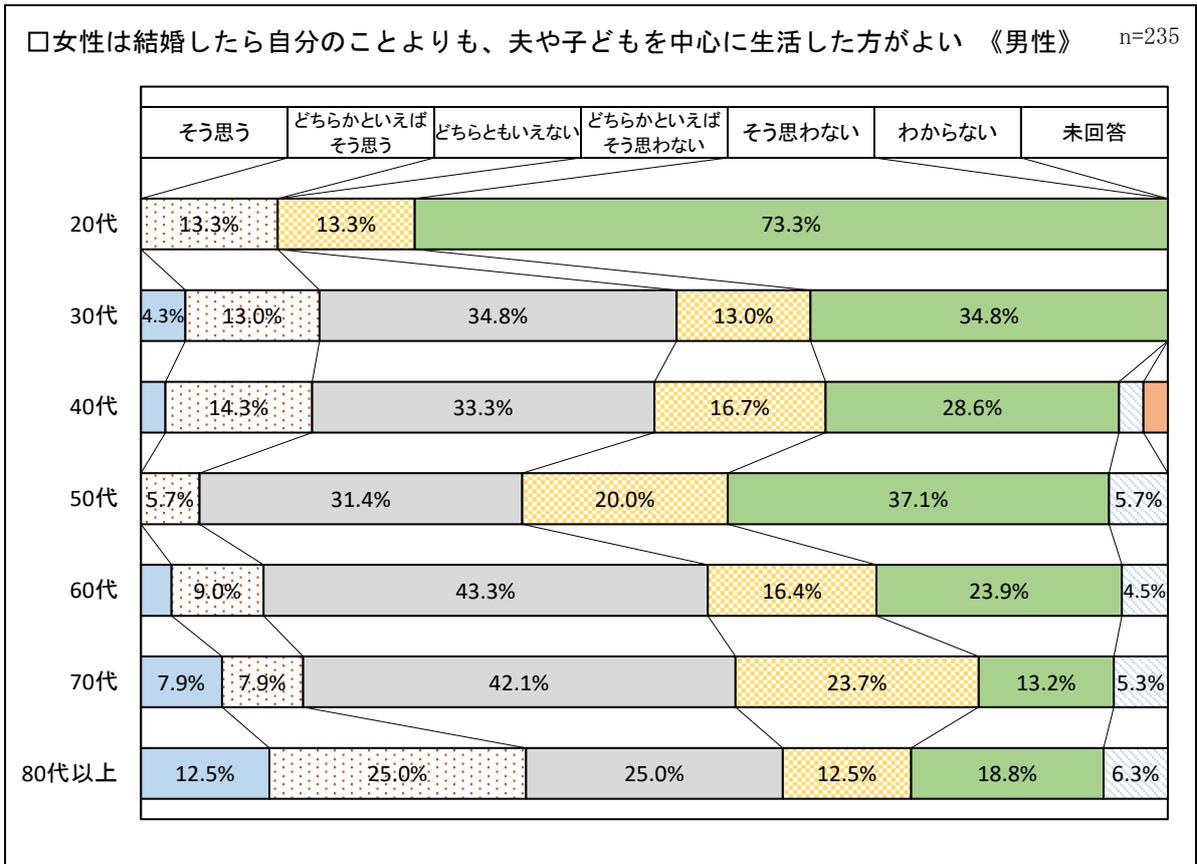
全体的に、「そう思う」の割合が上昇し、「どちらともいえない」の割合が低下している。

## ■男女年代別比較

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）⇔「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）

項目	そう思う		そう思わない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	86.7	100.0	13.3	0.0
30代	78.3	90.9	13.0	9.1
40代	65.1	90.2	18.6	5.9
50代	44.1	58.8	23.5	15.7
60代	52.2	65.7	31.3	21.4
70代	34.2	42.6	44.7	27.8
80代以上	31.3	45.2	50.0	12.9

②男女・年代別でみる結婚、離婚、出産（女性は結婚したら自分のことよりも、夫や子どもを中心に生活した方がよい）



### ■男性回答

「女性は結婚したら自分のことよりも、夫や子どもを中心に生活した方がよい」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「そう思わない」で73.3%、「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）では、86.6%となる。

次いで「60代」の「どちらともいえない」で43.3%と続く。

「30代」から「70代」にかけては、「どちらともいえない」の回答割合が3割から4割となっている。

### ■女性回答

「女性は結婚したら自分のことよりも、夫や子どもを中心に生活した方がよい」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「70代」の「どちらともいえない」で44.4%、次いで「40代」の「そう思わない」で38.0%と続く。

「20代」で「そう思わない」の回答は33.3%と、20代男性の半数以下となっている。

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）の回答では、「50代」の33.3%が最も多い。

### ■5年前との比較

○女性は結婚したら自分のことよりも、夫や子どもを中心に生活した方がよい

全体的に、「そう思う」の割合が低下し、「そう思わない」の割合が上昇している。

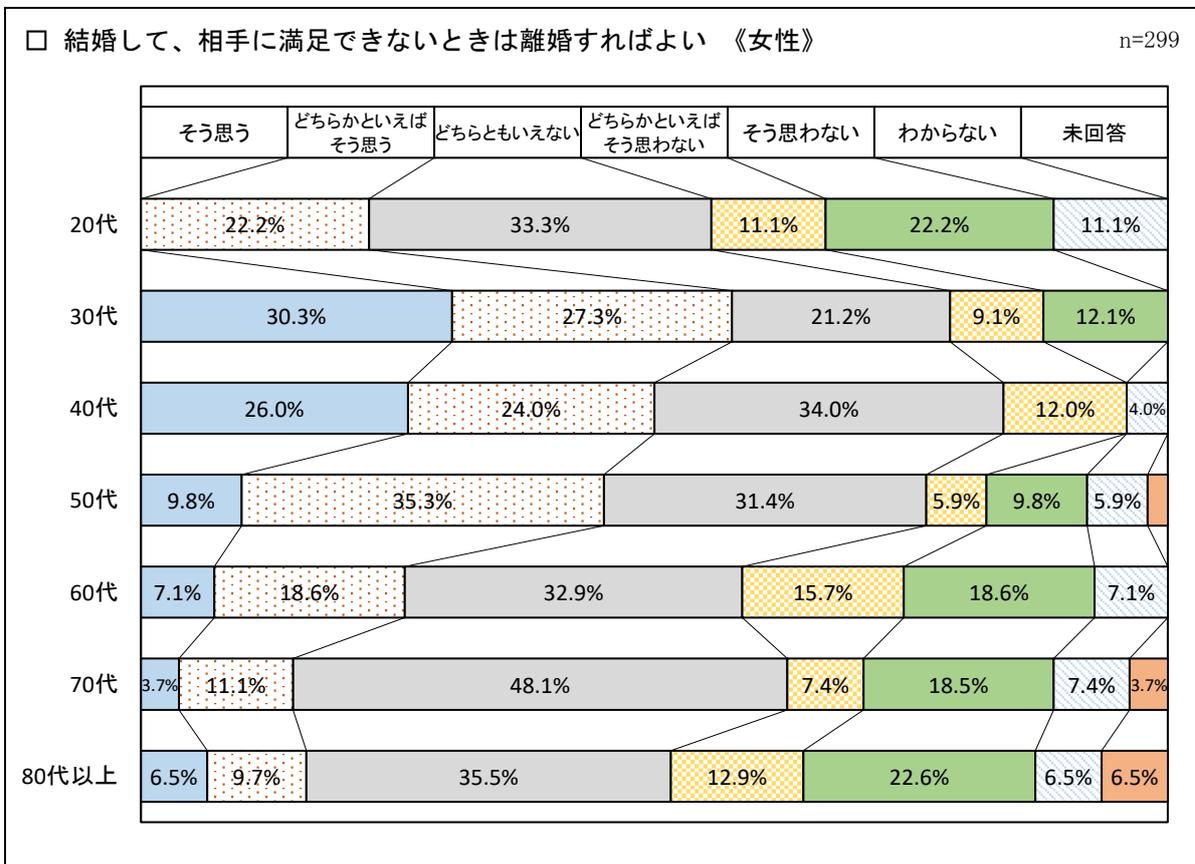
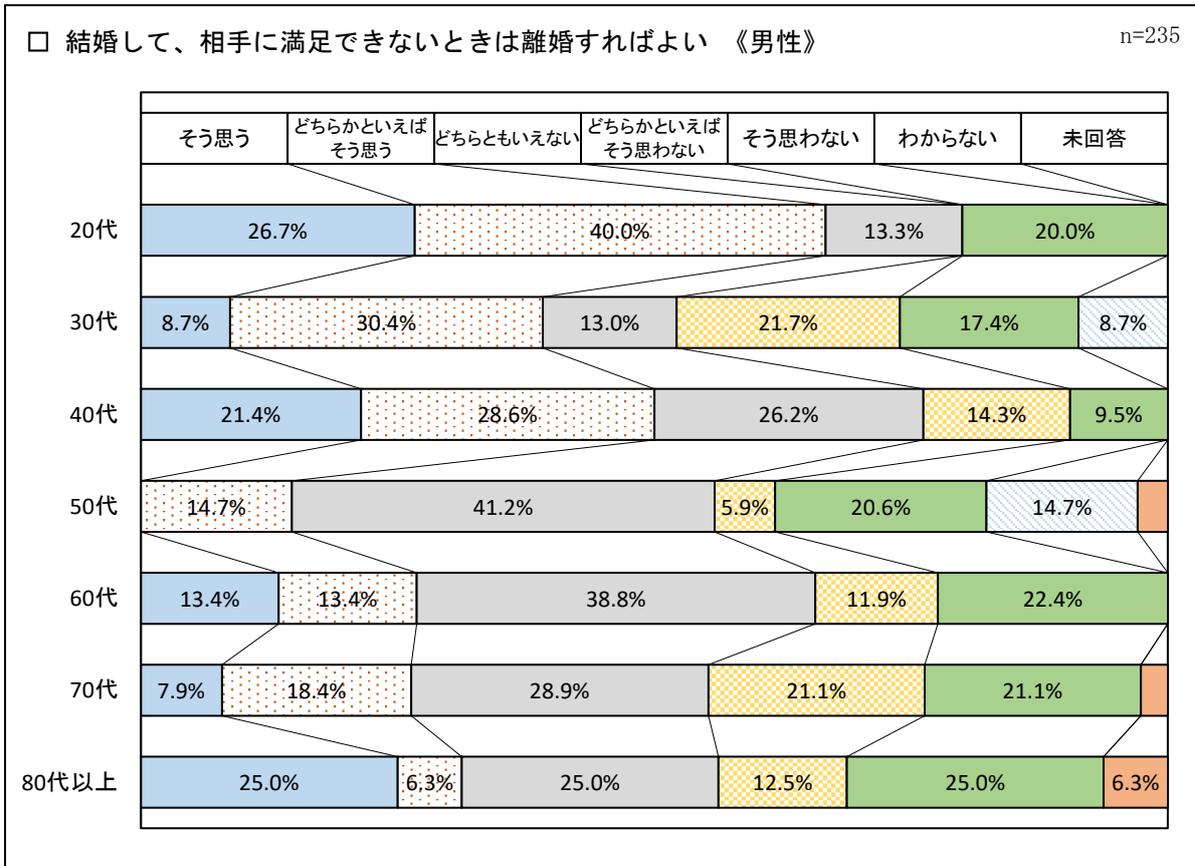
特に男性では1割ほど「そう思う」の割合が低下している。

### ■男女年代別比較

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む） ⇔ 「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）

項目	そう思う		そう思わない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	13.3	22.2	86.7	55.6
30代	17.4	27.3	47.8	42.4
40代	16.7	14.0	45.2	48.0
50代	5.7	33.3	57.1	33.3
60代	11.9	22.9	40.3	41.4
70代	15.8	22.2	36.8	29.6
80代以上	37.5	31.3	31.3	37.5

③男女・年代別でみる結婚、離婚、出産（結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい）



### ■男性回答

「結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「50代」の「どちらともいえない」で41.2%、次いで「20代」の「どちらかといえばそう思う」の40.0%と続く。

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）では、「20代」の66.7%が最も多い。

「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）の回答では、「70代」の42.2%が最も多い。

### ■女性回答

「結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「70代」の「どちらともいえない」で48.1%、次いで「80代以上」の35.5%と続く。

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）では、「30代」の57.6%が最も多く、次いで「40代」の50.0%となっている。

「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）の回答では、「80代以上」の35.5%が最も多い。

### ■5年前との比較

○結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい

全体的に、「そう思わない」の割合が低下し、「そう思う」の割合が上昇している。

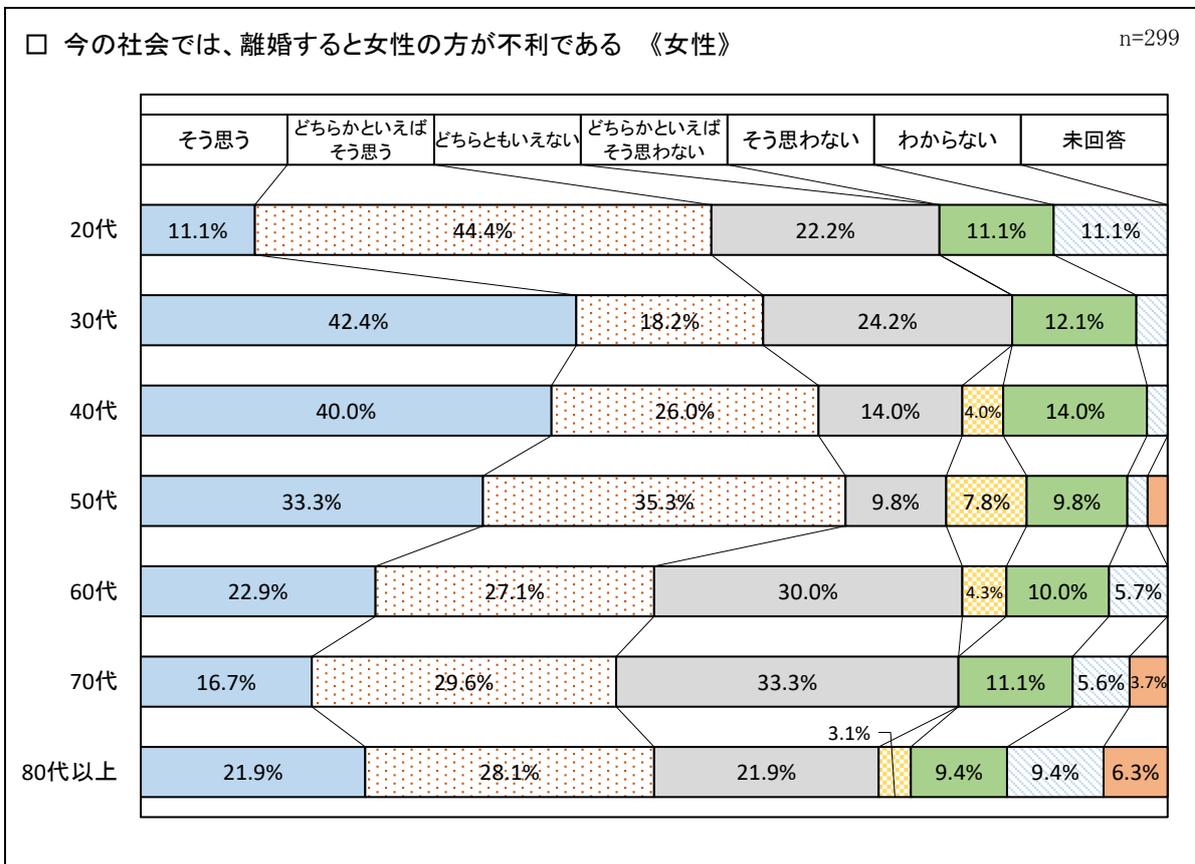
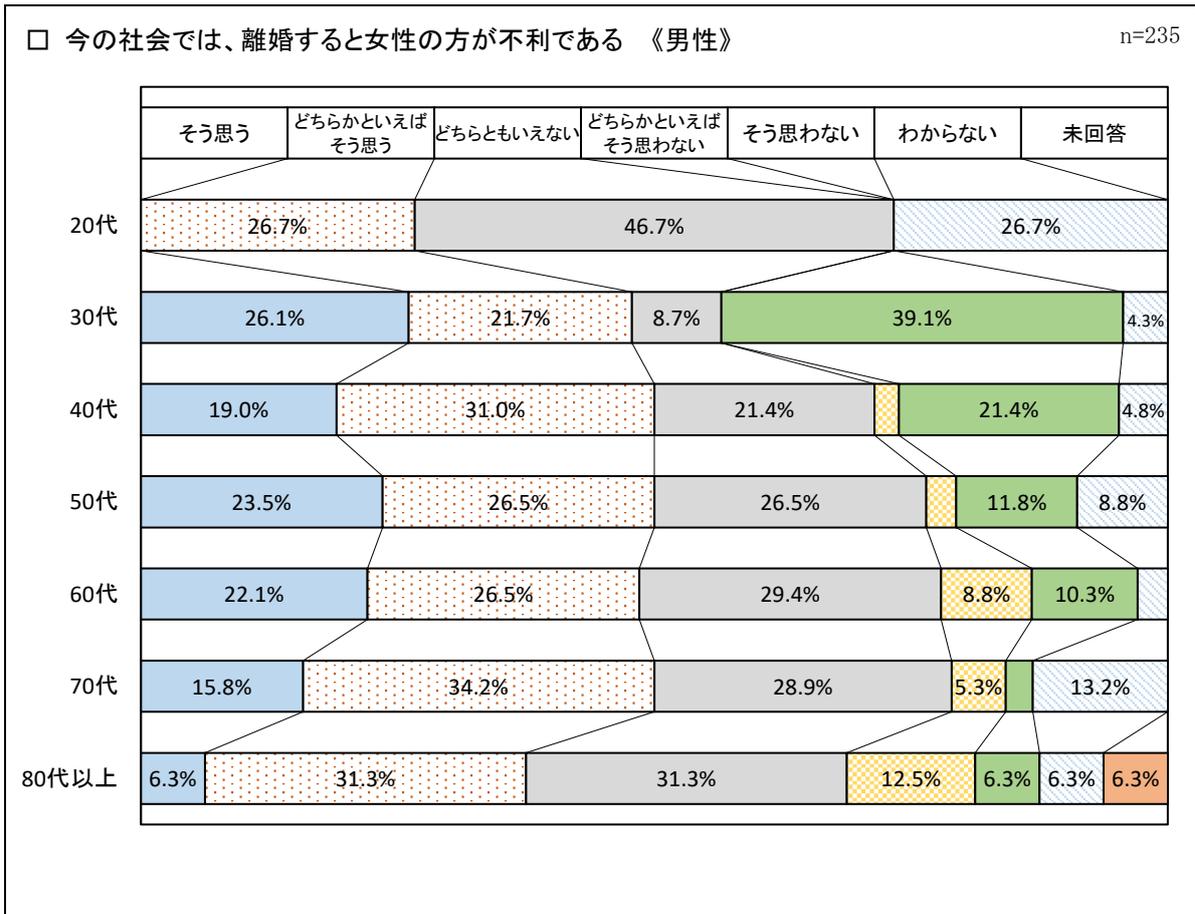
特に女性では、1割ほど「そう思う」の割合が上昇している。

### ■男女年代別比較

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）⇔「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）

項目	そう思う		そう思わない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	66.7	22.2	20.0	33.3
30代	39.1	57.6	39.1	21.2
40代	50.0	50.0	23.8	12.0
50代	14.7	45.1	26.5	15.7
60代	26.9	25.7	34.3	34.3
70代	26.3	14.8	42.1	25.9
80代以上	31.3	16.1	37.5	35.5

④男女・年代別でみる結婚、離婚、出産（今の社会では、離婚すると女性の方が不利である）



### ■男性回答

「今の社会では、離婚すると女性の方が不利である」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「どちらともいえない」で46.7%、次いで「30代」の「そう思わない」で39.1%と続く。

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）では、「40代」、「50代」、「70代」の50.0%が最も多い。

「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）の回答割合よりも、「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）の回答割合の方が多い。

### ■女性回答

「今の社会では、離婚すると女性の方が不利である」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は「20代」の「どちらかといえばそう思う」で44.4%、次いで「30代」の「そう思う」で42.4%と続く。

全体的に、「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）回答割合が多く、「40代」、「50代」で約7割近くの回答があった。

男性と比べて、「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）の回答割合が高い傾向にある。

### ■5年前との比較

○今の社会では、離婚すると女性の方が不利である

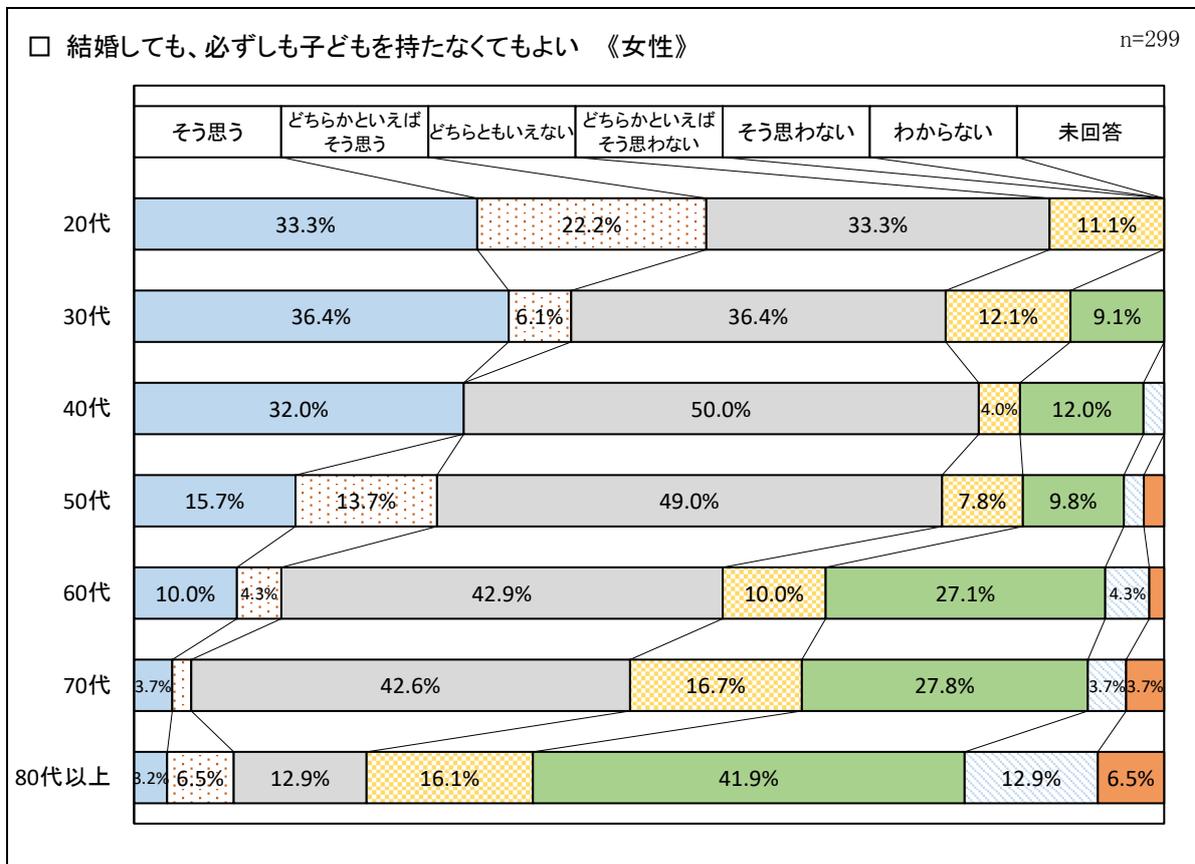
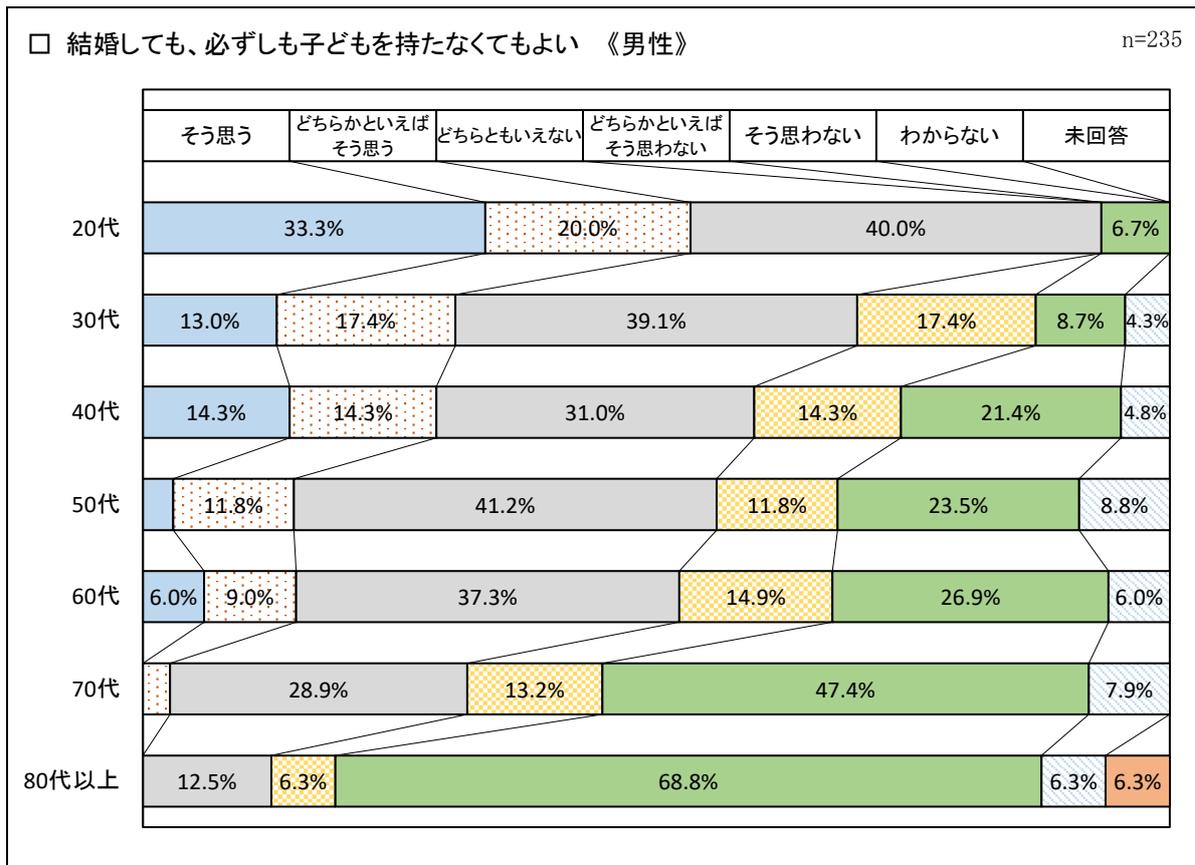
全体的に、「わからない」の割合が低下し、男女ともに「そう思う」の割合が上昇している。

### ■男女年代別比較

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）⇔「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）

項目	そう思う		そう思わない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	26.7	55.6	0.0	11.1
30代	47.8	60.6	39.1	12.1
40代	50.0	66.0	23.8	18.0
50代	50.0	68.6	14.7	17.6
60代	48.5	50.0	19.1	14.3
70代	50.0	46.3	7.9	11.1
80代以上	37.5	50.0	18.8	12.5

⑤男女・年代別でみる結婚、離婚、出産（結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい）



### ■男性回答

「結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい」を男性の年代別で比較し、最も多い回答は、「80代以上」の「そう思わない」で68.8%、次いで「70代」の47.4%と続くが、年代が高くなるにつれ、「そう思わない」の回答割合が高くなる傾向がある。

「20代」では、「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）の回答が、53.3%と最も高くなっており、若い年代層と年配層では、真逆の考えになっていることが伺える。

### ■女性回答

「結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい」を女性の年代別で比較し、最も多い回答は、「40代」の「どちらともいえない」で50.0%、次いで「50代」の49.0%と続く。

「80代以上」を除いて、全体的に「どちらともいえない」の回答割合が高い。

「20代」では、「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）の回答が55.5%と、男性の回答と同じように高くなっている。

年代が高くなるにつれ、「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）回答割合が高くなる傾向は、男性回答と同じである。

### ■5年前との比較

○結婚しても、必ずしも子どもを持たなくてもよい

全体的に「そう思わない」の割合が低下し、「どちらともいえない」の割合が上昇している。

### ■男女年代別比較

「そう思う」（「どちらかといえばそう思う」含む）⇔「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」含む）

項目	そう思う		そう思わない	
	男性 (%)	女性 (%)	男性 (%)	女性 (%)
20代	53.3	55.6	11.1	6.7
30代	30.4	42.4	21.2	26.1
40代	28.6	32.0	16.0	35.7
50代	14.7	29.4	17.6	35.3
60代	14.9	14.3	37.1	41.8
70代	2.6	5.6	44.4	60.5
80代以上	0.0	9.7	58.1	75.0

問 16 全国的に出生数が減少していますが、その理由は何だと思えますか。  
【○はあてはまるもの全て】

n=540 (複数回答あてはまるもの全て)

出生数減少理由



- 子どもの教育にお金がかかる
- 経済的に余裕がない
- 子どもは欲しくないと考えている人が多い
- 仕事をしながら子育てするのが難しい
- 未回答
- 結婚しない人が多い
- 結婚年齢が上がっている
- 趣味を大切にしている人が多い
- その他
- 育児の負担が女性にかかる
- 家が狭い
- 育児に心理的、肉体的な負担がかかる
- わからない

「出産数の減少理由」について回答者全体の割合を比較すると、それぞれの回答項目が平均化しているが、最も多い回答は、男女ともに「仕事をしながら子育てするのが難しい」で、男性が 15.9%、女性が 15.6%となっている。

次いで、男性の「子どもの教育にお金がかかる」で 15.6%、女性の「結婚しない人が多い」で 14.6%と続く。

最も少ない回答は「家が狭い」で、男性が 1.4%、女性が 1.2%であった。

5年前との比較では、変わらずに全体的に同じ傾向である。

## ●その他

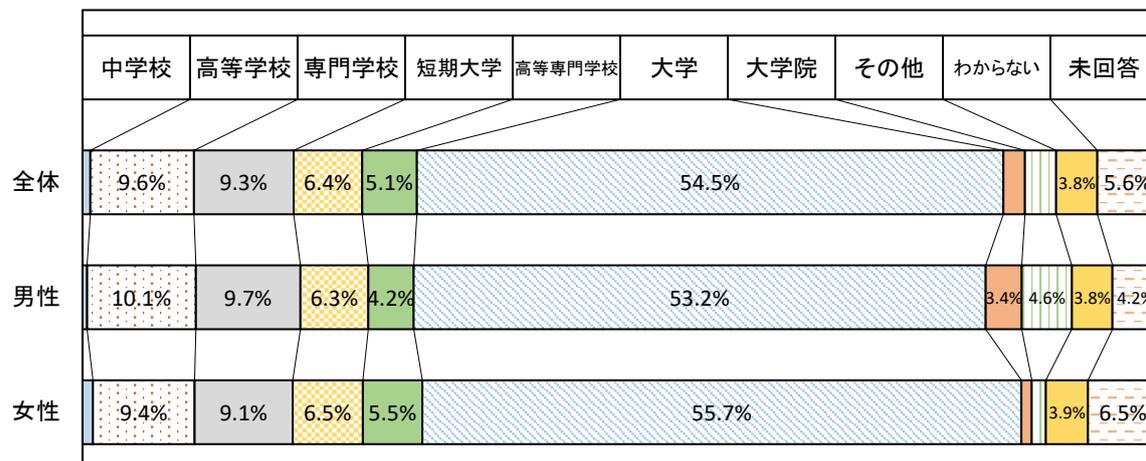
- \*夫婦共働きで生活する負担（経済的にも）が多く、子供を多く育てることができない。
- \*男女の出会いの場が少ない、結婚できない人が多い。
- \*子供がほしくてもできない。
- \*そもそも妊婦さんに優しくない社会であるため。
- \*子供への愛情を感じたりする事がなく、育児等への負担だけを考えたり、情報を得たりしてしまう。子供を持つことへの不安が大きい。
- \*男性が協力的ではない。
- \*結婚や育児への魅力が低下していると感じている人が増えた？
- \*世の中がそう言う体制になっていない。
- \*女性に「仕事、家事、育児、介護」と、すべてしろと言う気がする。
- \*保育所など公の施設が少ない。
- \*自分のやりたい事を優先したい人が多いから。
- \*女性の進学率が高くなれば出生数が下がる。教育制度、女性の社会進出に無理が多い。
- \*子供、子育ての素晴らしさを知らない。
- \*男女とも正社員になれず結婚出来ず、出産も考えてしまう。老親の面倒もみなくてはならない。
- \*安い賃金で長時間働いて子育てまでするのは現実的に無理。賃金が安いのに結婚して子供まで育てようとは到底思えない。
- \*不妊治療にお金がかかる。
- \*社会環境が子育てしやすく整備されてない。
- \*1~2名程度しか望んでいない。
- \*生活環境・食品添加物等の変化による精子量の減少。
- \*非正規雇用の若者が多く、不安定なため結婚も出来ないし子供は考えられないと聞きます。非正規雇用の若者を減らしていく対策を考え実行して欲しい。
- \*仕事にやりがいを感じる。
- \*家族を含め日本全体で子供を育てるという考え方をしないと、日本民族は滅びるのではないか。
- \*女性の社会進出。
- \*義務教育なのにお金がかかり過ぎ。義務とするなら無償にする。

### 3.子育てについて

問 17 自分子どもにはどこまでの教育（最終学歴）を受けさせたいと思いますか。  
 （お子さんがいない方、お子さんが既に学校を卒業された方は、ご自分に小さなお子さんがいると仮定してお答えください。）【○は項目ごとに1つずつ】

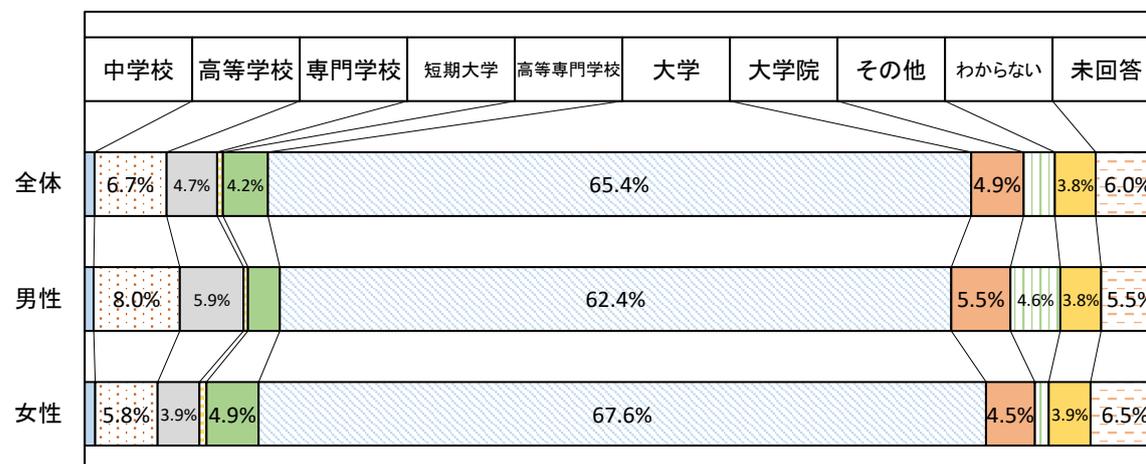
□ 子どもの教育（最終学歴） 女の子

n=540



□ 子どもの教育（最終学歴） 男の子

n=540



● その他

\*本人の意志に任せたい。

\*子どもの自由。

\*その子のやりたいことのために必要なところまで。親が決めることではない。

\*男の子は4年生の大学を卒業しないと就職は難しい。

■「子どもの教育（最終学歴）女の子」

「子どもの教育（最終学歴）女の子」の設問に対し、男性の最も多い回答は、「大学」の53.2%で、半数以上を占めている。

同じく「女性」の回答でも「大学」の55.7%で、ほぼ男性と同じ割合となっている。

次に回答が多かった「高等学校」、「専門学校」については1割程度と、子ども（女の子）の最終学歴は、男性、女性ともに「大学」を希望している。

■「子どもの教育（最終学歴）男の子」

「子どもの教育（最終学歴）男の子」の設問に対し、男性の最も多い回答は、「大学」の62.4%、女性も同じく「大学」の67.6%であった。「女の子」に対する「大学」の回答割合よりも、1割ほど高い割合となっている。

約5%の割合だが、「大学院」を受けさせたいとの回答が、「女の子」よりも多い。

「専門学校」においては、「女の子」の割合の約半数程度と少なくなっている。

■5年前との比較

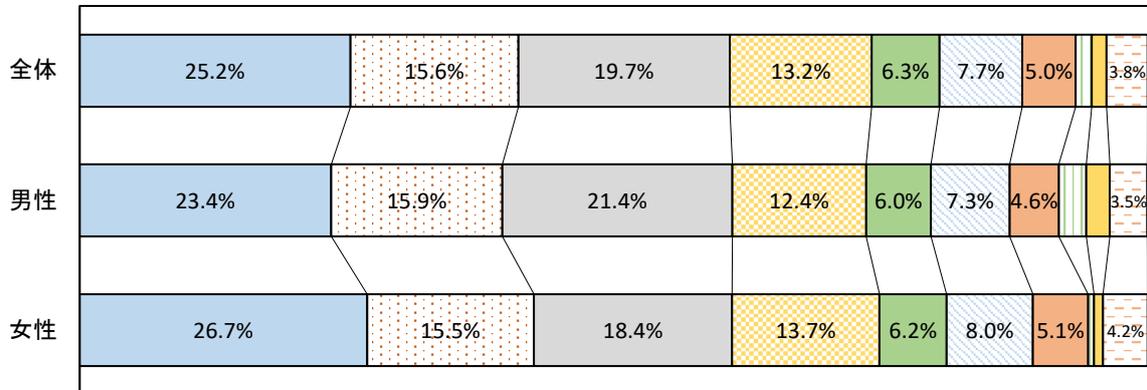
○子どもの教育（最終学歴）

5年前との比較では、変わらずに全体的に同じ傾向である。

問 18 あなたは男女平等意識を高めるために、学校教育で必要なことは何だと思えますか。【〇は3つまで】

n=540 (複数回答 3 つまで)

必要な学校教育



- 進路指導や職業教育において、男女を問わず児童・生徒個人の希望や能力を重視して行う
- 特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず児童・生徒個人の希望と能力を重視する
- 児童・生徒に対し、人権や男女平等に関する教育を充実させる
- 教員に対し、人権や男女平等に関する研修を充実させる
- PTA等の会合等を活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行い、男女平等意識を醸成しやすい生活環境をつくる
- 女性の校長や教頭を増やすことにより、児童・生徒の男女平等意識を高める
- 学校のクラス名簿に男女混合名簿の導入を推進することによって、児童・生徒に男女の隔たりを感じさせないようにする
- その他
- 今のままでよい
- わからない
- 未回答

「男女平等意識の向上における必要な学校教育」で回答者全体の割合を比較すると、最も多い回答は「進路指導や職業教育において、男女問わず児童・生徒個人の希望や能力を重視して行う」で、男性 23.4%、女性 26.7%となっており、次いで「児童・生徒に対し、人権や男女平等に関する教育を充実させる」で、男性 21.4%、女性 18.4%と続く

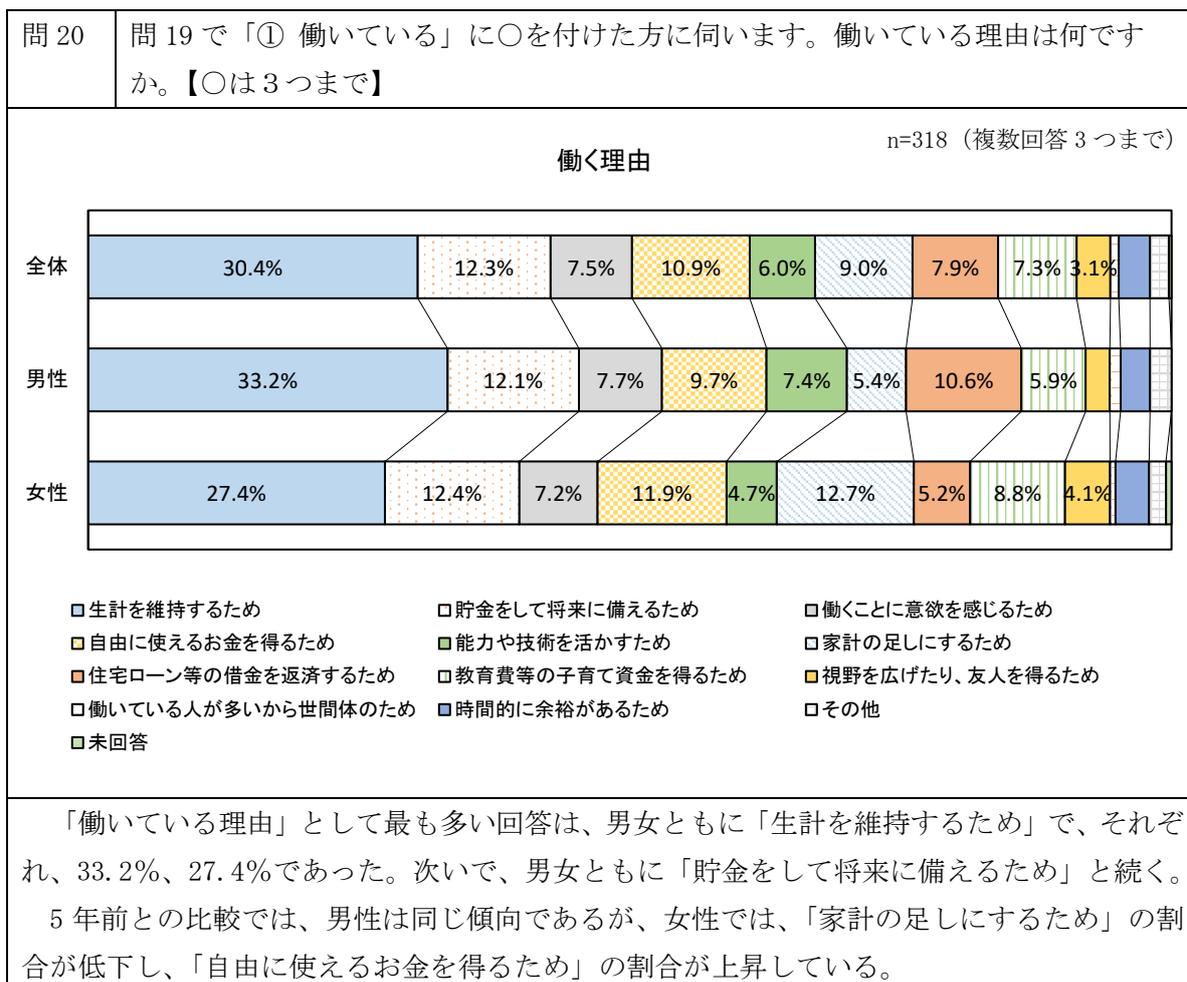
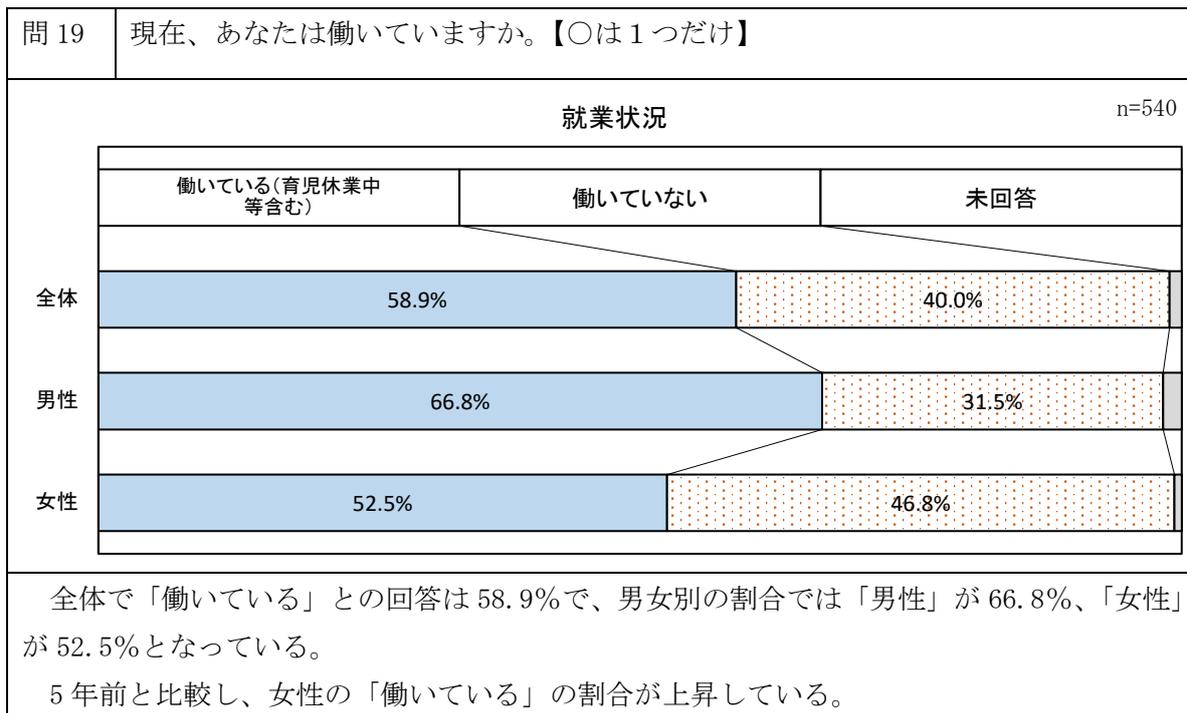
男性と女性の考え方に、あまり相違は無い。

5年前との比較では、全体的に変わらずに同じ傾向である。

## ●その他

- \*教員のレベルアップ、特にゆとり教育になってからの教師は、道徳的モラルの欠落、サラリーマン化している。指導するというより、こなしている感じがする。
- \*男女の違いを教える時間や機会を設ける。生理などについて詳しく男子にも教え、身体や能力（脳の作り）の違いを両性ともに学ばせる。
- \*平等という言葉は1人歩きさせるのではなく、どういう意味で平等なのかを前提条件を教える。ex. 法の下での平等、水平的平等と垂直的平等。
- \*社会の仕組み、特に収入面等金銭面による生活の影響や、経済的な教育を盛り込んだ方が良くと思います。
- \*政治家の半数を女性が占める社会。
- \*中学の教員が男女とわず言葉遣いがヒドイ。大人としての言動をとるように教育しないとダメだと思う。
- \*性による差は存在するので、そこを踏まえた上で男女平等を教育する。何でもかんでも平等というのは少し違うと思う。
- \*急激な意識改革は無理を生む。女性のセカンドキャリアが成立する社会にして行く必要がある。人口減少が進む中では男女平等が最優先とは思わない。
- \*落ちこぼれになる前に早目に救いの手を伸ばす。都会と地方の格差を減らさないと地方から出ていく。地方に仕事を持って来る。地方の若者を都会に吸い上げられるのを防ぐための処置を考えられないか？
- \*身体的能力や思考パターン・文系・理系、その人が何が得意か等によって男女関係無しに相手に接することが当たり前的事と感じさせるようにする。
- \*口でどうこう言うのではなく、実際に経営陣等の女性比率を高める。
- \*性差からくる得意不得意は必ずある。かたよってもいい。そこを否定するべきでない。不自然に平等を演出しない。男女ではなく、個人の意思を尊重する。
- \*学校教育でわざわざ高める必要はない。
- \*男女の枠をつくらず正しく他者を評価出来る人を育てる＝知育
- \*平等意識はあっても動物本能で自然に意識差が出るのではないか？
- \*大人社会より子どもの教育を重視する。

#### 4.仕事について



●その他

\*母子家庭なので働かなければ生活できない。

\*理由を聞く意味がわからない。

\*国民の義務だから。

\*年金が無いので。

\*養育費を払うため。

\*寿命延伸、ボケ防止。

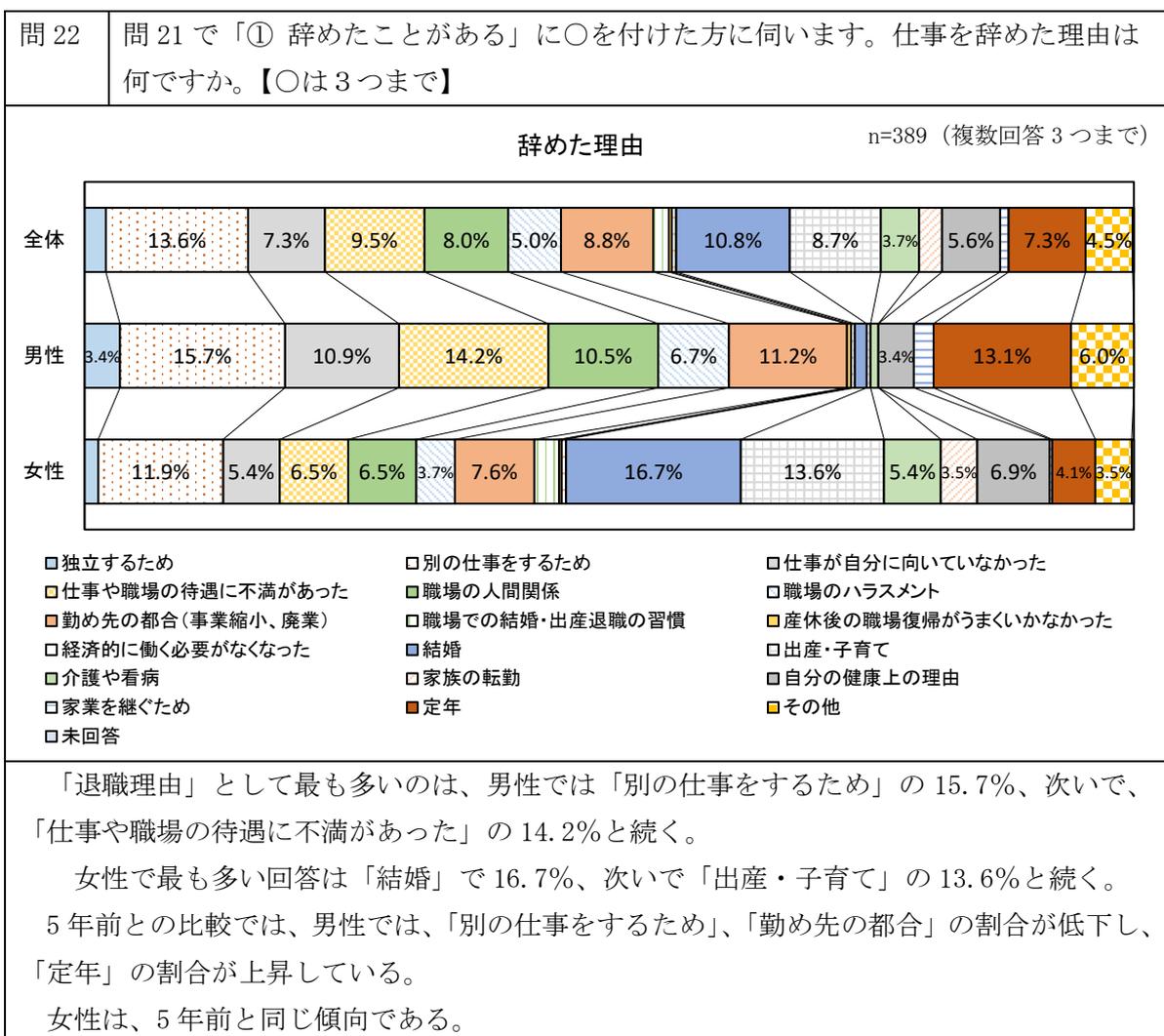
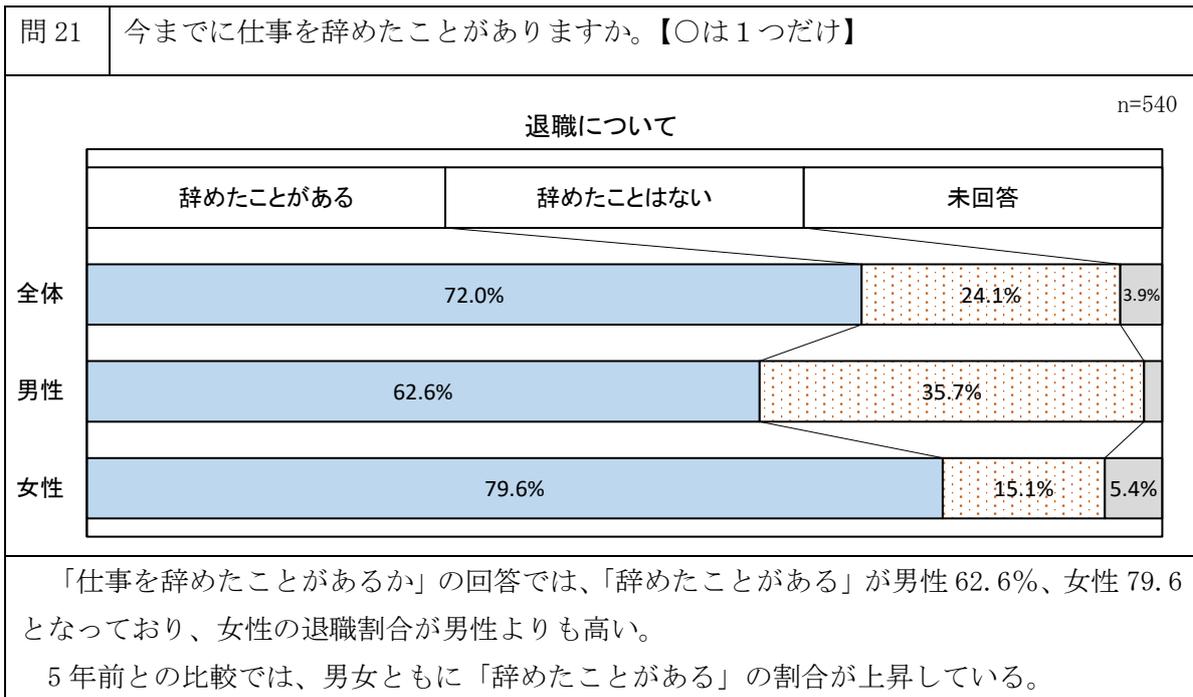
\*自営のため。

\*親への仕送りのため。

\*主人の事業の手伝い。

\*仕事をしないと食べていけない。

\*今生で生きた証とするため。



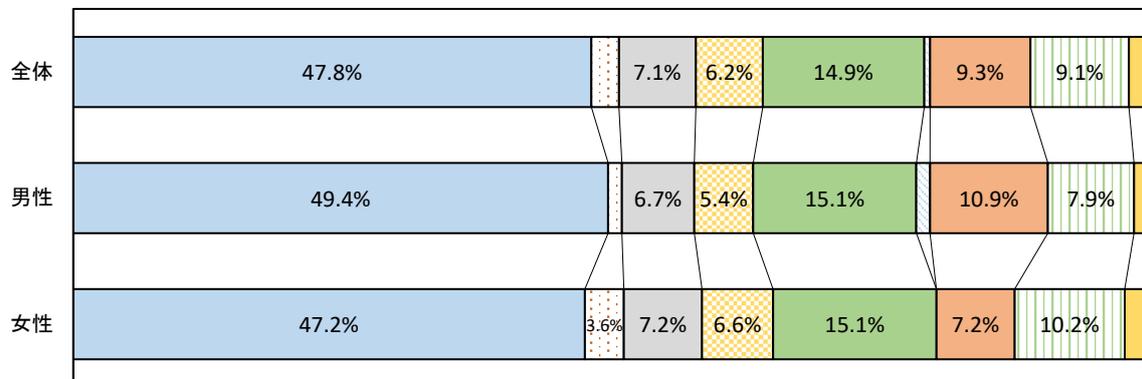
●その他

- \*自身の病気。
- \*田舎に帰るため。
- \*出産でクビ、H14の時代。
- \*親が死去。実家に戻るため。
- \*震災。
- \*給与が不定期だったので。
- \*倒産したため。
- \*妊活のため。
- \*大学に通うため。
- \*農業なのでやめるわけいかない。
- \*自宅を建てるため高い給料をかせぐ仕事。
- \*夫の転勤。
- \*単身での異動。
- \*留学。
- \*夫が他県で勤務していたため。
- \*期間が定められていたため。
- \*将来の不安。
- \*収入を安定させるため大きな会社に入社した。
- \*自分のステップアップのため。
- \*住む場所が合わなかった。

問 23 女性が仕事をする事について、どのように思いますか。【○は1つだけ】

女性の仕事について

n=540



- 生涯にわたり、仕事をするのがよい
- 結婚するまでは、仕事をするのがよい
- 子どもができるまでは、仕事をするのがよい
- 家族の介護が必要になるまでは、仕事をするのがよい
- 子育てや家族の介護が必要でない時期だけ、仕事をするのがよい
- 仕事はしないほうがよい
- その他
- わからない
- 未回答

「女性の仕事について」で最も多い回答は、男性、女性ともに、「生涯にわたり、仕事をするのがよい」で、男性 49.4%、女性が 47.2%となっている。

次いで「子育てや家族の介護が必要でない時期だけ、仕事をするのがよい」が、男性・女性ともに 15.1%と続く。

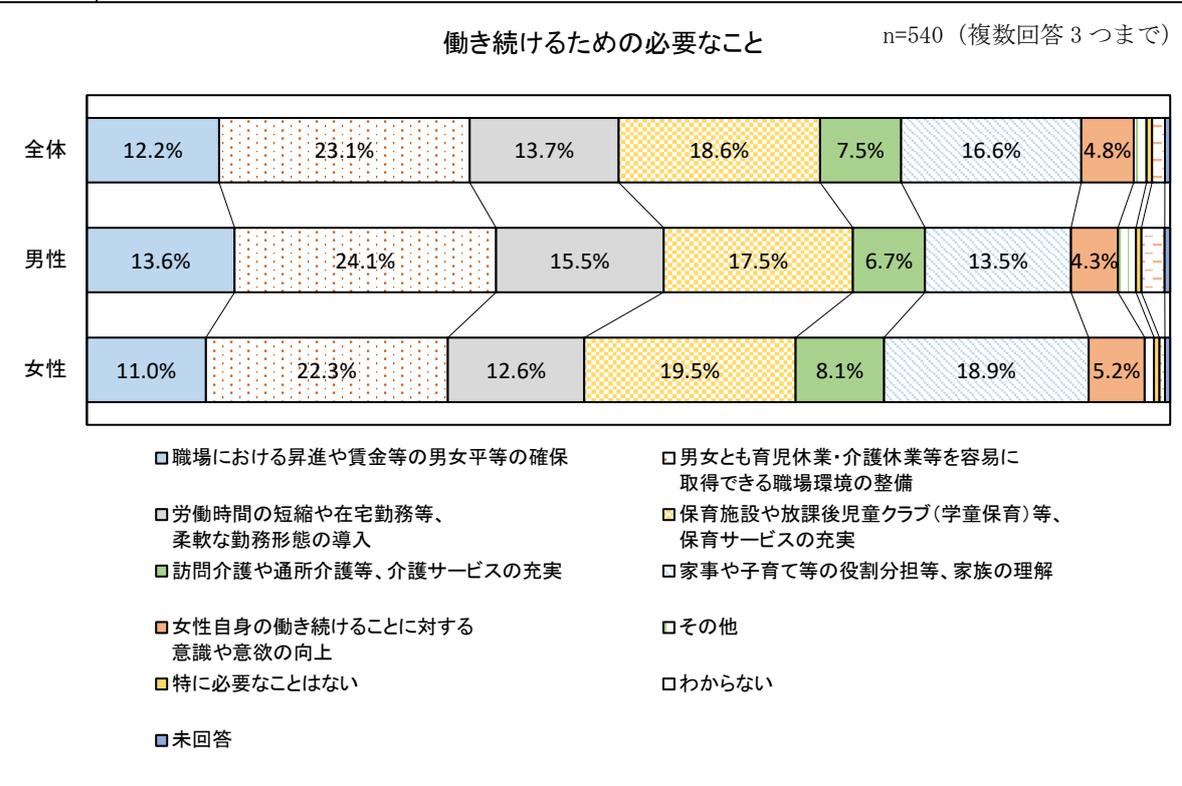
5年前との比較では、全体的に「子どもができるまでは、仕事をするのがよい」、「家族の介護が必要になるまでは、仕事をするのがよい」の割合が低下し、「生涯にわたり、仕事をするのがよい」の割合が上昇している。

●その他

- \*人それぞれで良いと思う。
- \*働かなければ生活ができない。
- \*家庭の都合にあわせて働けばよい。
- \*労働力が不足している今、女性も働くのは良いこと。しかし、労働環境が整っていないので働けない人が多すぎる。
- \*その家庭によって千差万別、当事者の考え。
- \*個人の自由。仕事に性別は関係ない。男性も主夫になれる。

- \*能力や、やる気があれば期間はない。
- \*幸せの価値観により、選ぶべきだ。
- \*結婚するまでにキャリアを積み、子育て後復帰すれば良い。
- \*仕事は自分自身にプラスの生き方ができれば生涯であって良いと思う。
- \*仕事をするかしないかは、自分の状況を理解して自分できめればよい。「男性が」とか「女性が」は関係ない。
- \*家庭の優先順位を考えながらその時に合った働き方をする。
- \*本人の考え、夫婦であれば夫婦で話し合い、夫が子育てで介護も1つの考え。
- \*子供を育て上げても仕事はしていきたいがよいと思いました。
- \*やりがいのある仕事が見つければその仕事を続けられれば良いと思う。
- \*時期を問わず自分がここまでと決断した時迄仕事をする。その後は何でも良いが社会とのかわりを持っていた方がよい。
- \*男の給料で家計が維持できないから奥さんも働かないといけない。

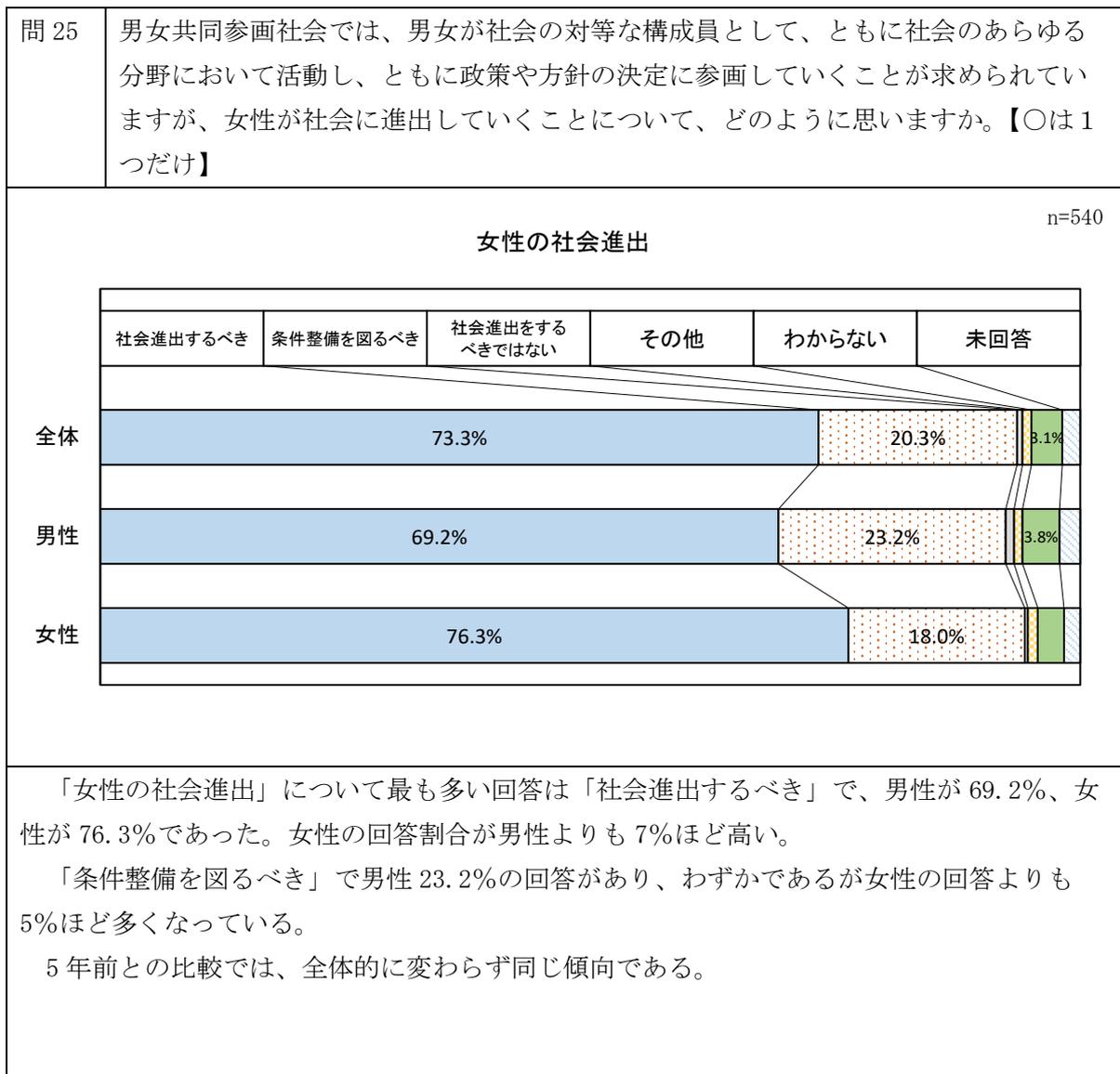
問 24 結婚した男女（夫婦）がともに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】



「夫婦が働き続けることで必要なこと」で、最も多い回答は男性、女性ともに「男女とも育児休業・介護休業等を容易に取得できる職場環境の整備」で、男性 24.1%、女性 22.3%となっており、次いで「保育施設や放課後児童クラブ（学童保育）等、保育サービスの充実」の、男性 17.5%、女性 19.5%と続く。男女ともに、考え方が同じ傾向にあることがわかる。5年前との比較では、全体的に変わらず同じ傾向である。

- その他
- \*税金の割合も、人それぞれに合わせる。
- \*女性の給料が、男女不平等で、女性（パートも含め）の賃金アップ。
- \*老後のために。
- \*祖父母の協力と入所施設の充実。
- \*預けやすい施設の充実。
- \*1人の収入で生活できるだけの賃金。
- \*3世帯同居する。
- \*男女（夫婦）がともに働くことが平等（共同）なのか？
- \*両親や家族の理解と協力。
- \*役割分担として片親が育児専念もう一方が働く形をとるのがよいと考えているが、育休期間が短すぎる。3年、4年と手がかからないようになるまで待てる社会であってほしい。
- \*当人同士の理解。
- \*ダメになった時や、ダメになる前でのサポートやリカバリー力。
- \*家事・育児に男は率先して介入する事。

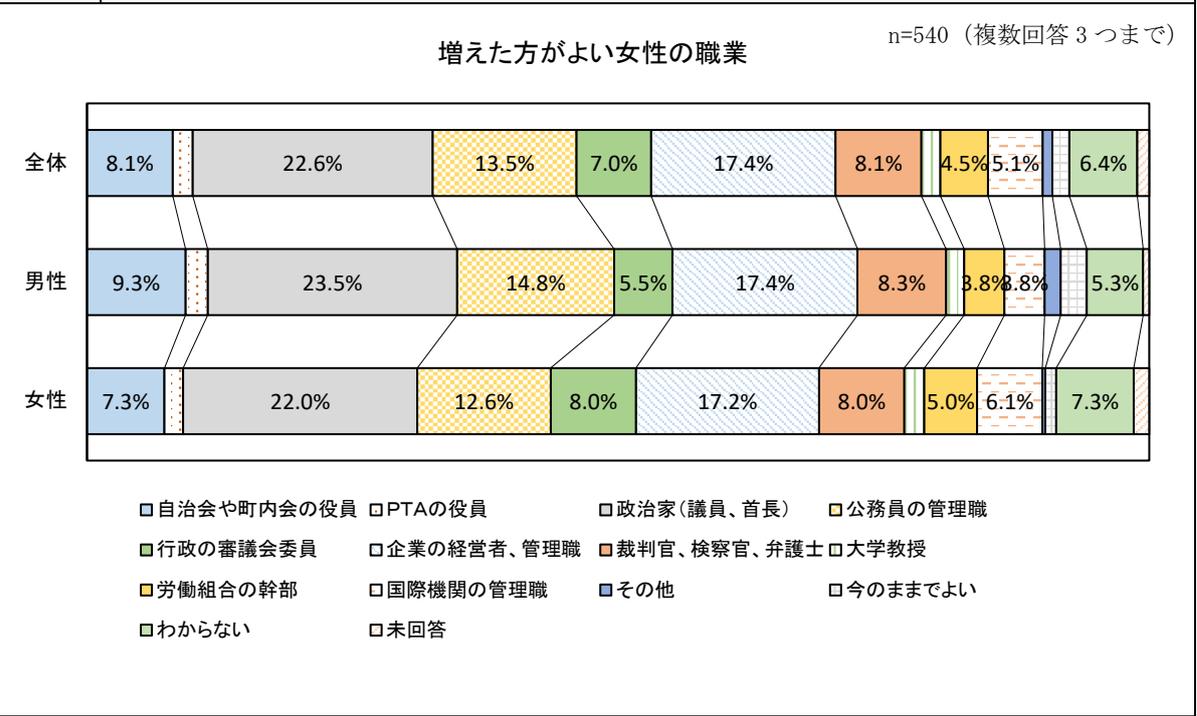
## 5.女性の活躍推進について



### ●その他

- \*女性・男性と区別して考えるのがもともとおかしい。
- \*女性が不平等におかれている条件やルールを法で改善する。
- \*良いことだと思う。

問 26 男女がともに政策や方針の決定に参画していくために、今後もっと女性が増えたほうがよいと思う職業（役職）は何ですか。【〇は3つまで】



「増えた方がよいと思われる職業」について最も多い回答は、男女ともに「政治家（議員、首長）」で、男性 23.5%、女性 22.0%となっている。

次いで、「企業の経営者、管理職」で、男性 17.4%、女性 17.2%と続く。

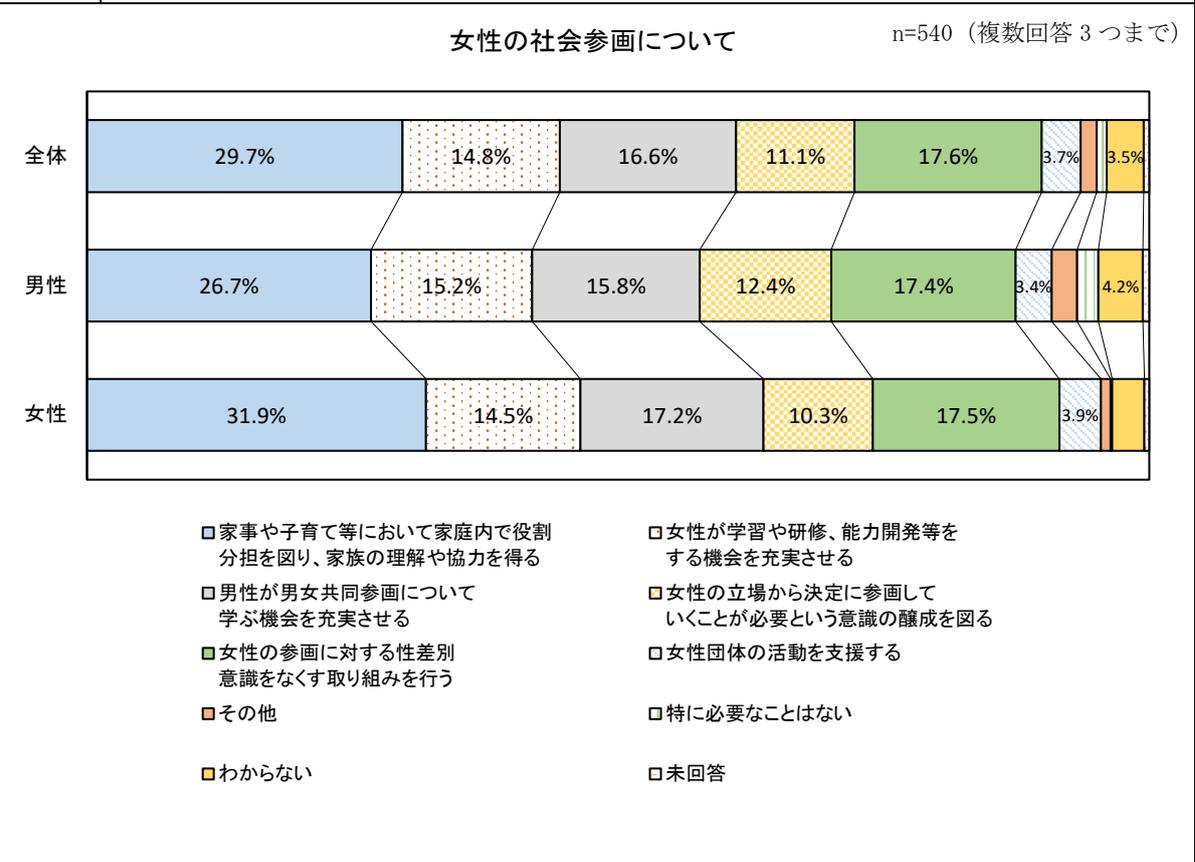
回答割合は、男性、女性と同じ傾向にある。

5年前との比較では、全体的に変わらず同じ傾向である。

●その他

- \*女性がいるというだけで男女平等な決定ができるとは限らない。頭が良い人なら性別関係なく、より良い決定ができると思う。
- \*そんなに単純じゃない
- \*建設業系。
- \*何かの意図を働かせて増やすべきではない。
- \*報道関係。

問 27 女性が社会に進出し、男性とともに政策や方針の決定に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】



「女性の社会参画」について最も多い回答は、男女ともに「家事や子育て等において家庭内で役割分担を図り、家族の理解や協力を得る」で、男性 26.7%、女性 31.9%となっており、女性の回答割合の方が高い傾向にある。

次いで「女性の参画に対する性差別意識をなくす取り組みを行う」で、男性 17.4%、女性 17.5%と続く。

全体的に回答傾向は、ほぼ同じにある。

5 年前との比較では、全体的に変わらず同じ傾向である。

●その他

- \*出産・授乳以外の育児は男性の仕事という意識・雰囲気を植えつける。
- \*社会全体の女性が男性の意識を変える。
- \*保育施設が充実しないと仕事ができない。
- \*子連れでの勤務が出来る様にする。会社も施設も保育所・保育士を常駐させる。そんなに男女平等を言うならそこまでしないと無理。実際子供を産めるのも子供の様子を把握できるのも女性の母親だけだから…なので単純じゃないです。
- \*小学生の放課後の学童が少ない、そして料金が高いため、仕事をする時間をとれない状態が

多いので学童を見直す。

\*女性の仕事を誰が代行するかであり、千差万別のケースが存在するのでは。

\*理想と現実の違い。

\*社会的インフラの整備。

\*参画の場で自分の意見を持ち、きちんと伝え続けられるパイオニア的存在になれる女性の存在。

\*女性議員の増加。

\*子育てして、ある程度落ち着いて、そこから積極的に参画できるように。

\*女性蔑視者の排除。

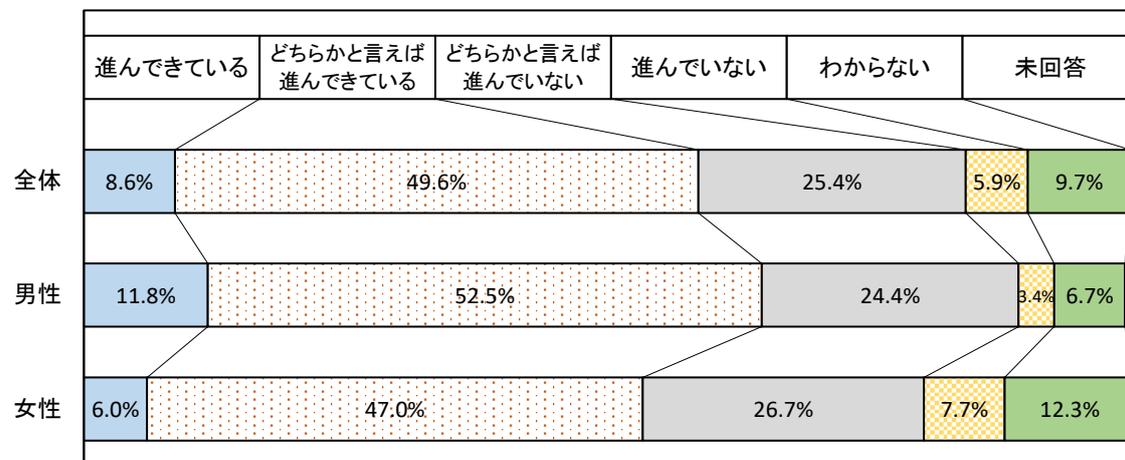
\*周囲の理解、つぶし合いや足の引っ張り合いを無くす等。

\*中高年男性の女性に対する管理職偏見をなくす。

問 28 現在、社会の各分野において女性の活躍はどの程度進んできていると思いますか。

n=540

女性活躍進行状況



「女性活躍の進行状況」について最も多い回答は、男女ともに「どちらかと言えば進んできている」で、男性 52.5%、女性 47.0%であった。

次いで「どちらかと言えば進んでいない」で、男性 24.4%、女性 26.7%と続く。

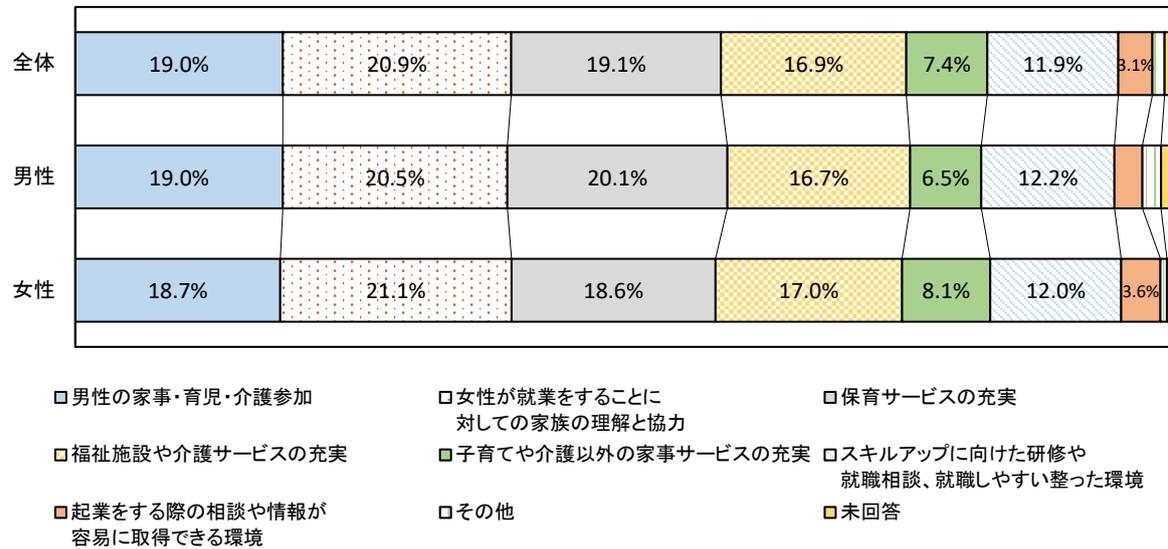
男性の方が「進んできている」（「どちらかと言えば進んできている」含む）が 64.3%と、女性の 53.0%よりも 10%多い。

※新規設問のため、5年前との比較無し。

問 29 女性が社会で活躍するためには、どのような必要なことは何だと思えますか。  
【〇はあてはまるもの全て】

n=540 (複数回答あてはまるもの全て)

女性活躍のために必要なこと



「女性活躍のために必要なこと」で最も多い回答は、男女ともに「女性が就業することに対する家族の理解と協力」で、男性 20.5%、女性 21.1%であった。

次いで、男性は「保育サービスの充実」の 20.1%、女性は「男性の家事・育児・介護参加」の 18.7%と続く。

全体的に男女とも、回答比率は同じ傾向にある。

※新規設問のため、5年前との比較無し。

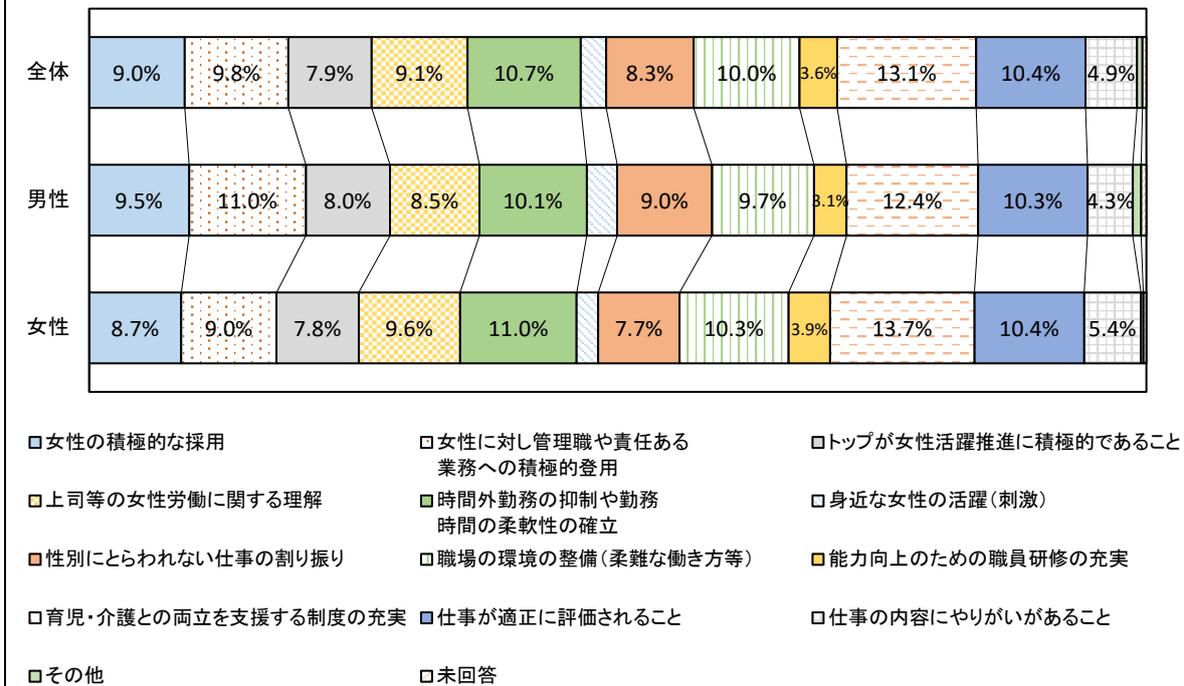
●その他

- \*生活にゆとりがなければ、社会で活躍するなんてことはできない。
- \*女性が活躍するには、夫婦家庭の理解が大切だし、そこが難しいと思う。
- \*男性も父（育児する者）であり、子（介護する者）であるという意識づけ、世間にある「女の仕事」という風潮を撲滅すること。
- \*女性でも生活できるための賃金。
- \*幼少期から家事も育児も分担するものと教育する。でも歴史を勉強するとそれも無意味になる。
- \*性差別についての学習の機会をつくる。
- \*給料の格差。男女比が有りすぎる。
- \*家事・育児・介護など社会で活躍しているといえる。
- \*社会全体での理解と協力。
- \*職場が福利厚生を利用させること。

問 30 女性が職場で活躍するためには、どのようなことが必要なことは何だと思えますか。【〇はあてはまるもの全て】

n=540 (複数回答あてはまるもの全て)

女性の職場活躍

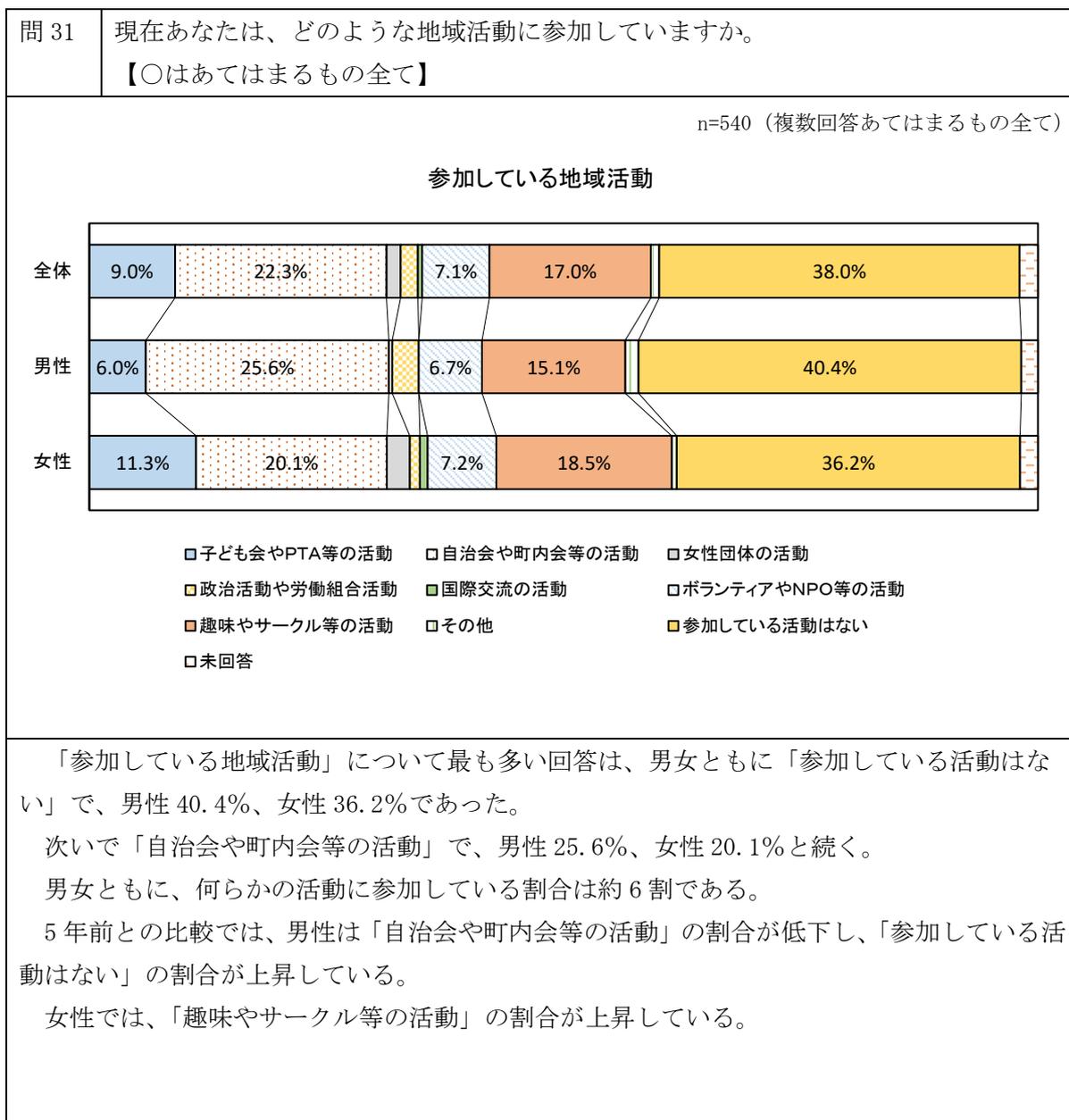


「女性の職場活躍」について最も多い回答は、男女ともに「育児・介護との両立を支援する制度の充実」で、男性 12.4%、女性 13.7%であった。  
 次いで、男性は「女性に対し管理職や責任のある業務への積極的登用」の 11.0%、女性は「時間外勤務の抑制や勤務時間の柔軟性の確立」で 11.0%と続く。  
 ※新規設問のため、5年前との比較無し。

●その他

- \*職場に「個」を持ち込まないこと。男女という分け方をしないこと。
- \*男女平等の精神。
- \*女性の意識改革が必要。女だから・・・の考えが残っているのが多い。
- \*先入観をなくして客観的に冷静に判断する目を養って欲しい。特に男性に！
- \*職業別においての男尊女卑を無くす。
- \*その人の能力や家庭事情を考慮して、適材適所で活躍してもらえる仕組みをつくり、それを当たり前のこととすること。
- \*意欲、能力のある女性の絶対数の増加。
- \*設問すべてがあてはまると思う。
- \*女性自身が納得して意思があるなら、おのずと管理職等に登用される。
- \*女性だからといった基準ではなく、その人そのものの評価を優先する。

## 6.地域社会について



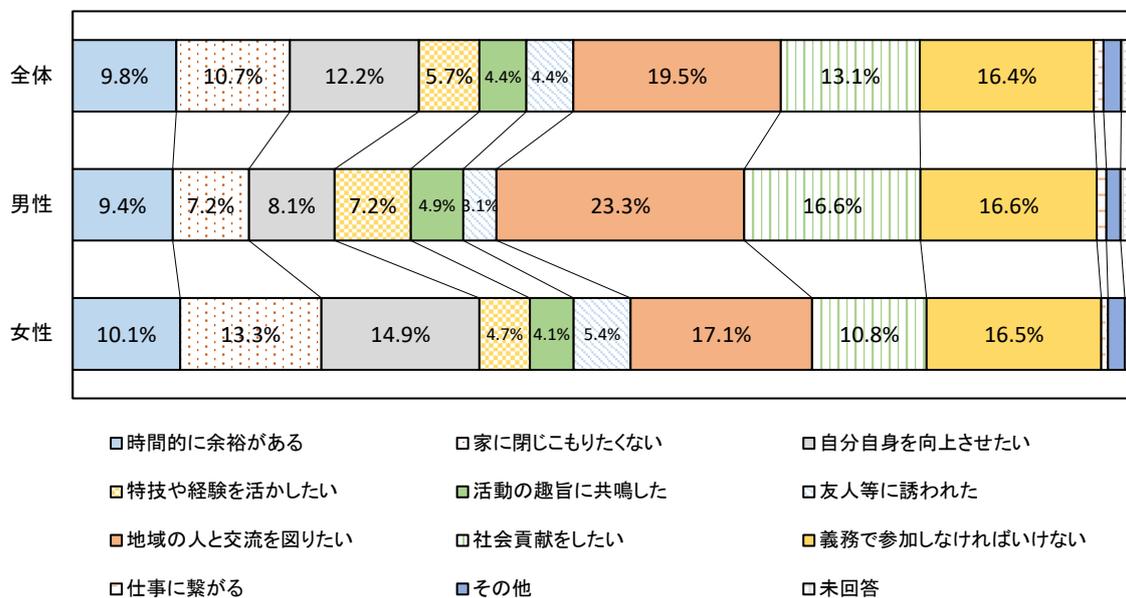
### ●その他

- \*民生委員、交通安全協会。
- \*団体で祭りを開催している。
- \*交通安全、防犯活動。
- \*消防団。

問 32 問 31 で「①～⑧」に○を付けた方に伺います。地域活動に参加している理由は何ですか。【○は3つまで】

n=540 (複数回答 3つまで)

地域活動の参加理由



「地域活動に参加している理由」として最も多い回答は、男女ともに「地域の人と交流を図りたい」で、男性 23.3%、女性 17.1%であった。

次いで、男性の「社会貢献をしたい」、「義務で参加しなければならない」で 16.6%、女性は、「義務で参加しなければならない」の 16.5%と続く。

全体的に回答比率が同じような傾向にあるが、女性の「自分自身を向上させたい」が 14.9%と、男性の 8.1%と比べ 7%程高い。

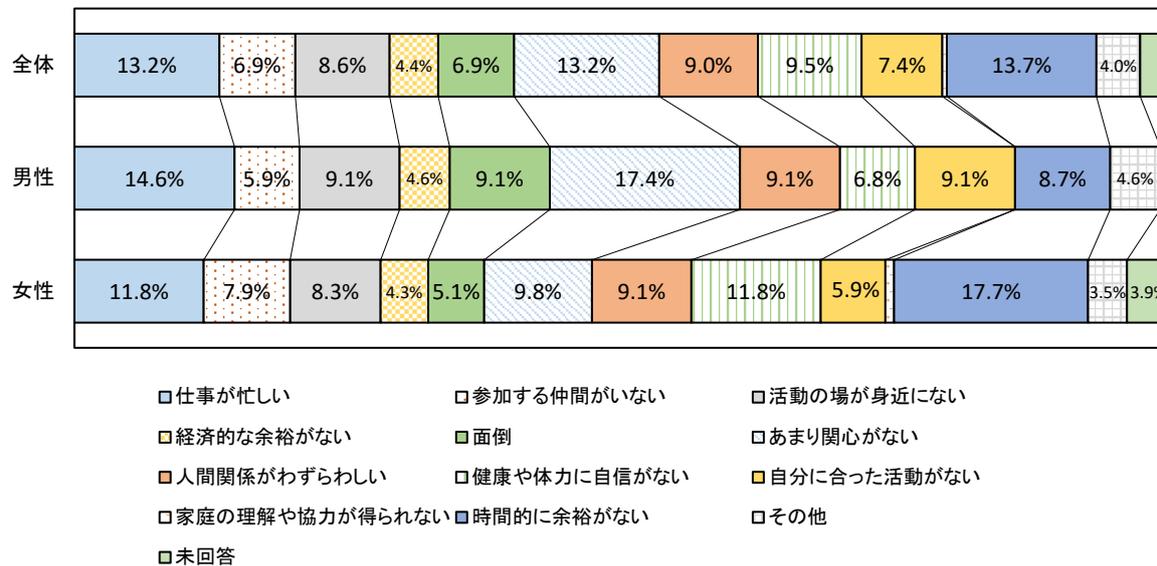
5年前との比較では、全体的に変わらずに同じ傾向である。

- その他
- \*会社からの割りあてで参加せざるを得なかった。
- \*当番制。
- \*地域のスポーツ文化の向上のため。
- \*小学校の子供会に入っているため。
- \*やりたいから好きだから。
- \*子供がいるから。

問 33 問 31 で「⑨ 参加している活動はない」に○を付けた方に伺います。地域活動に参加していない理由は何ですか。【○は3つまで】

n=540 (複数回答 3 つまで)

地域活動の不参加理由



「活動していない理由」として最も多い回答は、男性が「あまり関心がない」の17.4%、女性が「時間的に余裕がない」の17.7%となっている。

次いで、男性が「仕事が忙しい」の14.6%、女性が「仕事が忙しい」、「健康や体力に自信がない」の11.8%と続く。

5年前との比較では、男性は、「あまり関心がない」の割合が低下し、「面倒」の割合が上昇している。

女性では、「健康や体力に自信がない」の割合が低下し、「参加する仲間がない」の割合が上昇している。

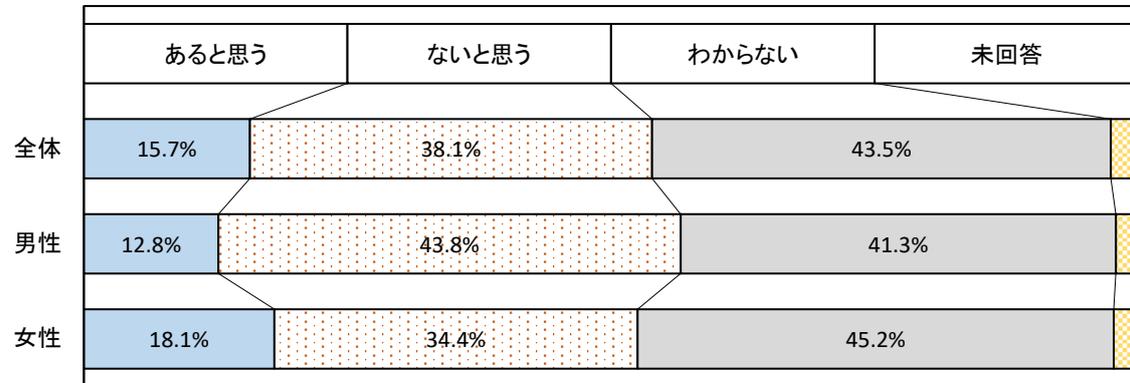
●その他

- \*どこで活動しているか、その具体的内容の情報がわからない。
- \*自分のことをしたい。
- \*休日は子どもと遊ぶため。
- \*年令的に難しい。
- \*介護のため困難。
- \*何をしても形だけで無意味だから。
- \*高齢のため。
- \*興味がない、機会がない。
- \*独自に活動しているため。

問 34 あなたがお住まいの地域で、男性と女性を差別するような習慣やしきたりはあると思いますか。【○は1つだけ】

男女差別の習慣やしきたり

n=540



「男女差別の習慣やしきたり」について最も多い回答は、男性では「ないと思う」の43.8%、女性では「わからない」の45.2%であった。

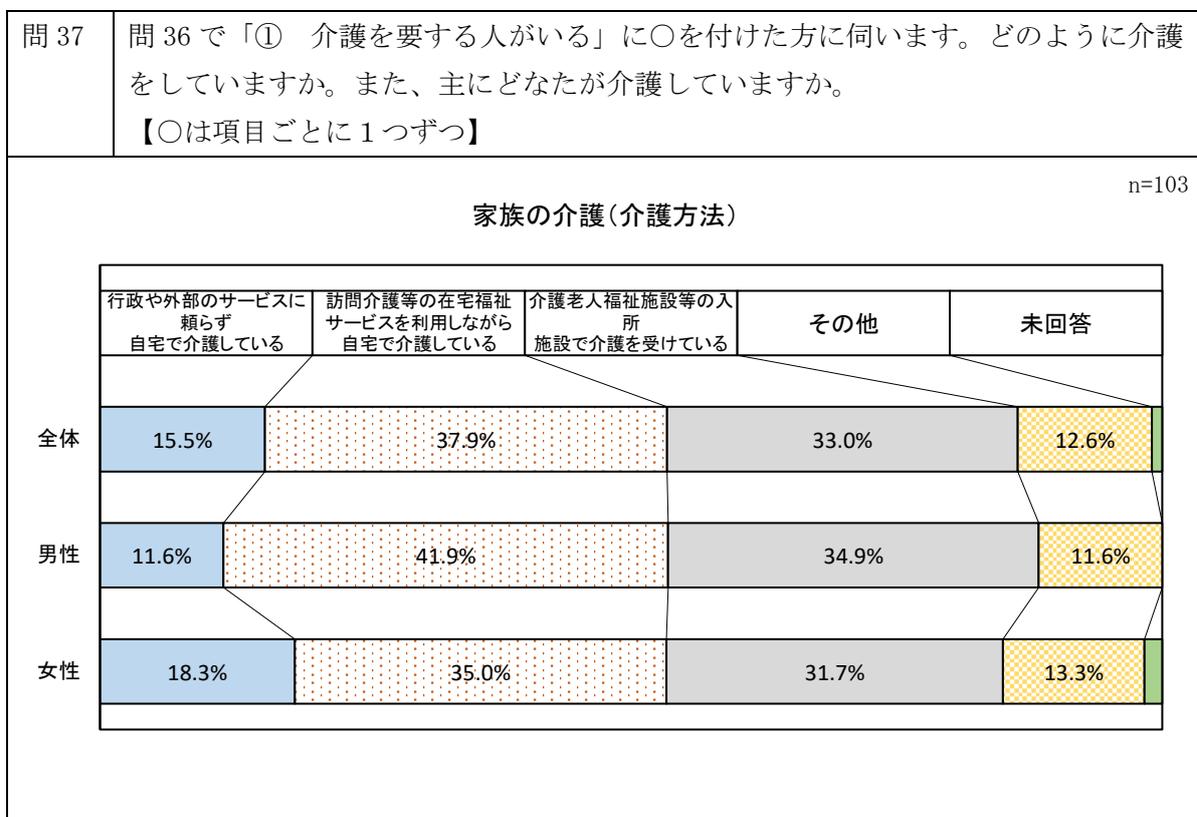
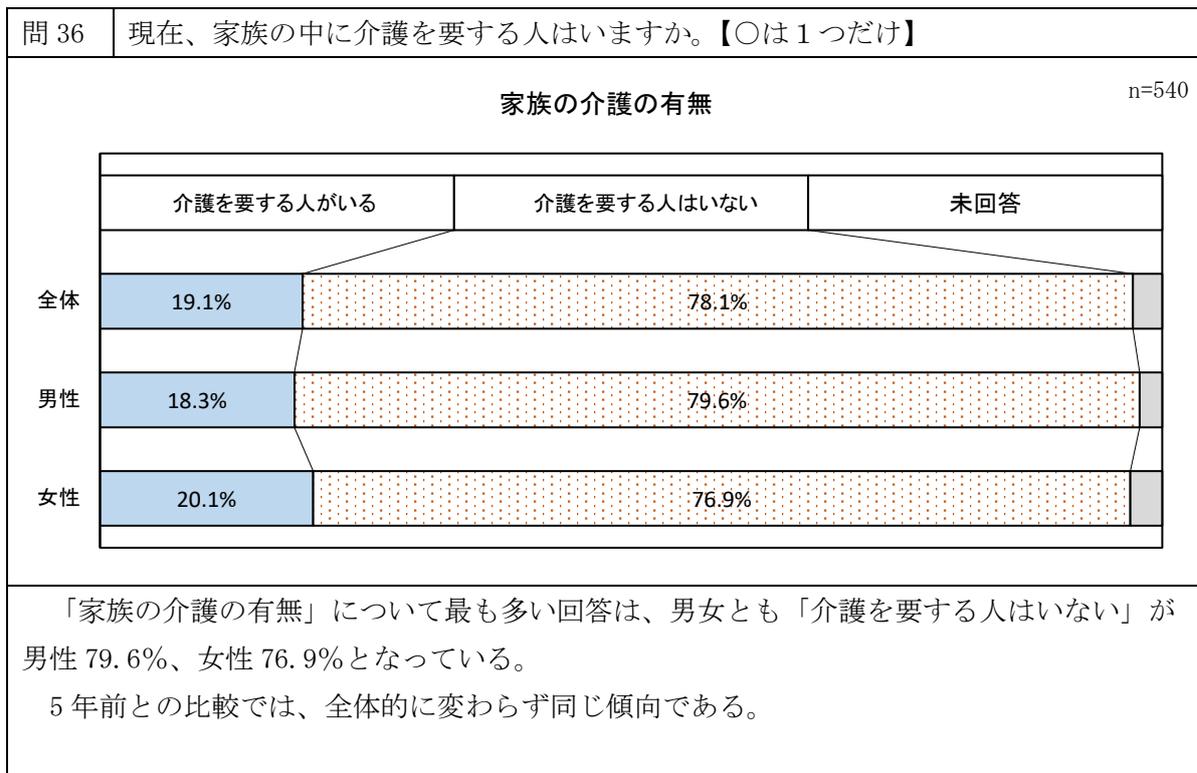
「あると思う」では、女性が18.1%、男性が12.8%と女性回答の方が多く、「ないと思う」では、女性が34.4%、男性が43.8%と、男性回答よりも少ない。

5年前との比較では、全体的に「わからない」の割合が低下し、「あると思う」の割合が上昇している。

問 35	問 34 で「① あると思う」に○を付けた方に伺います。その習慣やしきたりは、具体的にどのようなことですか。(内容をお書きください。)
<p>*地区の役員は男性ばかり。古い行事が今なお残り、現状に合っていない。</p> <p>*自治会の会長、副、等は男性ばかり。古い団地で伝統(?)的なのかと・・・。</p> <p>*自治会の役員は全て男性となっている。</p> <p>*喪主が「長女の夫」など。同じ要件で夫と妻それぞれの時の対応の違い。そもそも「世帯主」は夫ということ。</p> <p>*まず男性が台所に立たない。子どもの不始末は全部母親のせいになる。それでも相続や利益は男性に入り、女性はそのおまけみたいな扱い。市区役所の案内やポスターを見ても、子どもと描かれるのは母親。父親は全員死んだ設定か? 仕事となると男性がピックアップされるが、男性はATMではない。</p> <p>*区の主の役員はずっと男性である。実際に活動しているのは妻でも夫の名である。</p> <p>*息子のリトルリーグ野球では女(母親)は口を出すな!!的発言が度々あった。</p> <p>*神社の役員は、女性がいない。</p> <p>*老人会、青年会、消防団、男子の参加が多い。</p> <p>*隣組の会合での準備や後片付けはいつも女性の役割。自分が飲んだり食い散らかしたりした物を片付けないのは男性に多く、家庭でもそのように振る舞っているであろうという想像がつく。逆に隣組での決め事に女性の意見は求められない。100%男尊女卑。</p> <p>*男子の意見に女子が従っている。対等に意見を出さず「男子をたてる」の風潮がある。戸主＝男子という「家」制度があるのが影響していると思われる。</p> <p>*となり組での習慣。新しいことを取り入れようとしない。例えば、ゴミ集積所の問題。カラスの被害が多く、ゴミが散乱するため網ではなくBOXを購入の提案をするが、お金がかかると言われ、今までそうしてきたから変える必要ないと。衛生面の問題や通学路にあるため児童にも悪影響。女だから面倒と言われた。男はそんな事考えないと言われた。</p> <p>*子供会育成会やPTAは女性にかたよりがち。</p> <p>*子供学校問題、地域活動での問題で「女は黙っている」なんて言われた事が多かった。学校の事でもクラスが変わるまでがまんしてねとか、とてもいやな思いして来ました。</p> <p>*町内会の会長や幼稚園のPTA会長の歴代を見ると全て男性であるという事。</p> <p>*町内会の集まりなどで酒の席などでセクハラばい言葉はまだ多い感じがします。</p> <p>*隣組長を行った時、年配の老人男性に「あいさつに来なかった」と言われた。集金対応は奥様だったのでわからなかったようだが最初から女性を下に見ている。お祭の準備などでも男性優位の発言の会合が多く、負担に感じた。</p> <p>*男性は、平日仕事をしているので、土日は少し自分の時間を作り、子どもの相手は女性の仕事だから、休日関係なく子育ては妻の仕事。(年配者の見方)</p> <p>*子育ては女の仕事。男が子育てのために仕事を休むことはあり得ない。親の介護は嫁の仕事。家事は女がするもの。</p>	

- \*会社の処遇、対応、福利厚生。例えば、「子供の学校行事等で男親が休むのは有りえない」や、子供が体調不良の時に母親が会社を欠勤する時の「これだから女は」的な会社の態度等。
- \*PTAは女性が大部分。・高学歴の女性をべっ視。・子供のいない夫婦を非難。
- \*何かにつけ「女のくせに」が多い
- \*男性より先にお風呂は入ってはいけない。男性に合わせ食事の時間を守る。男性より先に寝てはいけない。男性の意見はきかなくてはいけない、反対の意見はダメ。
- \*昔からの風習で女性は参加できない行事がある。
- \*地域の集まりや行事、順番で回る役割など男性が参加しないといけない場合や、女性が参加しないといけないなどの決まりがある。
- \*仕事以外は女性配偶者への負担が多い。
- \*親戚の集まりや来客など、料理を作り、お酒やお茶を出して、もてなすのは女性。男性は食べて飲んで片付けもしない。
- \*祭事は男性が中心、女性は参加ではない。
- \*農家の年中行事
- \*子育てと介護、主に女性が行う。
- \*家事→女性がやるものというぼんやりした考え。
- \*飲酒、喫煙、門限時間→全て健康や安全を考えての意見としても「女だてらに」との一言を初めに付けて禁止される
- \*長男が家をつがなければいけないといった風習。
- \*いわき出身の年配者(職場の人)は、“女性が子育てするもの”“女性は男性より(同じ年齢、仕事内容・正社員でも)給料が低いと思っている”など、東京からいわきに来て、こんなにも意識が違うのかとおどろいた。
- \*高齢者による男尊女卑が多分に有り、夫婦間でも尊重しないと男女平等は出来ないし、それが若い夫婦にもはびこっているのでは。男性も家事育児に率先して介入する。
- \*風習、習慣(昔より引きずっている)

## 7.介護について



## 家族の介護(介護者)

	主に自分が介護している	主に自分の配偶者が介護している	主にその他の家族(女性)が介護している	主にその他の家族(男性)が介護している	自宅では介護していない	その他	未回答
全体	34.0%		9.4%	13.2%	17.9%	11.3%	12.3%
男性	25.0%		11.4%	18.2%	22.7%	13.6%	6.8%
女性	40.3%		8.1%	9.7%	14.5%	9.7%	16.1%

「介護方法」について最も多い回答は、男女とも「訪問介護等の在宅福祉サービスを利用しながら自宅で介護している」で、男性 41.9%、女性 35.0%となっている。

次いで「介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けている」で、男性 34.9%、女性 31.7%と続く。

「介護者」について最も多い回答は、男女とも「主に自分が介護している」で男性が 25.0%、女性が 40.3%で、女性の割合が男性よりも高い。

次いで「自宅では介護していない」で、男性 22.7%、女性 14.5%と続く。

5年前との比較では、「介護方法」については、変わらず同じ傾向にある。

「介護者」については、男性では、「主に自分の配偶者が介護している」の割合が低下し、「主に自分が介護している」の割合が上昇している。

女性は、5年前と同じ傾向である。

## ●その他

## ①介護方法

- \*同居はしていないが通う。サービスは利用。
- \*本人の自主性にまかせて見守っている。
- \*自宅介護の他、デイサービス、ショートステイを利用している。
- \*介護器具のみサービスを利用している。
- \*他県に1人暮らしのため、数回/年、家回りの仕事手伝い。
- \*支援学級、他
- \*姉が母を見ているため、私が高齢者に行く。

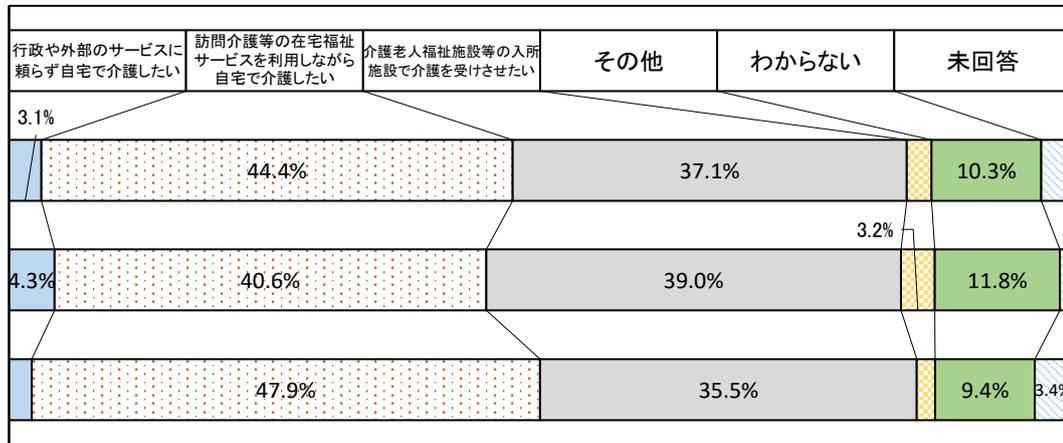
## ②介護者

- \*祖母が「介護5」で施設。費用は両親。
- \*兄妹でもしくは夫婦や家族全員で介護。
- \*食事は私が準備しておいて、お風呂はサービスで介護。

問 38 問 36 で「② 介護を要する人はいない」に○を付けた方に伺います。将来、家族が介護を要する状態となった場合、どのように介護をしたいと思いますか。また、主に誰が介護をすると思いますか。【○は項目ごとに1つずつ】

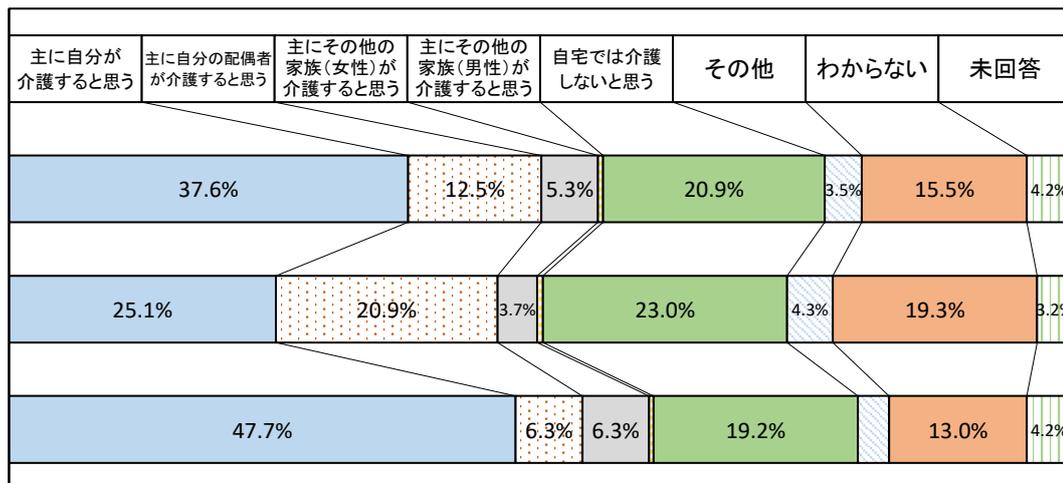
家族が介護が必要となった時の介護方法

n=422



家族が介護が必要となった時の介護者

n=422



「家族が介護が必要となった時の介護方法」について最も多い回答は、男女とも「訪問介護等の在宅福祉サービスを利用しながら自宅で介護したい」で、男性 40.6%、女性 47.9%となっている。

次いで「介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けさせたい」で、男性 39.0%、女性 35.5%と続く。

「家族が介護が必要となった時の介護者」について最も多い回答は、男女とも「主に自分がすると思う」で、男性 25.1%、女性 47.7%となっており、女性の回答割合がおおよそ男性の倍となっている。

次いで「自宅では介護しないと思う」で、男性 23.0%、女性 19.2%と続く。

また、「主に自分の配偶者が介護すると思う」については、男性 20.9%、女性 6.3%となっ

ており、男性と女性の将来の介護方法で相違が出ている。

5年前との比較では、「介護方法」については、全体的に、「自宅で介護したい」の割合が低下し、「入所施設で介護を受けさせたい」の割合が上昇している。

「介護者」については、男性では、「主に配偶者が介護すると思う」の割合が低下している。全体的に、「自宅では介護しない」の割合が上昇している。

## ●その他

### ①介護方法

\*私たち夫婦は親を見ました。介護しました（明治生れの親）。私たちが介護してもらう年になったけど、娘が遠い所にいるので介護してもらうのは無理なので、どうしようと思っ  
ているところです。今の所は元気ですが。

\*介護の状況による。

\*病名やその時の状況で判断する。

\*状況がまだなので、考えが及ばない。

\*本人次第

\*要介護者の希望と、実際できる事を行政にも相談し、無理せずできる範囲で行いたい。

### ②介護者

\*家族みんなで協力し、介護すると思う。

\*夫婦での介護。

\*状況と症状に応じて。

\*共に協力して介護する。

\*配偶者しか同居していないため

\*回りの人達に助けを受けて介護したい。

\*病状が判らず十分考えが及ばない。

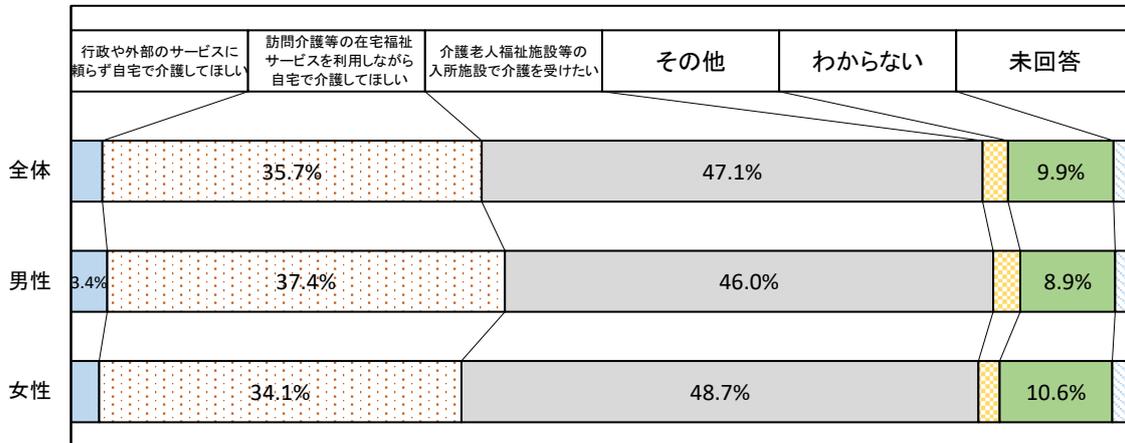
\*介護はいつどの様な形で自分に降りかかるかわからないので、その時がきたら考えても遅い。普段から近所の方と親しくしていた方がよいかと思われ  
ます。

\*仕事は辞めずに、できる範囲で介護をしたい。

問 39 もし、あなた自身が介護を要する状態となった場合、どのように介護してほしいですか。また、主に誰に介護してほしいですか。【〇は項目ごとに1つずつ】

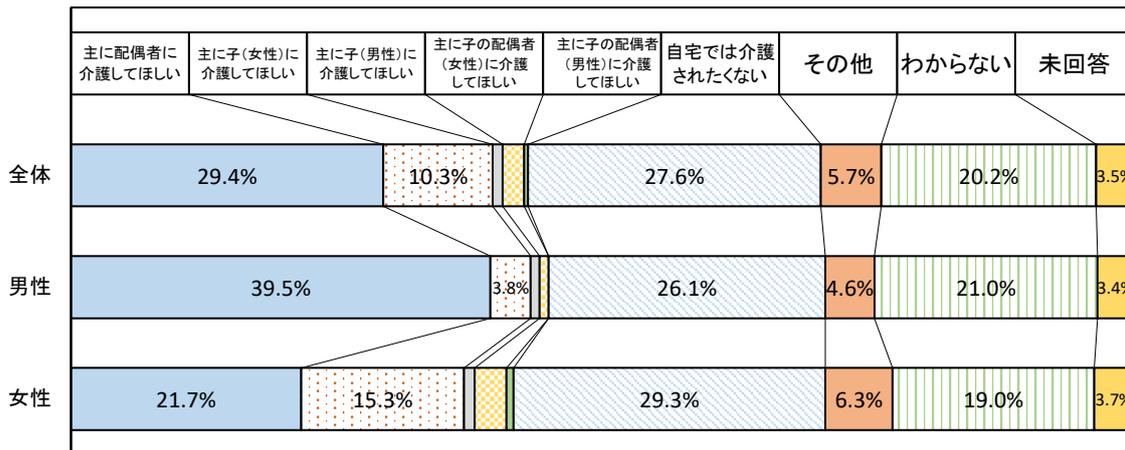
自身の介護について(介護方法)

n=540



自身の介護について(介護者)

n=540



「自身の介護について (介護方法)」について最も多い回答は、男女ともに「介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けたい」で、男性 46.0%、女性 48.7%となっている。

次いで「訪問介護等の在宅福祉サービスを利用しながら自宅で介護してほしい」で男性 37.4%、女性 34.1%と続く。男女の回答比率は同じ傾向にある。

「自身の介護について (介護者)」について最も多い回答は、男性は「主に配偶者に介護してほしい」で 39.5%、女性は「自宅では介護されたくない」の 29.3%となった。女性の「主に配偶者に介護してほしい」の割合は 21.7%と、男性の約半数となる。

5年前との比較で、「介護方法」については、全体的に同じ傾向である。

「介護者」については、全体的に「主に配偶者に介護してほしい」、「主に子(女性)に介護してほしい」の割合が低下し、「自宅では介護されたくない」の割合が上昇している。

## ●その他

### ①介護方法

- \*介護者が病弱のため。
- \*自宅で24時間介護サービスを受けながら過ごしたい。
- \*訪問介護必要なし・・・デイサービスはOK。
- \*死にたいと思う。
- \*施設で受けたいが年金では無理と聞いているので困ります。月10万位だと何とか払えますがちょっと無理ですね。なので病気にならないようにしています。
- \*病院に入りたい。

### ②介護者

- \*誰もいない。
- \*自宅で24時間介護サービスを受けたい。
- \*家族に迷惑をかけたくない。
- \*子供等に迷惑はかけたくない。
- \*自殺するので誰にも迷惑はかけない。
- \*長男の嫁がするのが当然と思う。
- \*介護してくれる家族はいないので、全て福祉サービス。
- \*家族に介護されたくない。
- \*見てくれる人全員で。
- \*してくれるなら誰でもありがたい。
- \*子供達は働いているので、期待できないと思う。
- \*程度による。
- \*まだあまり考えたことがない。
- \*配偶者、子供はできない。施設利用を希望しますが金銭的に難しいです。
- \*男女に限らず出来る側がすればよいと思う。
- \*プロに介護されたい。
- \*自分勝手ですが、介護されないようにがんばりたい。自分のことになるとちょっとむずかしいです。自分では親の介護をしましたが、独身なので最後は介護施設でと考えている。

## 8.男女の人権について

問 40	あなたは、ハラスメント（セクハラやパワハラ、マタハラ等）を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。【○は1つだけ】					
ハラスメントの有無 <span style="float: right;">n=540</span>						
	受けたことがあり、誰かに相談した	受けたことはあるが、誰にも相談しなかった	受けたことはないが、身近で見聞きしたことはある	受けたことや、身近で見聞きしたことはない	わからない	未回答
全体	10.6%	14.1%	26.3%	37.4%	9.1%	
男性	7.2%	12.8%	28.9%	40.9%	7.7%	
女性	12.7%	15.4%	24.1%	34.8%	10.4%	

「ハラスメントの有無」について最も多い回答は、男女とも「受けたことや身近で見聞きしたことはない」で、男性 40.9%、女性 34.8%であった。

次いで「受けたことはないが身近で見聞きしたことはある」で、男性 28.9%、女性 24.1%と続く。

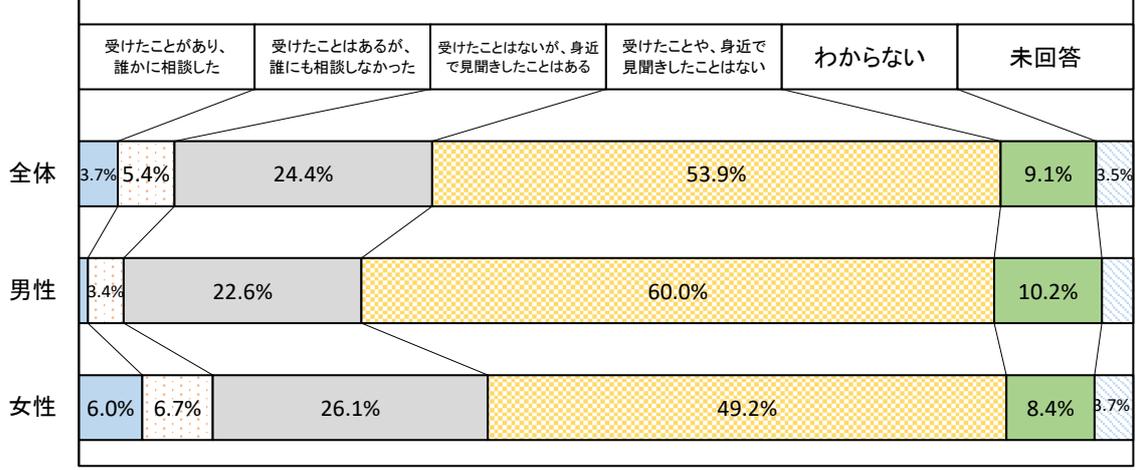
「受けたことがあり誰かに相談した」、「受けたことはあるが誰にも相談しなかった」の「受けたことがある」との回答では、女性の回答が 28.1%となっており、男性よりも割合が高い。

5年前との比較では、全体的に「受けたことや、身近で見聞きしたことはない」の割合が低下し、「受けたことがあり、誰かに相談した」、「受けたことはあるが、誰にも相談しなかった」の割合が上昇している。

問 41 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。【○は1つだけ】

n=540

DVの有無

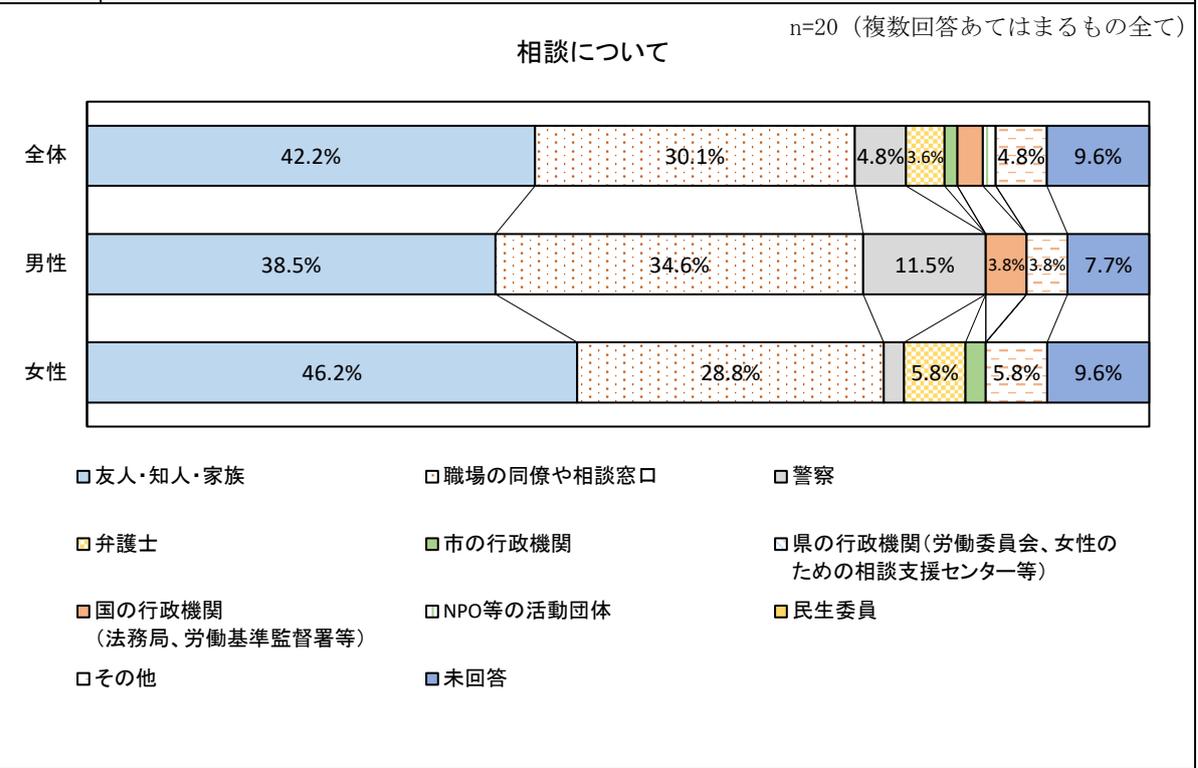


「ドメスティック・バイオレンス（DV）の有無」について最も多い回答は、男女とも「受けたことや身近で見聞きしたことはない」で、男性 60.0%、女性 49.2%となっている。

「受けたことがあり誰かに相談した」、「受けたことはあるが誰にも相談しなかった」の「受けたことがある」の回答では、男性が 4.3%、女性が 12.7%と、女性の割合が高い。

5年前との比較では、全体的に変わらず同じ傾向である。

問 42 問 40 又は問 41 で「① 受けたことがあり、誰かに相談した」と回答された方に伺います。どこに（誰に）相談しましたか。【〇はあてはまるもの全て】



「ハラスメントの相談」について最も多い回答は、男女ともに「友人・知人・家族」で、男性 38.5%、女性 46.2%であった。

次いで「職場の同僚や相談窓口」で、男性 34.6%、女性 28.8%と続く。

男性の「警察」が 11.5%に対し、女性は 1.9%、一方、女性は「弁護士」が 5.8%、男性は 0%であった。

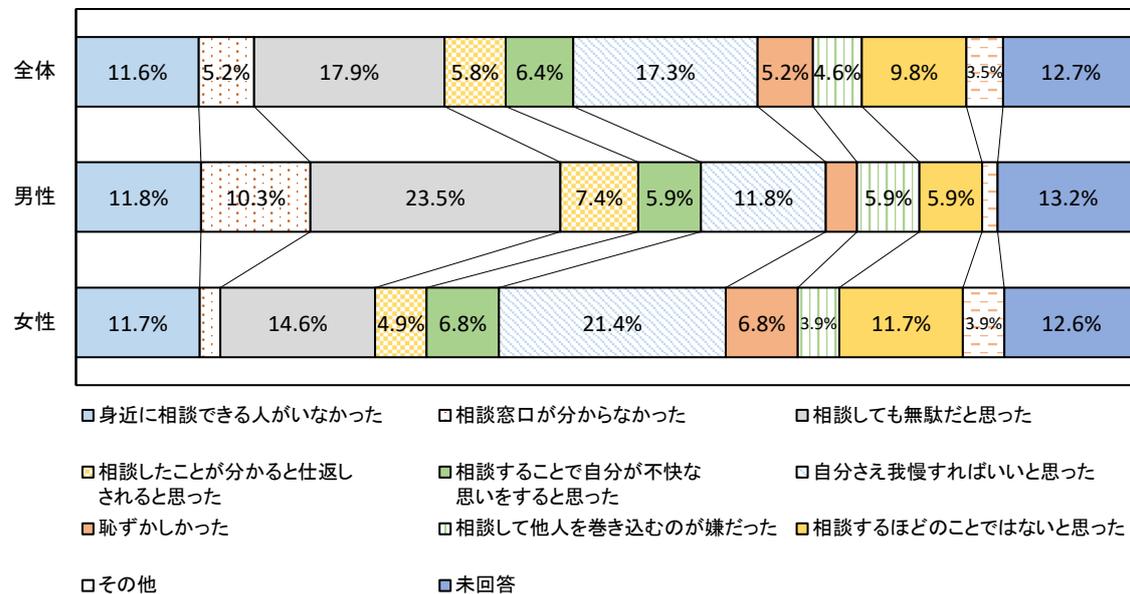
※新規設問のため、5年前との比較無し

- その他
- \*司法書士。相談したのは受けた暴力の一部の案件のみ。
- \*親戚

問 43 問 40 又は問 41 で「② 受けたことはあるが、誰にも相談しなかった」と回答された方に伺います。相談しなかった理由は何ですか。【〇はあてはまるもの全て】

相談しなかった理由

n=29 (複数回答あてはまるもの全て)



「ハラスメントを相談しなかった理由」について最も多い回答は、男性の「相談しても無駄だと思った」で23.5%、女性は「自分さえ我慢すればいいと思った」の21.4%であった。

次いで、男性は「身近に相談できる人がいなかった」、「自分さえ我慢すればいいと思った」の11.8%、女性は「相談しても無駄だと思った」の14.6%と続く。

男性においては「相談窓口が分からなかった」が10.3%と、女性の1.9%よりも高く、相談窓口の認識度に差が出ている。

5年前との比較では、男性では、「自分さえ我慢すればいいと思った」の割合が低下し、「相談しても無駄だと思った」の割合が上昇している。

女性では、「相談しても無駄だと思った」の割合が低下し、「自分さえ我慢すればいいと思った」の割合が上昇している。

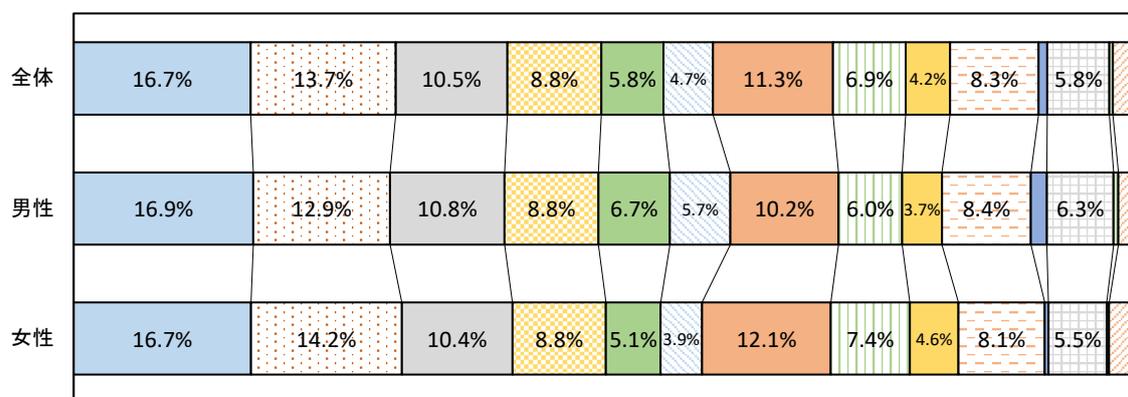
●その他

- \*殴り合いに発展させてDVではなくした。
- \*やられる方じゃなく互角だったので。
- \*昔は、当り前のようにあったから。
- \*その当時はハラスメントという言葉があまり聞いたことがなく、時代もそんな感じだった。
- \*今の職場にも冷たく、無視されたりする人がいます。二年も続き、職場の友達に話しても無理です。皆そこに関わりたくないから。
- \*証拠が明確に示せなかった。

問 44 あなたは、LGBTなど性的少数者（セクシャル・マイリティ）の方に関して、どのような意識啓発や、支援が必要だと思いますか。【〇は5つまで】

LGBTについて

n=540（複数回答5つまで）



- 相談できる窓口の設置
- いじめや差別を禁止する法律や条例の制定
- 企業等に対する啓発活動の実施
- 幼少期からの教育の充実
- 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行
- 必要だと思わない
- その他
- 気持ちや情報を共有できる居場所づくり
- 行政職員や教職員に対する研修の実施
- 地域住民に対する啓発活動の実施
- 更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮
- 同性同士のパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと
- わからない
- 未回答

「LGBT についての啓発・支援」について最も多い回答は、男女とも「相談できる窓口の設置」が男性 16.9%、女性 16.7%であった。

次いで「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」で、男性 12.9%、女性 14.2%と続く。回答比率は男女ともに、ほとんど同じ傾向にある。

※新規設問のため、5年前との比較無し

●その他

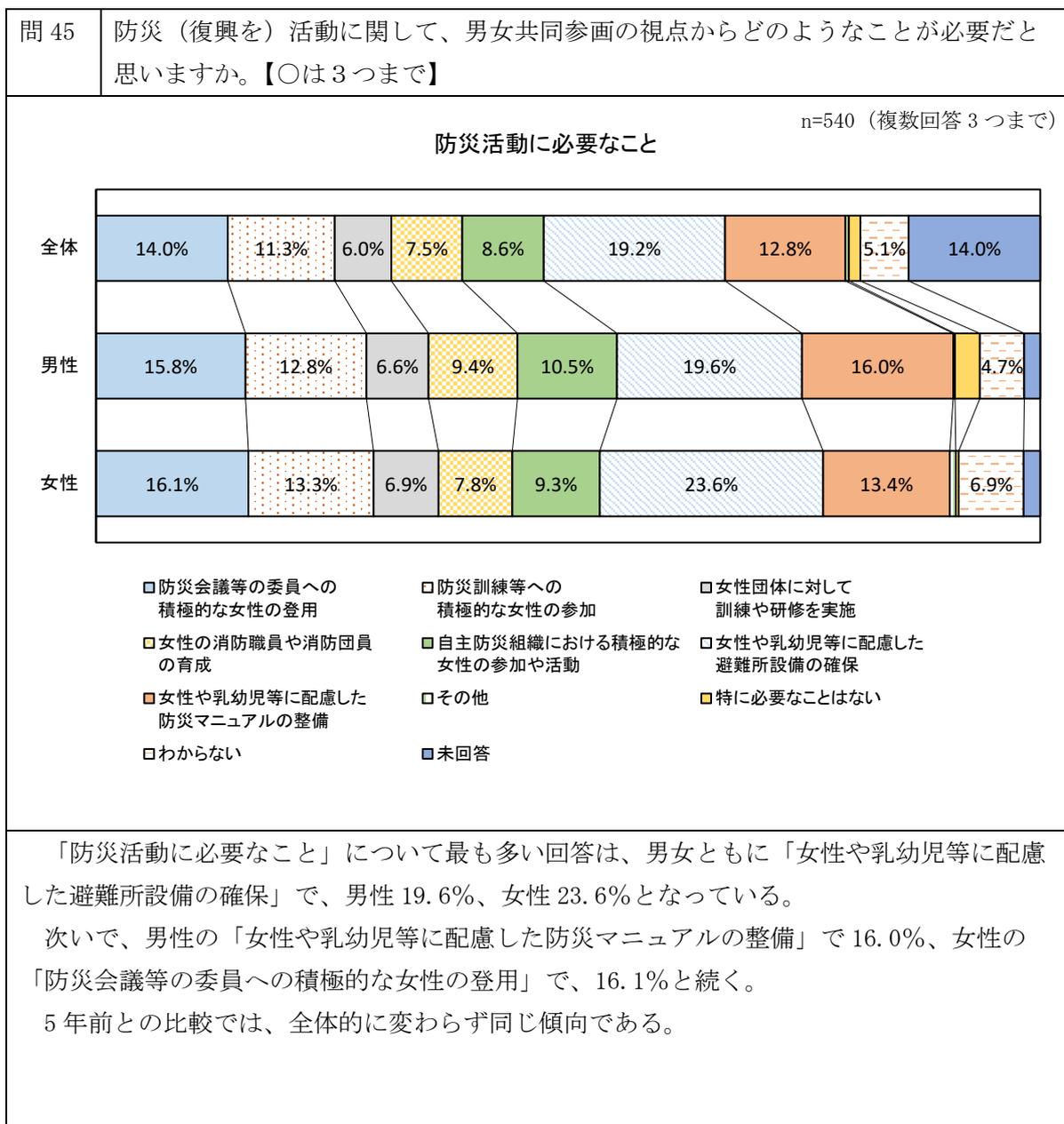
\*性別を示す「男・女」に記入欄を追記する。

\*正確なLGBTに関する知識の啓発。

\*すべての人が、いろいろな人がある事を理解する事が大事なのでは・・・。

\*私達の若い頃は表面に出なかったのか判りませんが、理解できない面があります。

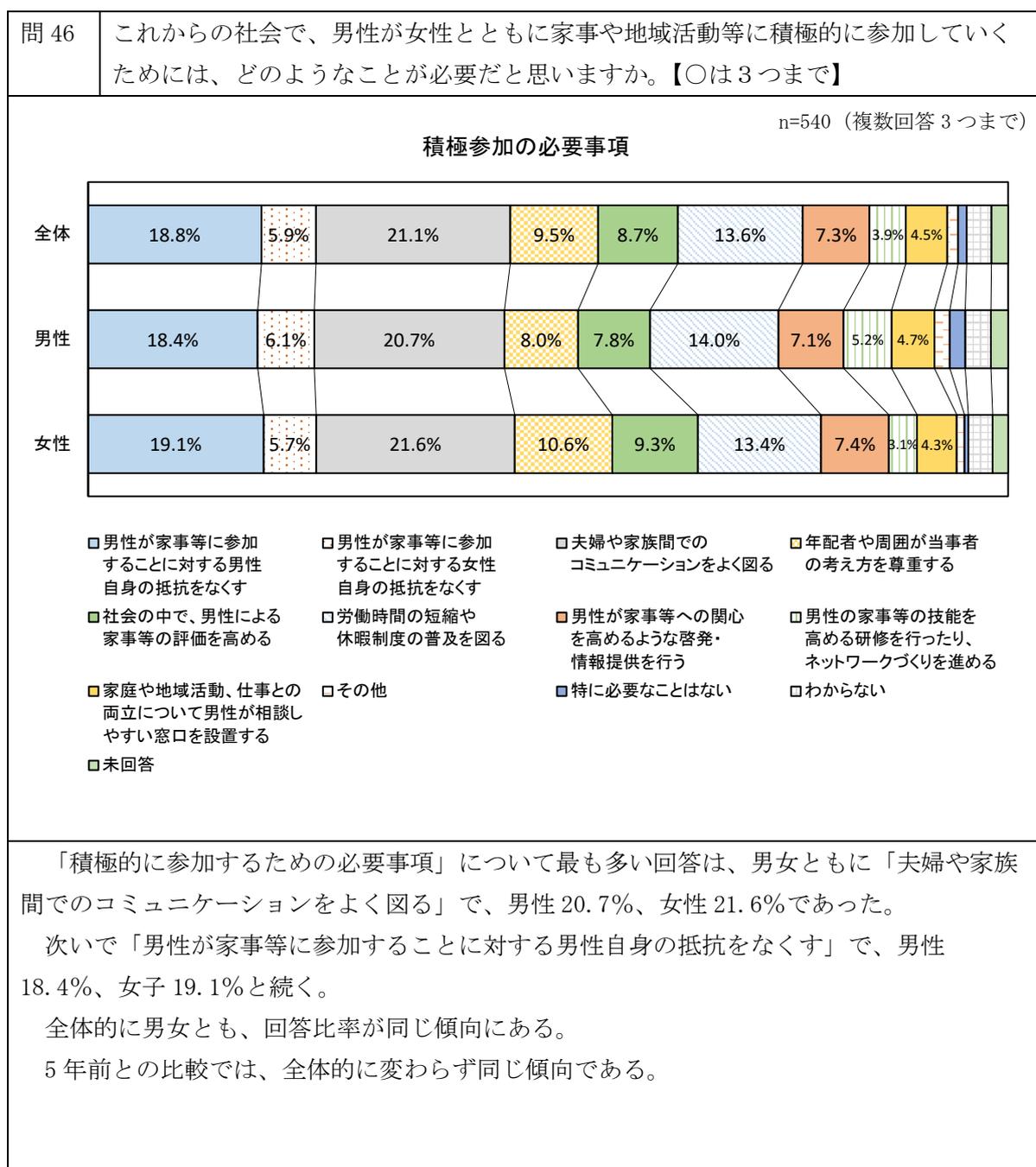
## 9.防災について



### ●その他

- \*取り立てて女性を強調するのではなく、両性同じくして欲しい。
- \*着替え。
- \*高齢者や要介護者、介護人に配慮した避難者、設備の確保。
- \*普段から防災の話を家族で活発に行う事が大事なのは。

## 10.社会参加について

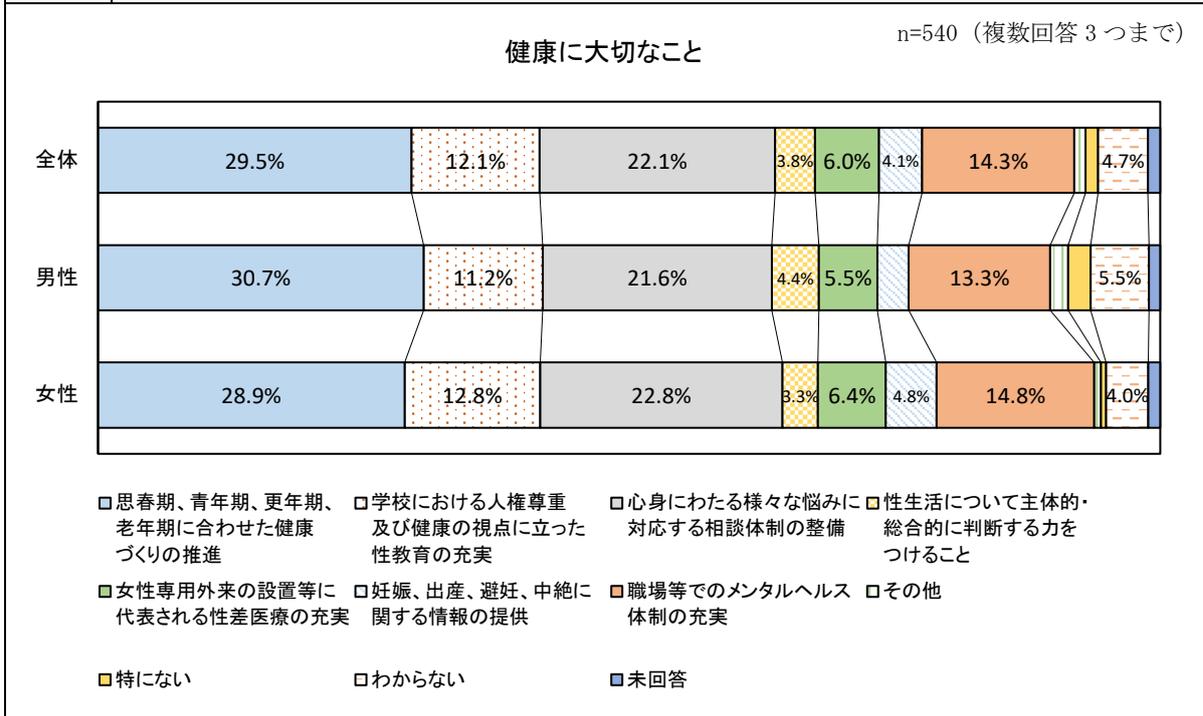


### ●その他

- \*男性が家事に参加しても、安定した賃金体勢をつくる。
- \*あくまで家族との理解が必要で、夫婦共に参加出来る事が楽しいと思う。
- \*家事は男性の仕事という意識・雰囲気植えつける。
- \*教育機関の中で子供の時より意識をもたせる。
- \*小学生の放課後の学童を見直す。数が少なく、料金が高く、夏休みや長期休みの預かりをやっていないなど女性が働けない理由の大きな問題だと思います。

- \*参加することで楽しい、コミュニケーションの質が上がる活動を企画する。
- \*女性が男性以上に稼ぐことができる環境の整備。
- \*社会参加とは、これ程まで家事に重きがあるのか、この設問について疑問。
- \*この歳になって仕事をする時は何を言われても、黙って仕事をするしかない。若い人達だったら自分のために、言いたい事は言った方が良い。
- \*生きることについての認識を見つめ直す、やれるのにやらない、をなくす等。
- \*必ず男性は家事をしなければならない時期くることを学んでおくこと大切。
- \*他力本願ではダメ。自分達から行動を起こして行く事が先決。

問 47 男女が生涯にわたり心身ともに健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。【〇は3つまで】



「健康に大切なこと」について最も多い回答は、男女ともに「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」で、男性 30.7%、女性 28.9%となっている。

次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備」で、男性 21.6%、女性 22.8%と続く。

全体的に男女とも、回答比率が同じ傾向にある。

5年前との比較では、男性は、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の充実」の割合が低下し、「思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進」の割合が上昇している。

女性は、5年前と同じ傾向である。

●その他

- \*公的なフィットネス施設等の整備、あるいは民間施設利用への補助。
- \*医療添加物・食品添加物等の摂取を極力さけて粗食にする。食生活を意識した生活。
- \*人間ドッグを無料にするなど、検査をしたくてもお金がなくて検査をしていない人は多くいると思います。
- \*食育を中心として、正しい食習慣を教育する、特に子どもを持つ母親には必要。
- \*男女の性別関係なし、人の生き方。
- \*健康になるためには、早寝で睡眠を取る。
- \*人まねではなく自分自身を生きる努力。

問 48 これからの社会で、男女が平等に生きる「男女共同参画社会」を実現するために、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【〇は3つまで】

n=540 (複数回答 3つまで)

### 男女共同参画社会の実現



- 男女共同参画の視点から法律や制度を見直す
- 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する
- 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
- 男女平等や相互理解・協力等について広報・PRする
- 保育や介護等のサービス等を充実する
- 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 特にない
- 未回答
- 国や地方公共団体の審議会委員や管理職等に女性を積極的に登用する
- 従来、女性が少なかった分野(研究者等)への女性の進出を支援する
- 男女平等や相互理解・協力等についての学習機会を充実する
- 労働時間の短縮や在宅勤務の普及等男女ともに働き方の見直しを進める
- 子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する
- その他
- わからない

「男女共同参画社会の実現」について最も多い回答は、男性は「労働時間の短縮や在宅勤務の普及等男女ともに働き方の見直しを進める」、「保育や介護等のサービス等を充実する」の13.3%、女性は「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」の17.5%であった。

次いで、男性は「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」の13.1%、女性は「労働時間の短縮や在宅勤務の普及等男女ともに働き方の見直しを進める」の13.4%と続く。

男女ともに、職場の環境整備の回答割合が高い傾向にある。

5年前との比較では、全体的に変わらず同じ傾向である。

●その他

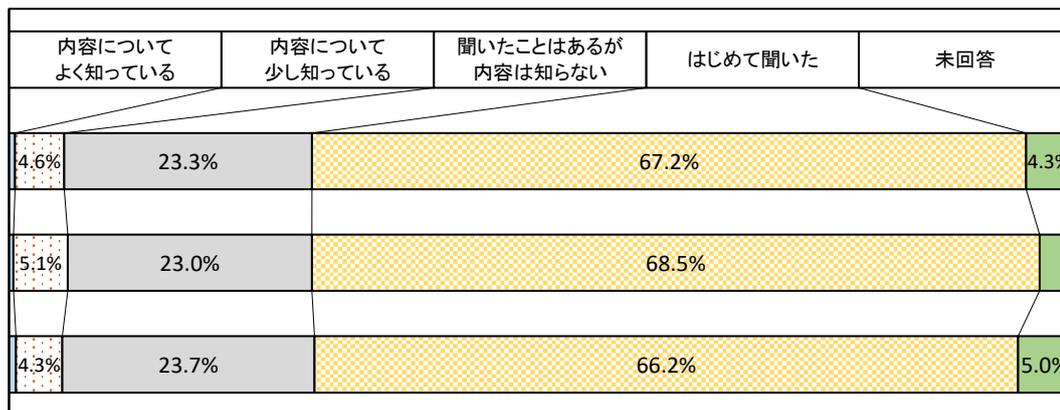
- \*たくさんの予算を計上する。
- \*男性優位の社会・考え方を何がおかしいのか学習する方法を考えて欲しい。
- \*むしろ全部。
- \*何でも行政をあてにしすぎる！自分を律し自分自身の意識向上を強める、教育支援を強める必要がある。
- \*出産・授乳以外の家事は男性の仕事と言う。
- \*民間、及び民間知識者を主体とした対策委員の審議を利用する。
- \*子育て、介護中であることが、昇給・昇格の妨げにならないよう制度で定める。
- \*そもそも企業の男女差別を無くすべき。
- \*男女共同作業と男女各々しか出来ない作業をよく話し合い、理解する事が必要ではないでしょうか？
- \*性差問わずその人個人の能力・事情等を考慮して社会活動・仕事等ができるのが当たり前の制度・法律を作ることに力を入れていくべきだと思います。
- \*男女平等でなく人が平等に生きていくことのために。
- \*1人暮らしでも仕事をして生活は大変です。そういう人達があります。手をさしのべてほしいと思っています。目を向けてほしいです。
- \*平等を追い求めるあまり不平等を招かぬ様注意する。

## 11.男女共同参画について

問 49 いわき市では「男女共同参画社会（性別にとらわれず個人が尊重され、生き生きと輝き、個性と能力を発揮できる社会）」を目指した取組みを行っています。その取組みに関する次の項目について、どの程度知っていますか。【○は項目ごとに1つずつ】

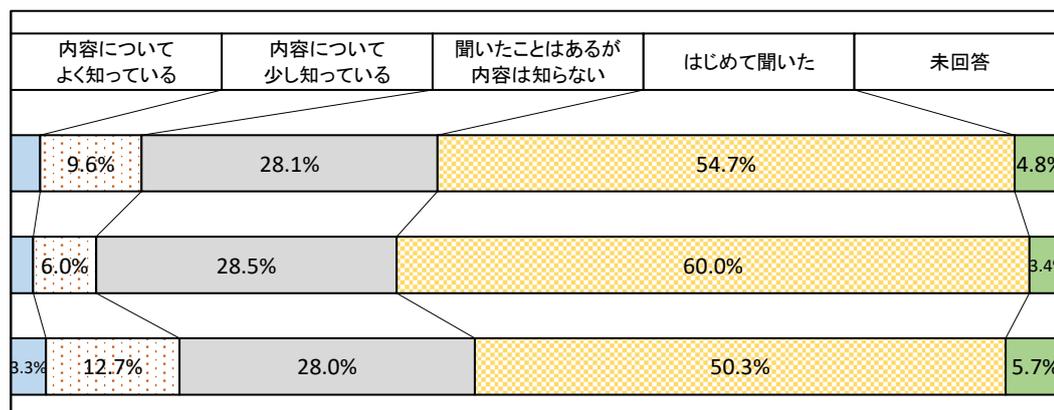
第三次いわき市男女共同参画プランの認知度

n=540



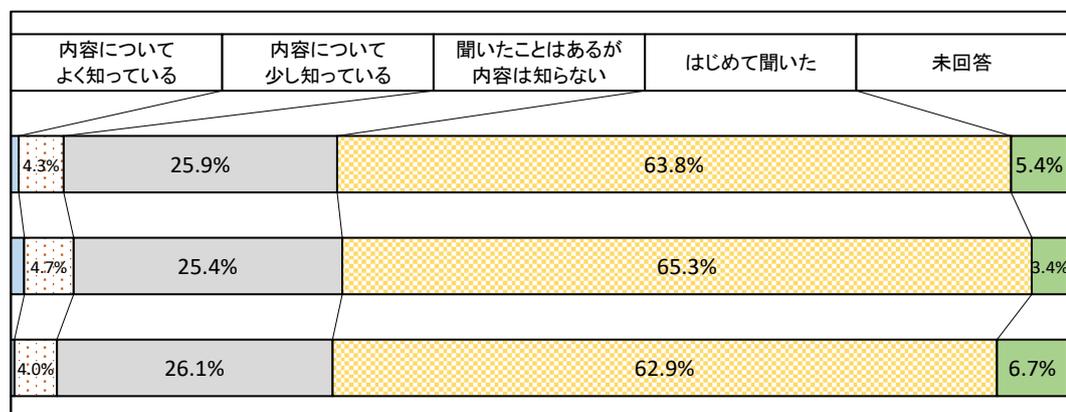
「Wing」の認知度

n=540

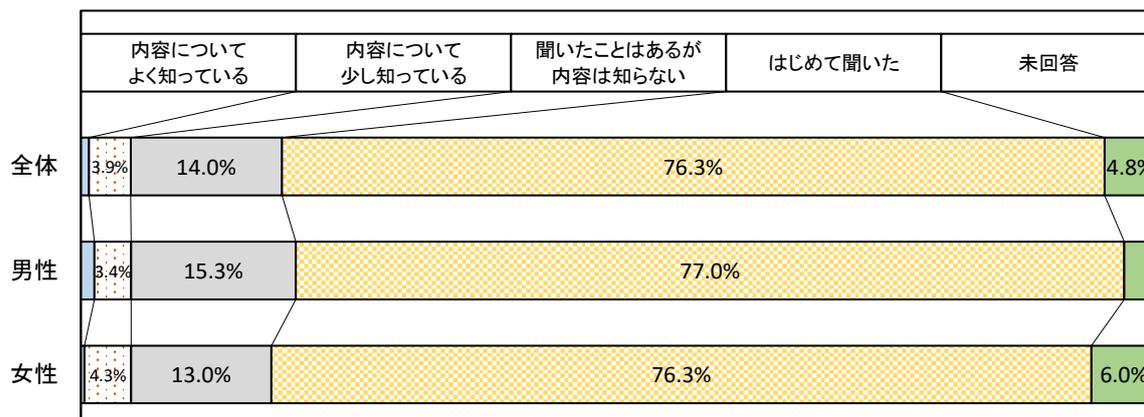


いわき市男女共同参画推進条例の認知度

n=540



## 男女共同参画の日の認知度



「第三次いわき市男女共同参画プラン」、「Wing」、「いわき市男女共同参画推進条例」、「男女共同参画の日」のそれぞれの認知度についての設問に対し、男女とも、「はじめて聞いた」の回答割合が最も多く、5割から7割を占めている。

その中でも「はじめて聞いた」の割合が最も多いのは、「男女共同参画の日」で男性の77.0%、女性76.3%となっている。

「内容についてよく知っている」（「内容について少し知っている」を含む）では、「Wing」で、女性の16.0%が最も多かった。

5年前との比較では、全体的に変わらず同じ傾向である。

## 12.自由意見・要望

### 1.いわき市への意見・要望

- 早急に働き方改革を行って欲しい。男女問わず家庭の事を考える時間を作って欲しい。
- 社会参加についての情報が少ない、特に定年後の。
- 赤ちゃん増やせる県：派遣社員→正社員（職業の安定）→結婚し易い？→赤ちゃん増やせる県。 ・男女関係無しに安定→国の仕事でしょうと思うけど・・・。
- 人が仕事する→税金→年金に反映？→若い人も税金を払う気持ちになるのでは！
- 私と同じく知らない人が多いんじゃないかな？もっともっと市民に積極的に伝えていかないと関心持たないと思います。知る人ぞ知るでは何時になっても進まないと思う。それと、女性が家庭を出ての事には、一番が夫を含め家族の理解が第一。それには、生活の安定無くしては無理だと思えます。それを女性が進んで出れば家庭は崩壊しかねない、女性はそのくらい家庭では大切な存在です。現実はそのようではないのですか？裕福な家庭で女性が社会に進んで参加してっての事ならいいのですけどね。その様ないわき市であって欲しいです。このアンケートの期待に添えるように皆様（関係方々）の力量をお願い致します。最後に若い夫婦家庭の共稼ぎは生活でいっぱい、老夫婦はやつの年金生活、私のまわりにはそんな方がいっぱいですよ。このアンケートが実ります様に。
- 施策を知らないのではなんとも言えない。広報頑張ってください。同性パートナーと縁組しようと市役所に行ったら「前例がないので保留」という返答をされました。いわき市は進展しないだろうなと思えました。お役人さん方にまず浸透させたほうがいいと思います。LGBTとか。はじめに受け付けしてくれた女性の方は真摯に対応してくれたけど、上司の女性が出てきて反故になったので、正直、行政に性別は関係ないと思います。
- 市での対応でよいのか？
- 市内での情報や情報誌、広報など回覧板などで発信しているようですが、アパート住まいなどで回覧板の回らない家庭などへの情報共有をどうするのか？
- 地域に根ざす場合は、中学、高校の授業にいわき市の問題をとり上げ討議させ、どうすれば解決できるか、誰がやるべきか、いつ、どの様に醸成させないと、地域の活性化が図れない。例えば、緑地へ花を植える、管理する。結果を見る等、地域のコミュニケーションをUPすれば、自然に分担や、やりがい生まれてくるのではないか。
- 子どもや育てる親に優しい市になって欲しいです。そのための政策をお願いしたいです。
- 地域による温度差というものがあると思います。これは地区のある考え方が根付いているものなので、中間山地は若者を受け入れる地盤ができていないこともあると思います。介護、子育てについて問うことがありましたが、平、小名浜等の便利な所、遠野、田人等の不便な所の差が大きいと思います。行政ではまかない仕切れない事は多くあると思いますが、いわき市モデルということが官民合わせて出来たら良いなと思います。

○市としての参画・取り組みに対して理解致します。しかし、一企業人として働く身としては、企業における束縛制約が大きいのが現実です。市内の企業を大きくまき込んでの改良ではなく改革を期待します。

○様々な価値観が尊重されはじめた現代は多様性の社会を迎えようとしている。そんな中で、男女という枠だけで施策を推進していくのは大変勿体ないと思う。個人個人の資質、能力を、その人の生涯を通じて発揮できるようないわき市を目指して、所要の施策を行っていただきたい。市役所の皆様、いつも大変ご苦勞様です。いつも感謝しています。

○私はこのアンケートに対して、よくわからない事があります。ただ自分にあてはまる事だけに○をつけました。このアンケートで大変な人達がたくさんいます。その中の一人が私です。車が無いため、自転車で仕事場に20分かけて行きます。20年いままの会社で仕事をさせていただいています。この先もがんばって仕事をしてねと言ってくれましたが、先の見えない人生が、生活の出来ない人生に不安でいっぱいです。アパートは古いです。お風呂は外で、家の中は地震の時に、かなりぼろぼろになりましたが、大家さんが直してくれませんが、住めるだけいいよねと言っているし、引っ越しをしたくても余裕がない。お給料は、8~9万の生活です。このアンケートの意味を聞いて、いろいろな人のために、手を差し出して来られる事を願っています。もっと小名浜の町がよくなってほしい。

○「いわき市」は全てにおいて中途半端な所だと思います。「男女共同参画社会」というのも目的がぼんやりしてよくわかりません。アンケートの内容もパッとしませんでした。

○①男女が出会う機会を作ってあげるイベントを増やす ②結婚することで市から支援をする様な体制 ③出産に対する援助金制度(人数に限らず) ④進学のために市を離れてしまわない様に市立大学の設立(会津大学みたいに市と大学が一体となる様な環境作りが理想) ⑤社会全体で子育てを支援する様な体制 ⑥子供がいても安心して働ける、児童館等の設備の拡充と運営時間の延長(現在17:00までなので18:00まで延長して欲しい)

→(男女共同参画の日)この日は主人と何をしたらよいのか考えます。

## 2. 仕事について

○①女性が安心して働ける環境が欲しい(孫が一人で学校から帰るようになって、道中見守りなどなく心配。)子育ての環境。②行政、地域の意識改善が必要。

○職場においては男女平等であるが、育児や介護の理由により男と同じように働けない事が多い。正規職員ではなくパート職員が多いのが現状である。女性が働きにくい!!

○男女平等と言ってもやはりそれぞれ向き不向きがあります。母乳がミルクと違うように!ある程度は仕方ないのでは?女性が家事をやる事に感謝の気持ちがあれば違います。当然だと思わない事!働き方改革→正規職員の休みばかりを増やし、パートは無。夏休み等の長期休暇も正規職員のみ、仕事は増えるばかりなのに残業はしないで早帰り奨励。人員削減して残った人が忙しい思いをしている。産休も育児休暇も大事ですが、やっぱり男性職員に長期に

休まれると困ります。残業が減って、人件費が減って会社だけがいい思いをして職員はいつも仕事に追われていきます。全く改革になっていません。男女共同参画と話はそれでしたが…。保育や介護の社会サービスの充実も大事ですが、親の手を借りるのも良いのでは？社会サービスはいざという時にすぐに役に立たないのが困ります。遠距離介護なのでショートステイ等の手続きに時間がかかりすぎです。

○男女共同参画社会を今回初めて聞きました。私は小学生が2人、子供がいるのですが小学校に入り子供の帰宅時間が早くて仕事をする時間を短くする事になってしまっています。学童の料金も1人1万円かかるのでとてもあずけられずにいます。夏休みなどの長期休みに入るとさらに困ります。学童が長期休みのみの受け付けはしていません。あずけることができなければ、子供だけで留守番もしくは、仕事を休むしかありません。もう少し学童を見直して欲しいです。

○女性が結婚、出産後も引き続き働くことのできる社会の実現、時短、フレックスタイムの導入。

○介護等で会社で働き続ける制度がない。時短勤務といっても時間設定されており、その制度では働けない。時間を自由に選択(設定)されるようであれば仕事を続けられる。なかなか規定をくつがえすことは難しく、仕方なく辞めていく女性の先輩も多い。企業への働きかけをお願いしたい。私自身も定年前に辞めなくてはならない予定。

○・年配者の意識改革　・保育制度の充実　働きながらあずけられる保育園←現状預けている保育園は、「1週間外遊びなし」「朝も夕方もTVばかり」「おやつは市販のお菓子」など全く教育方針があわない。けど、働きつづけるために、しかたなく、上述の保育園に通わせている。保育園をかえられる保証もなく、仕事をやめようかと考えることがある。

### 3. 男女共同参画について

○今回のアンケートで男女共同参画について考えるきっかけになりました。

○男女共同参画について、いわき市で実施していることのほとんどが市民に伝わっていないと思う。もっと市政でも大きく取り扱っていかないと市の本気度が伝わらず、いつまでたっても市民に浸透していかないと思う。

○男女共同参画を実現させるには、幼少期からの教育が大切かと思います。大半が興味関心が無いのが現実だと思います。

○プランの件も知らなかったし、アンケート内容もタテマエ的にしか見えてこない。今後の行政の取り組み方に期待します。

○男女共同参画の事はアンケート調査で始めて知りました。いろいろと勉強になりました。ありがとうございました。

○色々な場での男女平等を目指す活動なのかな？とは認識していますが、正直よくわかりません。一般人には馴染みない内容かなと思いました。もっと分かりやすい説明だとよいです。

- 成人式等で男女共同参画の資料を入れる。
- 男女共同参画については全然知識がありません。もっと施策等をPRして下さい。私は77才ですので、今の知識は良く理解出来ません（体力的に自信がありません）。
- 男女共同参画の取組みについて初めて聞いたのですが、これだけ内容が認識されていない。必要性も強く感じられていないという事が問題ではないでしょうか。
- 共同参画で何、何をしている所？という方が多いと思います。誰にでもわかるように、風通しのよいようにしていただけたらと思います。
- 自分も含めてもっと男女共同参画に積極的に取組をしたほうが良いと思います。
- 「wing」が回覧板で回ってくるのは知っていたが。内容を読むまでのゆとりがない。
- 市が発行する立派な情報誌ウィングは毎回見ていました。大分お金がかかっているのだろうなと思っていました。誰でも見て判るようにもう少し易しい文章で発行できたらと思います。
- 今回のアンケート調査で、この施策がとても大切な施策だと思いました。第四次プランでは、全てのいわき市民が「男女共同参画社会」の内容についてよく知っているという回答出来る様に、広報よろしくをお願いします。

#### 4. 女性活躍推進について

- 女性が社会に活躍するには、子育て支援の充実と（病利保育等）、介護支援の充実が必要です。子育て支援で保育園、幼稚園が他市と比べて高額です。働いても保育料でお給料がなくなってしまうのでは、女性の社会進出はかなりむずかしいと思われます。
- どちらかと言うと、子育ては母親という考え方がまだまだある。仕事でも子供の急病で父親が仕事を休むと言うのはあまりきいたことがない。もっともっと、会社も父親を休めるような環境づくりをしてほしい。そして、女性も、もっと社会で活躍してほしいと考えているならば、子供を安心して預けられる施設を増やしていくべき！
- 現在の男性中心の社会に適応できる女性の活躍では意味がないと考えている。真の男女共同参画社会を実現するために実効性のある施策を粘り強く進めていただきたい。
- 単純に意見します。このアンケートの内容もそうですが、女性が社会で活躍するにはとか、女性目線の問いが多く感じられます。女性をもっと良き待遇をうけるべきだとは非常に思いますが、その裏で、協力したい男性が、協力できない社会だというのも、わかっていたかいたいです。例えば、男が子育てで重視できない会社⇒評価が下がる、だから妻にまかせる⇒女性の負担が増える⇒女性が全力で働けないではないでしょうか？昔よりも今の男性は、子育てに家事に積極的に感じます。男は仕事！の概念を変えないと厳しいと思います。
- 性別関係なくその人個人の意欲・能力・事情等を思慮した上で、適材適所で活躍するのが当たり前前の社会制度を作り、市民もそれが当たり前と思うことが重要だと思います。そのため

には一般的で、社会参加意欲のある女性を、男女共同参画社会を目指した取り組みを行っている所の中枢部に送り込んでみるのが効果的だと思います。育児をする男性、家事をする男性がもてはやされる風潮づくりも大切だと思います。そのためには男性も育休をとれる法律・制度を整備充実させることが必要だと思います。

○男女平等にする意味はあるのでしょうか。家庭内での男女平等には意味があると思いますが、昇格したくない責任のある立場になりたくないという女性の声をよく聞きます。女性管理職のパーセンテージを上げるために、無理矢理、女性を管理職にするのは違うと思います。事務分担は女性のほうが軽いです。それについては不満はないですが、やったことのない仕事を管理職についてから指導していくのは、とても厳しいと思います。よって若いうちから男性と同様の事務分担にするべきですが、それも将来管理職に就きたいやる気のある女性に限ると思います。日本の女性はお金持ちの男性と結婚して専業主婦になることが夢である方が多いように感じます。

○女性の数が少ないといって無理にその分野の女性の数を増やすべきではないと考えます。例えば、工場で肉体労働メインに就業したいという本人の意思があるなら良いですが、実際、パートナーを組んだ際の男性側の負担が重くなり、結局敬遠されよい方向に進むとは思えません。女性が活躍したい分野で自由に活躍できる社会を望みます。何かの意思で不自然に増やそうとすることは反対です。

○女性が社会で活躍しやすい職場が増えるといいと思う。

## 5. 男女平等について

○市の女子の管理職を男子と平等にして、女子の能力（目線）により行政を活性化して下さい。まず行政から男女共同参画の見本を示す。

○若い年齢ほど、認識があると思います。

○総合的に判断すると、まだまだ女性の地位は低く、行政が働きかけても単なるパフォーマンスにしか感じません。少しでも向上させていきたいのならば、本気で実施していただきたい。

○こういったアンケートそのものが無くなって初めて、男女平等と言える社会と言えるのでしょうか。「女性初の～」という取り上げ方が無くなって初めて、男女平等と言えるのでしょうか。そうなる日がきている間に来るのか甚だ疑問です。世界共通の問題なのでしょうから。

○まだまだ男女とも偏見や理解を出来ていない人が多い。その部分をいかにわかってもらうことに大変さを感じます。自分自身もスキルアップできたらと感じました。

○男性、女性共に、意識の改革が重要と思います。

○市でこのような取り組みが行われていることを初めて知りました。いわきでは、まだまだ性別にとられる思考の方が多いと感じています。また、普段の生活の中でも男女の役割の考えが根強く残っている感じています。男性と女性を性別で判断するのではなく、一人の人間

としてそれぞれの人生を楽しく、充実して過ごせるような社会になればいいと思います。少なからず、こういった取組には協力していきたいと思っております。

○今後のため、学校単位での教育。

○正直初耳であった。私は20代後半であるが、同世代には男女差を感じる環境というものは減ったと感じるヒトが多いと思う。個人的意見ではあるが、過度に女性を優遇させてしまっただけでは、男性も女性にもいいものではないと思う。身体的事象や身の安全という面や、社会的地位等で女性が不利になっていると感じるところから平等になると良いと思います。

○男女で考えることも大切ですが人が平等に扱われることも大切と思います。(年齢、学歴、家柄、国籍、等)

○女性の社会進出推進のため、女性を優遇しすぎて不利益を生じる男性がいてはいけない。本当の男女平等を希望します。

○経済の発展と共に生活環境は変わっているのに意識は変わらず、子育てしにくい母親に厳しい社会であると感じます。少子高齢化を嘆きながらも女性鞭を打つような日本の政策に不信感を抱いてしまいます。未来ある若者達のためにも、今尚残っている男尊女卑的な意識を改革し、年齢性別関係無く生き活きと暮らせる社会になることを心より祈っております。

○平等を語る時は注意が必要である。平等とは同一にすることではない。時には不平等を容認することである。つまり平等を体現するには、場合分けが必要であると言う事である。そこで問題となるのが、その不平等をいかに合理的かつ客観的に示せるかである。それはこれまでマンパワーによっていた判断基準をAIを初めとしたサイエンスパワーが一翼を担ってくれる事によって、男女共同参画社会は具現化するだろう。ただし冷徹なまでに客観性を帯びるので逆に息苦しさをを感じる人が出るかもしれない。あたかも防犯カメラやドライブレコーダーに囲まれた社会の様である。しかしそれが現実である。一方、そこまでの担保が無ければ男女平等だのダイバーシティだのは成り立たないだろう。それは例えどんなに理想に燃えた人間でも心変わりや変貌する事は有りゆるし、増してカルト思想にかぶれた人間を善意な人間と同一にする事は危険だからである。ここまで内容が多少マニアックになってしまったが、これからのリーダーはこれ位の事は当然の如く理解しているからである。一口に多様性を認めると言うが、それは、これまでのシステム(法律、風習、制度等を変えることでもあつた)。そこまでして、取り入れなければならないのかも含め、リーダーは舵取りを求められるだろう。もちろんそのリーダーが無能だったりカルト人だったりすれば、事態は悪化するのみである。最後にこの論者は将来的にいわき市民であるかは不明だが、考え方を述べさせてもらった。いわき市の取り組みが世界基準にならないとも言えない。どうか真理追求を土台として、地道に民を正しい方向へ導き下さい。

○男女平等と言いますが、体も脳のつくりも違います。それぞれ得意な分野で活躍できるような仕組みが理想と考えます。

○日本の男性は、未だに外で働いているほうが偉い、賃金が高い方が仕事優先的な考えを持っている人が多いように思う。そのような男性の意識改革をしなければ、いくら法的に整備さ

れても、何も変わらないと思う。意識改革のために研修を設けても、本人が参加しなければ意味がないので、企業で男女共同参画について講習会などを開き、社員は全員受講を義務にするなど、個人の考え方を変える必要があると思う。

## 6. その他

- いわき市がもっとももっといろんなことで良くなるのでしたらとアンケートに参加しましたが、はじめてのことでわからない部分もありますが、今の意見として協力致しました。
- いわきの「かかあ天下」（漁業や炭鉱）風土の掘り起こしとPR
- 90才女性。若い人達におまかせします。
- 男女とも若い年代から政治への意見を述べたり、考えたりする機会をもっと持たせた方がよい。
- 私は高齢でもあり行政になるだけ参加して、長生きをして生活していきたい。
- 何をもとにこのアンケートが来たのかわからないがもっと若い世代に送るべきだと思う。
- 80代の老人男性には答えにくいアンケートである。就労している現役の世代を対象にアンケートして欲しい。
- いわきへ引っ越してきてよく解りませんが…、これからも頑張って下さいませ。
- 子供の地域活動ができる場が少なく、どちらかというと大人の活動の場が多く、よその地域から比べると大変遅れていると思います。
- 男女共同参画に関する意見ですが高齢者にはむずかしい質問です。若い人に任せてがんばって下さいネ。
- 問 49（男女共同参画社会の取組みの認知度）push型の取組みは共感できません。欧米のように自然にあたりまえに実現できているような環境整備に力を注いで欲しいと考えます。
- 漢字だけの政策だと、敬遠しがちなので子供でもわかるネーミング、小さい頃から聞いた事があれば大人になってしっかりした内容がわかるのではないか。
- ご苦労様です。アンケートの集計を公表し政策に反映されることを期待しています。

# 男女共同参画に関する市民意識調査 調査票

## — アンケート調査へのご協力をお願い —

市民の皆様には、日頃より市政へのご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。ごぞいます。

いわき市では、男女共同参画社会の実現に向けて、平成 28 年度に「第三次いわき市男女共同参画プラン」を策定し、さまざまな取り組みを行っているところでありますが、計画期間が令和 2 年度（令和 3 年 3 月）で終了することに伴い、第四次プランを策定することとしております。

第四次プランの策定にあたり、市民の皆様（いわき市にお住まいの 20 歳以上の方から、2,000 人を無作為に抽出）の男女共同参画に関する意識や問題点、考え方等についてお伺いし、第四次プランに反映させたいと考えております。

なお、ご回答いただいた内容は、統計的な処理以外には使用しませんので、回答者の方が特定されることは決してありません。

つきましては、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年 8 月                      いわき市長 清水 敏男

### ご回答にあたってのお願い

- 1 回答される方の氏名や住所を記入する必要はありません。
- 2 設問に対し、あてはまる選択肢の番号や数字を○印で囲んでください。  
(設問により記入していただく箇所もあります)
- 3 「その他」を選択した場合は、( ) に具体的な内容を記入してください。
- 4 この調査は、(株)いわきテレワークセンターに委託しています。回答が終わりましたら、返信用封筒（切手不要）に入れ、投函してください。

**回答期限 : 令和元年 8 月 23 日 (金)**

### 【 お問い合わせ先 】

いわき市 市民協働部 男女共同参画センター  
〒973-8408 いわき市内郷高坂町四方木田 191  
TEL:0246-27-8694 FAX:0246-27-8641





1. あなた自身のことについてお伺いします。2. あなたの普段の生活についてお伺いします。

問 12 家庭における役割分担について、あなたの現状に一番近いものは何ですか。

【ア～ケの項目ごと数字に○を1つつつ】

	全部している	ほとんどしている	半分くらいしている	一部している	全くしていない	該当なし
ア 食事の準備	5	4	3	2	1	
イ 食事の後片付け	5	4	3	2	1	
ウ 掃除	5	4	3	2	1	
エ 洗濯	5	4	3	2	1	
オ 買い物	5	4	3	2	1	
カ 家計の管理	5	4	3	2	1	
キ 子育て ※	5	4	3	2	1	0
ク 介護・老親等の世話 ※	5	4	3	2	1	0
ケ 地域での行事等への参加	5	4	3	2	1	

※ 子育てや介護の対象となる人がいない場合は、「該当なし」の欄に○を付けてください。

問 13 あなたのまわりでは、男女の地位は平等になっていると思いますか。

【ア～キの項目ごと数字に○を1つずつ】

	優遇されている 男性のほうが	優遇されている 男性のほうが どちらかといえば	平等である	優遇されている 女性のほうが どちらかといえば	優遇されている 女性のほうが	わからない
ア 家庭において	5	4	3	2	1	0
イ 職場において	5	4	3	2	1	0
ウ 学校教育の場において	5	4	3	2	1	0
エ 政治の場において	5	4	3	2	1	0
オ 自治会等の地域活動の場において	5	4	3	2	1	0
カ 法律や制度において	5	4	3	2	1	0
キ 習慣やしきたりにおいて	5	4	3	2	1	0

問 14 あなたの生活において、現実として優先しているものは何ですか。

また、理想として優先したいものは何ですか。【○は項目ごとに3つまで】

現実	理想
① 仕事	① 仕事
② 家族や家庭生活	② 家族や家庭生活
③ 個人の時間	③ 個人の時間
④ 地域活動や社会参加	④ 地域活動や社会参加

3. 結婚や出産についてお伺いします。

問 15 結婚、離婚、出産について、どのように思いますか。

【ア～オの項目ごと数字に○を1つずつ】

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらともいえない	そう思わない どちらかといえば	そう思わない	わからない
ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	5	4	3	2	1	0
イ 女性は結婚したら、自分のことよりも、夫や子どもを中心に生活したほうがよい	5	4	3	2	1	0
ウ 結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい	5	4	3	2	1	0
エ 今の社会では、離婚すると女性のほうが不利である	5	4	3	2	1	0
オ 結婚しても、子どもを持たなくてよい	5	4	3	2	1	0

問 16 全国的に出生数が減少していますが、その理由は何だと思えますか。

【○はあてはまるもの全て】

① 子どもの教育にお金がかかる	⑧ 趣味を大切にしている人が多い
② 結婚しない人が多い	⑨ 育児に心理的、肉体的な負担がかかる
③ 育児の負担が女性にかかる	⑩ 仕事をしながら子育てするのが難しい
④ 経済的に余裕がない	⑪ その他 ( )
⑤ 結婚年齢が上がっている	⑫ わからない
⑥ 家が狭い	
⑦ 子どもはほしくないと考えている人が多い	

4. 子育てについてお伺いします。

問 17 自分の子どもにはどこまでの教育(最終学歴)を受けさせたいと思いますか。

(お子さんがいない方、お子さんが既に学校を卒業された方は、ご自分に  
 小さなお子さんがいると仮定してお答えください。)【○は項目ごとに1つずつ】

子どもが <u>女の子</u> の場合	子どもが <u>男の子</u> の場合
① 中学校	① 中学校
② 高等学校	② 高等学校
③ 専門学校	③ 専門学校
④ 短期大学	④ 短期大学
⑤ 高等専門学校	⑤ 高等専門学校
⑥ 大学	⑥ 大学
⑦ 大学院	⑦ 大学院
⑧ その他 ( )	⑧ その他 ( )
⑨ わからない	⑨ わからない

問 18 あなたは、男女平等意識を高めるために、学校教育で必要なことは何だと

思いますか。【○は3つまで】

① 進路指導や職業教育について、男女を問わず児童・生徒個人の希望や能力を重視して行う
② 特別活動やクラブ活動等の役割分担について、男女を問わず児童・生徒個人の希望と能力を重視する
③ 児童・生徒に対し、人権や男女平等に関する教育を充実させる
④ 教員に対し、人権や男女平等に関する研修を充実させる
⑤ P T A等の会合等を活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行い、男女平等意識を醸成しやすい生活環境をつくる
⑥ 女性の校長や教頭を増やすことにより、児童・生徒の男女平等意識を高める
⑦ 学校のクラス名簿に男女混合名簿の導入を推進することなどによって、児童・生徒に男女の隔たりを感じさせないようにする
⑧ その他 ( )
⑨ 今のままでよい
⑩ わからない



**問 23 女性が仕事をする事について、どのように思いますか。【○は1つだけ】**

- ① 生涯にわたり、仕事をするのがよい
- ② 結婚するまでは、仕事をするのがよい
- ③ 子どもができるまでは、仕事をするのがよい
- ④ 家族の介護が必要になるまでは、仕事をするのがよい
- ⑤ 子育てや家族の介護が必要でない時期だけ、仕事をするのがよい
- ⑥ 仕事はしないほうがよい
- ⑦ その他 ( )
- ⑧ わからない

**問 24 結婚した男女(夫婦)がともに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。【○は3つまで】**

- ① 職場における昇進や賃金等の男女平等の確保
- ② 男女とも育児休業・介護休業等を容易に取得できる職場環境の整備
- ③ 労働時間の短縮や在宅勤務等、柔軟な勤務形態の導入
- ④ 保育施設や放課後児童クラブ(学童保育)等、保育サービスの充実
- ⑤ 訪問介護や通所介護等、介護サービスの充実
- ⑥ 家事や子育て等の役割分担等、家族の理解
- ⑦ 女性自身の働き続けることに対する意識や意欲の向上
- ⑧ その他 ( )
- ⑨ 特に必要なことはない
- ⑩ わからない

**6. 女性の活躍推進についてお伺いします。**

**問 25 男女共同参画社会では、男女が社会の対等な構成員として、ともに社会のあらゆる分野において活動し、ともに政策や方針の決定に参画していくことが求められていますが、女性が社会に進出していくことについて、どのように思いますか。**

**【○は1つだけ】**

- ① 能力とやる気があれば、どんどん社会進出するべき
- ② 社会進出のための条件が整っていないので、条件整備を図るべき
- ③ 女性は社会進出をするべきではない
- ④ その他 ( )
- ⑤ わからない



**問 29 女性が社会で活躍するためには、どのような必要なことは何だと思いますか。**

**【○はあてはまるもの全て】**

- ① 男性や家族の家事・育児・介護参加
- ② 女性が就業をすることに対しての家族の理解と協力
- ③ 保育サービスの充実
- ④ 福祉施設や介護サービスの充実
- ⑤ 子育てや介護以外の家事サービスの充実
- ⑥ スキルアップに向けた研修や就職相談、就職しやすい整った環境
- ⑦ 起業をする際の相談や情報が容易に取得できる環境
- ⑧ その他 ( )

**問 30 女性が職場で活躍するためには、どのようなことが必要なことは何だと思いますか。**

**【○はあてはまるもの全て】**

- ① 女性の積極的な採用
- ② 女性に対し管理職や責任ある業務への積極的登用
- ③ トップが女性活躍推進に積極的であること
- ④ 上司等の女性労働に関する理解
- ⑤ 時間外勤務の抑制や勤務時間の柔軟性の確立
- ⑥ 身近な女性の活躍（刺激）
- ⑦ 性別にとらわれない仕事の割り振り
- ⑧ 職場の環境の整備（柔軟な働き方等）
- ⑨ 能力向上のための職員研修の充実
- ⑩ 育児・介護との両立を支援する制度の充実
- ⑪ 仕事が適正に評価されること
- ⑫ 仕事の内容にやりがいがあること
- ⑬ その他 ( )

**7. 地域社会についてお伺いします。**

**問 31 現在あなたは、どのような地域活動に参加していますか。【○はあてはまるもの全て】**

- ① 子ども会やPTA等の活動
- ② 自治会や町内会等の活動
- ③ 女性団体の活動
- ④ 政治活動や労働組合活動
- ⑤ 国際交流の活動
- ⑥ ボランティアやNPO等の活動
- ⑦ 趣味やサークル等の活動
- ⑧ その他 ( )
- ⑨ 参加している活動はない

問 32 問 31 で「①～⑧」に○を付けた方に伺います。

地域活動に参加している理由は何ですか。【○は3つまで】

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| ① 時間的に余裕がある   | ⑦ 地域の人と交流を図りたい   |
| ② 家に閉じこもりたくない | ⑧ 社会貢献をしたい       |
| ③ 自分自身を向上させたい | ⑨ 義務で参加しなければいけない |
| ④ 特技や経験を活かしたい | ⑩ 仕事に繋がる         |
| ⑤ 活動の趣旨に共鳴した  | ⑪ その他 ( )        |
| ⑥ 友人等に誘われた    |                  |

問 33 問 31 で「⑨ 参加している活動はない」に○を付けた方に伺います。

地域活動に参加していない理由は何ですか。【○は3つまで】

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| ① 仕事が忙しい     | ⑦ 人間関係がわずらわしい    |
| ② 参加する仲間がない  | ⑧ 健康や体力に自信がない    |
| ③ 活動の場が身近にない | ⑨ 自分に合った活動がない    |
| ④ 経済的な余裕がない  | ⑩ 家庭の理解や協力が得られない |
| ⑤ 面倒         | ⑪ 時間的に余裕がない      |
| ⑥ あまり関心がない   | ⑫ その他 ( )        |

問 34 あなたがお住まいの地域で、男性と女性を差別するような習慣やしきたりは

あると思いますか。【○は1つだけ】

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| ① あると思う | ② ないと思う | ③ わからない |
|---------|---------|---------|

問 35 問 34 で「① あると思う」に○を付けた方に伺います。

その習慣やしきたりは、具体的にどのようなことですか。(内容をお書きください。)




問 39 もし、あなた自身が介護を要する状態となった場合、どのように介護してほしいですか。また、主に誰に介護してほしいですか。【○は項目ごとに1つずつ】

介護方法	① 行政や外部のサービスに頼らず自宅で介護してほしい ② 訪問介護等の在宅福祉サービスを利用しながら自宅で介護してほしい ③ 介護老人福祉施設等の入所施設で介護を受けたい ④ その他 ( ) ⑤ わからない
介護者	① 主に配偶者に介護してほしい ② 主に子（女性）に介護してほしい ③ 主に子（男性）に介護してほしい ④ 主に子の配偶者（女性）に介護してほしい ⑤ 主に子の配偶者（男性）に介護してほしい ⑥ 自宅では介護されたくない ⑦ その他 ( ) ⑧ わからない

9. 男女の人権についてお伺いします。

ハラスメントやDVを受けた嫌な体験を思い出させてしまい申し訳ありませんが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご回答いただければ幸いです。

問 40 あなたは、ハラスメント(セクハラやパワハラ、マタハラ等)を受けたことや、身近で見聞きしたことがありますか。【○は1つだけ】

① 受けたことがあります、誰かに相談した ② 受けたことはあるが、誰にも相談しなかった ③ 受けたことはないが、身近で見聞きしたことはある ④ 受けたことや、身近で見聞きしたことはない ⑤ わからない
--

※ハラスメント

他者に対する発言・行動等が本人の意思には関係なく、相手を不快にさせたり、尊厳を傷つけたり、不利益を与えたり、脅威を与えること。

**問 41 あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。【○は1つだけ】**

- ① 受けたことがあり、誰かに相談した
- ② 受けたことはあるが、誰にも相談しなかった
- ③ 受けたことはないが、身近で見聞きしたことはある
- ④ 受けたことや、身近で見聞きしたことはない
- ⑤ わからない

※ドメスティック・バイオレンス

略して「DV」と呼ばれることもある。同居の有無に関わらず、配偶者や恋人、事実婚や内縁関係の相手、元夫婦などの近親者から受ける暴力。身体的暴力のみならず、精神的・性的・経済的な暴力や社会的隔離等、近親者間の暴力を幅広く意味する。

**問 42 問 40 又は問 41 で「① 受けたことがあり、誰かに相談した」と回答された方に伺います。どこに(誰に)相談しましたか。**

**【○はあてはまるもの全て】**

- ① 友人・知人・家族
- ② 職場の同僚や相談窓口
- ③ 警察
- ④ 弁護士
- ⑤ 市の行政機関（地区保健福祉センター、市民相談等）
- ⑥ 県の行政機関（労働委員会、女性のための相談支援センター等）
- ⑦ 国の行政機関（法務局、労働基準監督署等）
- ⑧ NPO 等の活動団体
- ⑨ 民生委員
- ⑩ その他（ )

**問 43 問 40 又は問 41 で「② 受けたことはあるが、誰にも相談しなかった」と回答された方に伺います。相談しなかった理由は何ですか。【○はあてはまるもの全て】**

- ① 身近に相談できる人がいなかった
- ② 相談窓口が分からなかった
- ③ 相談しても無駄だと思った
- ④ 相談したことが分かると思返しされると思った
- ⑤ 相談することで自分が不快な思いをすと思った
- ⑥ 自分さえ我慢すればいいと思った
- ⑦ 恥ずかしかった
- ⑧ 相談して他人を巻き込むのが嫌だった
- ⑨ 相談するほどのことではないと思った
- ⑩ その他 ( )

**問 44 あなたは、LGBTなど性的少数者(セクシャル・マイノリティ)の方に関して、どのような意識啓発や、支援が必要だと思いますか。【○は5つまで】**

- ① 相談できる窓口の設置
- ② 気持ちや情報を共有できる居場所づくり
- ③ いじめや差別を禁止する法律や条例の制定
- ④ 行政職員や教職員に対する研修の実施
- ⑤ 企業等に対する啓発活動の実施
- ⑥ 地域住民に対する啓発活動の実施
- ⑦ 幼少期からの教育の充実
- ⑧ 更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮
- ⑨ 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行
- ⑩ 同性同士のパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと
- ⑪ 必要だと思わない
- ⑫ わからない
- ⑬ その他 ( )

※性的少数者（セクシャル・マイノリティ）

同性愛者、両性愛者、トランスジェンダーやその他の多様な性自認や性的指向を持つ人のことです。

LGBT（エルジー・ビー・ティー）とは、性的少数者の一部で、L（レズビアン：女性の同性愛者）、G（ゲイ：男性の同性愛者）、B（バイセクシャル：両性愛者）、T（トランスジェンダー：性同一性障害・性別違和など）の頭文字を合わせた言葉で、あくまでも性的少数者をあらわす総称の一つとして使われています。

10. 防災についてお伺いします。

問 45 防災(復興を含む)活動に関して、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。【○は3つまで】

- ① 防災会議等の委員への積極的な女性の登用
- ② 防災訓練等への積極的な女性の参加
- ③ 女性団体に対して訓練や研修を実施
- ④ 女性の消防職員や消防団員の育成
- ⑤ 自主防災組織における積極的な女性の参加や活動
- ⑥ 女性や乳幼児等に配慮した避難所設備の確保
- ⑦ 女性や乳幼児等に配慮した防災マニュアルの整備
- ⑧ その他 ( )
- ⑨ 特に必要なことはない
- ⑩ わからない

11. 社会参加についてお伺いします。

問 46 これからの社会で、男性が女性とともに家事や地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【○は3つまで】

- ① 男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗をなくす
- ② 男性が家事等に参加することに対する女性自身の抵抗をなくす
- ③ 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- ④ 年配者や周囲が当事者の考え方を尊重する
- ⑤ 社会の中で、男性による家事等の評価を高める
- ⑥ 労働時間の短縮や休暇制度の普及を図る
- ⑦ 男性が家事等への関心を高めるような啓発・情報提供を行う
- ⑧ 男性の家事等の技能を高める研修を行ったり、ネットワークづくりを進める
- ⑨ 家庭や地域活動、仕事との両立について男性が相談しやすい窓口を設置する
- ⑩ その他 ( )
- ⑪ 特に必要なことはない
- ⑫ わからない

**問 47 男女が生涯にわたり心身ともに健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。**

**【○は3つまで】**

- ① 思春期、青年期、更年期、老年期に合わせた健康づくりの推進
- ② 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の充実
- ③ 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備
- ④ 性生活について主体的・総合的に判断する力をつけること
- ⑤ 女性専用外来の設置等に代表される、性差医療の充実
- ⑥ 妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供
- ⑦ 職場等でのメンタルヘルス体制の充実
- ⑧ その他 ( )
- ⑨ 特にない
- ⑩ わからない

**問 48 これからの社会で、男女が平等に生きる「男女共同参画社会」を実現するために、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。【○は3つまで】**

- ① 男女共同参画の視点から法律や制度を見直す
- ② 国や地方公共団体の審議会委員や管理職等に女性を積極的に登用する
- ③ 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むように支援する
- ④ 従来、女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
- ⑤ 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
- ⑥ 男女平等や相互理解・協力等についての学習機会を充実する
- ⑦ 男女平等や相互理解・協力等について広報・PRする
- ⑧ 労働時間の短縮や在宅勤務の普及等、男女ともに働き方の見直しを進める
- ⑨ 保育や介護等のサービス等を充実する
- ⑩ 子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する
- ⑪ 子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- ⑫ その他 ( )
- ⑬ 特にない
- ⑭ わからない







令和元年度

# 男女共同参画に関する 市民意識調査報告書

令和元年 11 月

いわき市 市民協働部 男女共同参画センター

〒973-8408 いわき市内郷高坂町四方木田 191

TEL 0246-27-8694